

マニュアルの使いかた

S7シリーズと2100シリーズに共通の説明書です。
ご購入のモデルに応じた部分をお読みください。

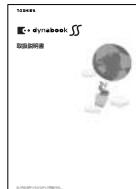
安心してお使いいただくために

- パソコンをお取り扱いいただくための注意事項
ご使用前に必ずお読みください。



取扱説明書（本書）

- Windowsのセットアップ
- 基本機能
- モバイル活用法
- 周辺機器の接続
- Q&A集
- 再セットアップ



オンラインマニュアル

- アプリケーションの紹介
- こんなことがしたい
- 困ったときは
- 用語集

本製品の電源を入れた状態でデスクトップの [オンラインマニュアル] アイコンをダブルクリックするとご覧になります。



リリース情報

- 本製品を使用するうえでの注意事項など
必ずお読みください。

本製品の電源を入れた状態で [スタート] → [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報] をクリックするとご覧になります。

もくじ

マニュアルの使いかた	1
もくじ	2
はじめに	6

1章 セットアップ

11

1 パソコンの準備	12
① 電源コードと AC アダプタを接続する	12
② 電源を入れる	13
2 Windows のセットアップ	14
① セットアップの前に	14
② Windows XP Pro のセットアップ	16
3 ユーザ登録をする	23
① 東芝へのユーザ登録	23
② その他のユーザ登録	24

2章 電源を入れる／切る

25

1 電源を入れる	26
2 電源を切る	30
3 パソコンの使用を中断する／電源を切る	31
① スタンバイ	32
② 休止状態	33
③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する	34

3章 本体の機能

37

1 各部の名前	38
2 キーボード	44
① キーボード図	44
② キーを使った便利な機能	47
③ 日本語を入力するには	51
3 タッチパッド	52
① タッピング	53
② タッチパッドを無効／有効にするには	53
4 ディスプレイ	55
5 サウンド機能	57
6 LAN 機能	58
① ケーブルを使った LAN 接続（有線 LAN）	58
② ケーブルを使わない LAN 接続（無線 LAN）	58
③ ネットワーク設定に便利な機能	68
7 内蔵モデム	72

4章 周辺機器の接続

75

1 周辺機器について	76
2 PC カードを使う	77
3 SD メモリカードを使う	80
4 USB 対応機器を接続する	85
5 CRT ディスプレイを接続する	87
6 メモリを増設する	89

5章 バッテリ駆動

93

1	バッテリについて	94
①	バッテリ充電量を確認する	95
②	バッテリを充電する	98
③	バッテリパックを交換する	101
2	省電力の設定をする	102
3	大容量バッテリパックを使う	107

6章 システム環境の変更

111

1	システム環境の変更とは	112
2	東芝HWセットアップを使う	113
3	BIOSセットアップを使う	117
①	起動と終了	117
②	画面と基本操作	119
③	設定項目	120
4	パスワードセキュリティ	130
①	ユーザーパスワード	131
②	スーパーバイザパスワード	138
③	HDD パスワード	138

7章 困ったときは

143

1	トラブルを解消するまで	144
①	トラブル解消に役立つ操作	146
2	Q&A集	148

8章 再セットアップ

177

1	再セットアップする前に	178
①	再セットアップが必要なとき	178
②	準備	178
③	リカバリ CD について (2100 シリーズ)	179
2	再セットアップする	180
①	再セットアップ (S7 シリーズ)	180
②	東芝推奨ドライブでの再セットアップ (2100 シリーズ)	183
③	東芝推奨ドライブ以外での再セットアップ (2100 シリーズ)	186
④	パーティションの設定	189

9章 こんなときは

191

1	アフターケアについて	192
2	廃棄・譲渡について	193
①	バッテリパックについて	193
②	パソコン本体について	193
③	ハードディスクのデータ消去	194
3	アプリケーションについて	198
①	複数のユーザで使用する場合	198
②	アプリケーションを再インストールする	199
③	アプリケーションの問い合わせ先	200

付録

205

1	本製品の仕様	206
2	無線 LAN の仕様	214
3	各インターフェースの仕様	216
4	技術基準適合について	219
5	東芝 PC ダイヤルのご案内	230
①	東芝 PC ダイヤル	230
②	トラブルチェックシート	231
	さくいん	232

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。内容をよく読んでから使用してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

⚠ 危険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
⚠ 警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠ 注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。
お願ひ	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っておくと便利な内容を示します。
参考 ➔	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合 …「 」 他のマニュアルへの参照の場合 …『 』

* 1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

* 2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要しないけが・やけど・感電などをさします。

* 3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム 特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。本製品のシステムは Windows XP です。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP

Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版を示します。

MS-IME Microsoft® IME スタンダード 2002 を示します。

S7シリーズ

個人・家庭向けモデルを示します。

2100シリーズ

企業向けモデルを示します。

記載について

- 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルのみ」と注記します。モデルについては、「用語について」を参考にしてください。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは同梱の CD (2100 シリーズのみ) からインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

- Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Intel、インテル、Pentium、Centrino は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

インテル Centrino モバイル・テクノロジについて

次の3つのテクノロジを搭載したパソコンをインテル Centrino モバイル・テクノロジ搭載と呼びます。

- ・インテル Pentium-M プロセッサ
- ・インテル 855 チップセット ファミリ
- ・インテル PRO/Wireless ネットワーク・コネクション

プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- ・周辺機器を接続して本製品を使用している場合
- ・AC アダプタを接続せずにバッテリ駆動にて本製品を使用する場合
- ・マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- ・複雑な造形に使用するソフト（例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- ・気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高 1,000 メートル (3,280 フィート) 以上をお考えください。
- ・目安として、気温 5 ~ 35°C (高所の場合 25°C) の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPU の処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記憶機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

この他の使用制限事項につきましては本書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC ダイヤル 0570-00-3100 にお問い合わせください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的に又は家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守の上、適切な使用を心がけてください。

お願い

- ・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- ・内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）は、本製品でのみ利用できます。
- ・購入時に決められた条件以外での、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- ・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、東芝PC集中修理センタに依頼してください。パスワードの解除を東芝PC集中修理センタに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- ・無線LANの使用によるデータの盗聴、およびそれによる被害に関しては保証できません。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。

本体同梱の「お客様登録カード」またはインターネット経由で登録できます。

 詳細について 「1章 3-① 東芝へのユーザ登録」

「保証書」は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

1 章

セットアップ

電源を入れて、パソコンを使えるようにするための
Windows のセットアップを行います。
また、ユーザ登録の方法についても説明しています。

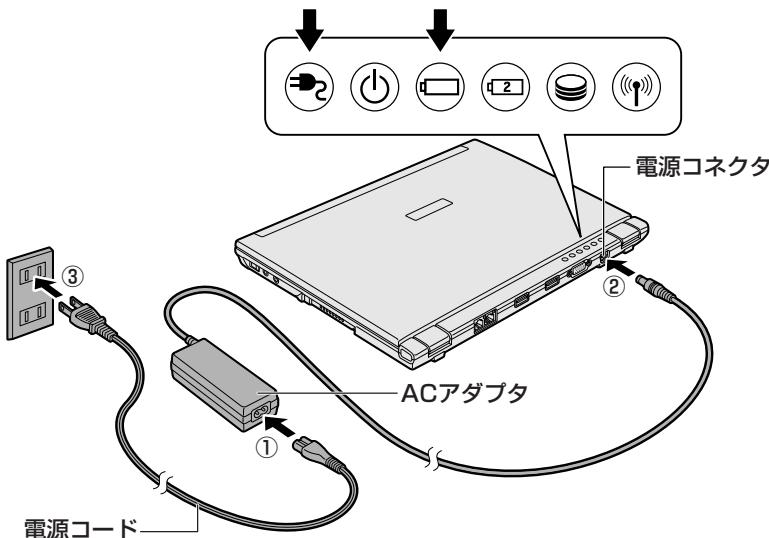
1 パソコンの準備	12
2 Windows のセットアップ	14
3 ユーザ登録をする	23

1 パソコンの準備

ここでは、電源コードと AC アダプタを接続して電源を入れる方法について説明します。

1 電源コードと AC アダプタを接続する

電源コードと AC アダプタの接続は、次の図の①→②→③の順に行います。はずすときは、逆の③→②→①の順で行います。



インジケータ図は、パソコン本体正面から見た場合の並び順です。

接続すると、DC IN LED が緑色に点灯します。また、Battery LED がオレンジ色に点灯し、バッテリへの充電が自動的に始まります。

⚠ 警告

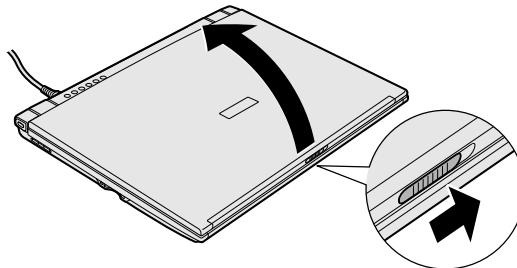
- 必ず、本製品付属の AC アダプタを使用してください。本製品付属以外の AC アダプタを使用すると電圧や (+) (-) の極性が異なっていることがあるため、過熱・火災・破裂のおそれがあります。
- パソコン本体に AC アダプタを接続する場合、必ず上記の順番を守って接続してください。順番を守らないと、AC アダプタの DC 出力プラグが帯電し、感電または軽いケガをする場合があります。また、一般的な注意として、AC アダプタのプラグをパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

2 電源を入れる

お願い 内部液晶ディスプレイを開けるときは

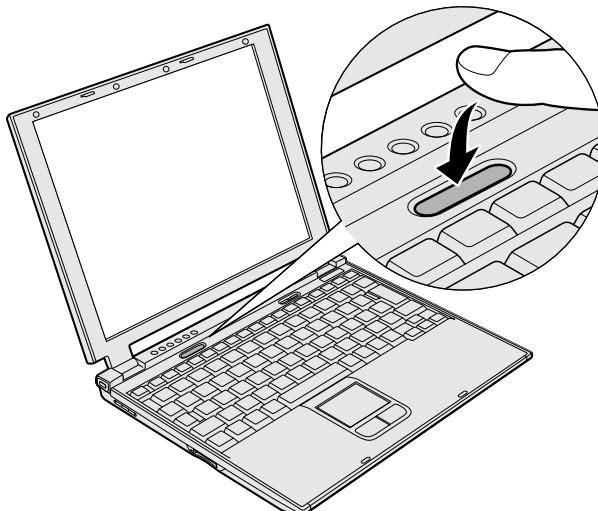
パソコン本体背面にACアダプタ、CRTディスプレイのケーブル、USBケーブル、LANケーブル、モジュラーケーブルのいずれかを接続しているときに、内部液晶ディスプレイを180度近くまで開くとコネクタ部に力がかかり、ケーブルやパソコン本体の破損や故障の原因となります。コネクタ部に無理な力が加わらないよう開閉角度に注意してご使用ください。

- ディスプレイ開閉ラッチをスライドして、ディスプレイを開ける
両手を使ってゆっくり起こしてください。



- 電源スイッチを押す

Power LEDが緑色に点灯するまで、電源スイッチを押してください。



2 Windows のセットアップ

セットアップを始める前に、『安心してお使いいただくために』を必ず読んでください。特に電源コードや AC アダプタの取り扱いについて、よく読んで注意事項を守ってください。

1 セットアップの前に

お願い セットアップをするにあたって

- 周辺機器は接続しないでください

セットアップは AC アダプタと電源コードのみを接続した状態で行ってください。セットアップが完了するまでプリンタ、マウスなどの周辺機器は接続しないでください。

- 途中で電源を切らないでください

セットアップの途中で電源スイッチを押したり電源コードを抜くと、故障や起動ができない原因になり修理が必要となることがあります。

- 操作は時間をあけないでください

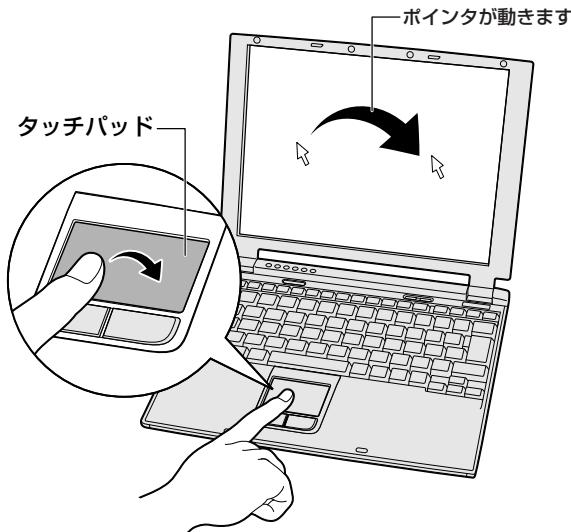
セットアップ中にキー操作が必要な画面があります。時間をあけないで操作を続けてください。30 分以上タッチパッドやキーを操作しなかった場合、画面に表示される内容が見えなくなりますが、故障ではありません。もう 1 度表示するには、**(Shift)**キーを押すか、タッチパッドをさわってください。

- 使用する Windows の管理番号を「Product Key」といいます。

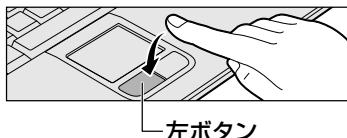
Product Key はパソコン本体に貼られているラベルに印刷されています。このラベルは絶対になくさないようにしてください。再発行はできません。紛失した場合、マイクロソフト社からサービスが受けられなくなります。

1 タッチパッドの使いかた

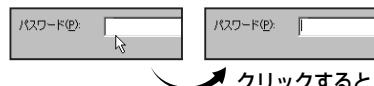
タッチパッドに指を置き、押さえながら上下左右に動かします。
指の動きにあわせてディスプレイ上の「」(ポインタ) が動きます。



目的の位置にポインタをあわせたあと、タッチパッドの手前にある左ボタンを1回押す操作を「クリック」といいます。



 を文字入力欄にあわせてクリックすると、「|」(カーソル) が点滅します。「|」の位置から入力できます。



2) Windows XP Pro のセットアップ

(

次の手順に従ってセットアップを行ってください。

初めて電源を入れると、[Microsoft Windowsへようこそ] 画面が表示されます。

本製品の音量調節はソフトウェアで行いますので、セットアップ中に流れる音楽は調節できません。セットアップ終了後、Windows起動時にキーボードでの調節が可能になります。

参照 音量の調節について「3章 5 サウンド機能」

1 操作方法

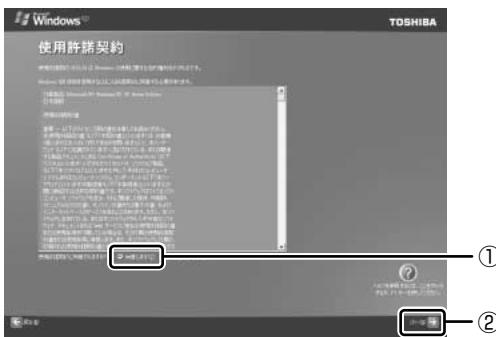
1 [次へ] ボタンをクリックする



画面右下の (?) ボタンをクリックするか[F1]キーを押すと、Windows セットアップのヘルプが表示されます。

[使用許諾契約] 画面が表示されます。

2 [使用許諾契約] の内容を確認して [同意します] の左にある○をクリックし①、[次へ] ボタンをクリックする②



契約に同意しなければ、セットアップを続行することはできず、Windowsを使用することはできません。

- ① ボタンをクリックすると契約書の続きを表示できます。
[コンピュータに名前を付けてください] 画面が表示されます。

3 [このコンピュータの名前] にコンピュータ名を入力し①、[次へ] ボタンをクリックする②



半角英数字で任意の文字列を入力してください。このとき、同じネットワークに接続するコンピュータとは別の名前にしてください。

企業で本製品を使用する場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

[管理者パスワードを設定してください] 画面が表示されます。

4 [管理者パスワード] と [パスワードの確認入力] にパスワードを入力する



Administratorと呼ばれる管理者のユーザーアカウントのパスワードを設定します。管理者のユーザーアカウントでは、コンピュータにフルアクセスできます。

パスワードには、半角の英数文字および記号を使用することができます。パスワードは大文字と小文字が区別されますので注意してください。例えば「PASSWORD」と「password」は別のパスワードとして識別されます。

参照 ➔ 入力に使うキーの位置について「3章 2 キーボード」

[管理者パスワード] 欄での入力後、Tabキーを押すと「|」が[パスワードの確認入力] 欄に移動します。「|」はカーソルといい、表示されている位置から文字などを入力できます。

5 [次へ] ボタンをクリックする



[このコンピュータをドメインに参加させますか?] 画面が表示されます。

6 ドメインの種類を選択し①、[次へ] ボタンをクリックする②



ドメインの設定が必要な場合は [はい、このコンピュータを次のドメインのメンバーにします] をチェックし、テキストボックスにドメイン名を入力してください。

[インターネット接続が選択されませんでした] 画面が表示されます。

7 [省略] ボタンをクリックする

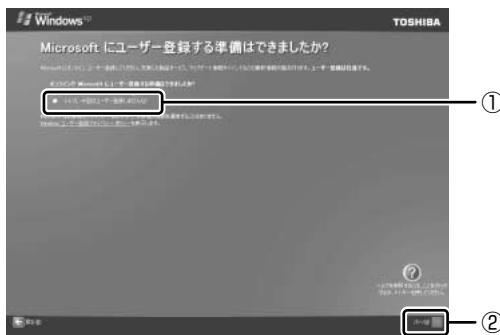
[インターネット接続が選択されませんでした] 画面ではなく [インターネットに接続する方法を指定してください] 画面が表示されることがあります。その場合も、[省略] ボタンをクリックしてください。



[Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか？] 画面が表示されます。

マイクロソフト社へのユーザ登録は、セットアップ完了後に行えますので、ここでは省略した場合について説明します。

**8 [いいえ、今日はユーザー登録しません] の左にある○をクリックし
①、[次へ] ボタンをクリックする②**



[このコンピュータを使うユーザーを指定してください] 画面が表示されます。

9 [ユーザー 1] 欄に使う人の名前を入力する



[ユーザー 1] 欄にポインタをあわせてクリックすると、「|」(カーソル)が点滅します。

参照 ➤ 入力に使うキーの位置について「3章 2 キーボード」

Windows XP では複数（5人まで）のユーザを設定し、それぞれのユーザごとに別々の環境を構築できますが、ここでは1人の名前だけ入力した場合について説明します。

メモ

- ローマ字入力で入力する場合

「なかた」と入力するときは、キーボードで **N A K A T A Enter** と押します。

キーを押しても文字が表示されない場合は、[ユーザー] 欄に「|」(カーソル) が表示され点滅していることを確認してください。表示されていないときは、[ユーザー] 欄をクリックしてください。

文字の入力を間違えたら、**BackSpace** キーを押して入力ミスした文字を削除します。

10 [次へ] ボタンをクリックする

[設定が完了しました] 画面が表示されます。

11 [完了] ボタンをクリックする



Windows のセットアップが終了するとパソコンが自動的に再起動し、デスクトップ画面が表示されます。

メモ

- 次のようなパーティションがハードディスクに作成されています。

C ドライブ : NTFS システム

S7 シリーズのハードディスクには、再セットアップ用のデータが格納されています。したがって実際に使用できるハードディスクの容量(ユーザ領域)は、製品に搭載されている容量よりも少なくなります。

- 東芝とマイクロソフト社へのユーザ登録を行ってください。

ユーザ登録について「本章 3 ユーザ登録をする」

お願い

- S7シリーズでWindowsの「ディスク管理」を使用すると、「HDDRECOVERY」というボリュームのパーティションが表示されます。このパーティションには再セットアップ(システムの復元)するためのデータが保存されていますので、削除しないでください。削除した場合、再セットアップはできなくなります。

Windows XP の使いかた

Windows XP の使いかたについては、『Microsoft Windows XP Professional ファーストステップガイド』、または [スタート] → [ヘルプとサポート] をクリックして『Windows のヘルプ』を参照してください。

3 ユーザ登録をする

1 東芝へのユーザ登録

本製品を使うにあたって、お客様へのサービス・サポートを充実させるために東芝へのお客様登録を推奨しています。

東芝パソコンをさらに便利に使うためのノウハウ、新商品やイベント情報の案内などの特典があります。

登録は、インターネットまたは同梱されている「登録はがき」で行います。

「登録はがき」で登録する場合、本製品に同梱されている「登録はがき」に必要事項を記入し、送付してください。

インターネットで登録する場合、パソコンにモジュラーケーブルを取り付けて、インターネットに接続してから次の手順で行ってください。

1 東芝ホームページから登録する

インターネットに接続するための設定を行った後、次のアドレスを入力して、表示された画面から登録してください。

<http://dynabook.com/tpmc/userj/>

2 「東芝PCお客様登録」を使う

インターネットでユーザ登録をするための「東芝PCお客様登録」を使用できます。

デスクトップの【東芝PCお客様登録】アイコン()をダブルクリックし、表示される画面に従って設定を行ってください。

【[インターネットプロバイダと未契約の方] を選択した場合】

インターネットプロバイダ「infoPepper」への入会とパソコンのユーザ登録を1度に行うことができます。「infoPepper」への初期登録料と接続時間に応じた料金がかかりますので、あらかじめご了承ください。

「infoPepper」以外のプロバイダへの入会を希望する場合は、プロバイダに入会してパソコンの設定を行った後、「[インターネットプロバイダと契約済みの方、もしくはLAN経由でインターネットに接続されている方] を選択した場合」

【[インターネットプロバイダと契約済みの方、もしくはLAN経由でインターネットに接続されている方] を選択した場合】

インターネットに接続してユーザ登録できます。

【[インターネット経由での登録を希望しない方] を選択した場合】

はがきでユーザ登録するメッセージが表示されます。

2) その他のユーザ登録

1 マイクロソフト社へのユーザ登録

登録すると、本製品に添付されているマイクロソフト社製品の今後のサービス・サポートを受けることができます。

Windows XPの場合、インターネットで登録を行います。

インターネットに接続してから、次の手順で行ってください。

- 1 [スタート] → [ヘルプとサポート] をクリックする
[ヘルプとサポート センター] 画面が表示されます。
- 2 画面左の [Windows XP の新機能] をクリックする
- 3 左画面の [ライセンス認証、ライセンス、およびユーザー登録] をクリックする
- 4 右画面の [オンラインユーザー登録を使用する] をクリックする
- 5 右画面の説明文中の [ユーザー登録ウィザード] をクリックする
[Microsoft Windows XP ユーザ登録ウィザード] が起動します。
- 6 表示される画面の指示に従って登録を行う
ユーザーIDを持っていない場合は、所有者情報を入力する画面の [マイクロソフト オフィシャルユーザーID] 欄に「WindowsXP」と入力してください。

2 その他のアプリケーションのユーザ登録

本製品に添付されている各アプリケーションのユーザ登録については、各アプリケーションのヘルプを確認してください。

また、各アプリケーションの問い合わせ先については「9章 3-③ アプリケーションの問い合わせ先」を確認してください。

2章

電源を入れる／切る

ここでは、Windows のセットアップ終了後に電源を入れる方法と、電源を切る方法について説明します。また、パソコンの使用を一時的に中断させたいときの操作方法についても説明しています。

-
- 1 電源を入れる 26
 - 2 電源を切る 30
 - 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る 31

1 電源を入れる

ここでは、Windows セットアップを終えた後に、電源を入れる方法について説明します。

参照 ➤ 初めて電源を入れるとき「1章 セットアップ」

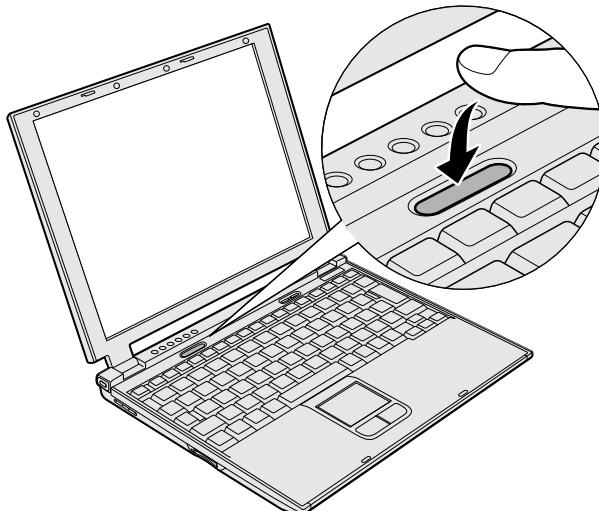
お願い 電源を入れる前に

- プリンタなどの周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を入れてください。

1 操作手順

1 電源スイッチを押す

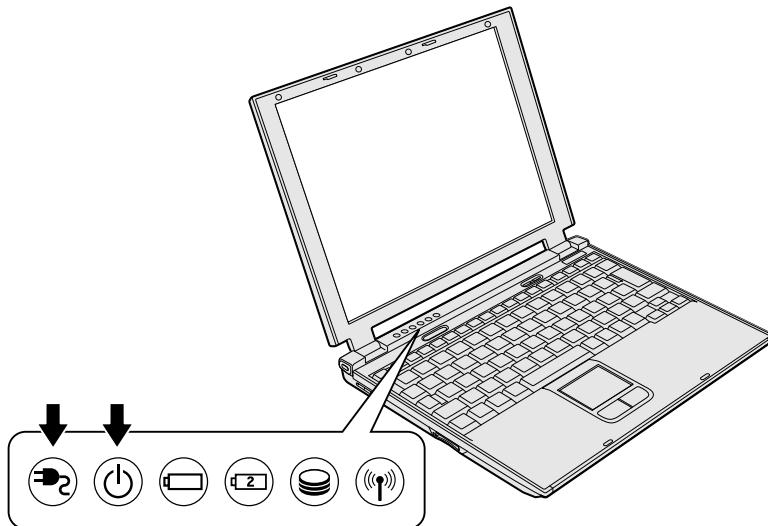
Power  LED が緑色に点灯するまで、電源スイッチを押してください。



Windows が起動します。

2 電源に関する表示

電源の状態は次のシステムインジケータの点灯状態で確認することができます。



	状態	パソコン本体の状態
DC IN  LED	緑の点灯	AC アダプタを接続している
	オレンジの点滅	異常警告 (AC アダプタ、バッテリ、またはパソコン本体の異常)
	消灯	AC アダプタを接続していない
Power  LED	緑の点灯	電源 ON
	オレンジの点滅	スタンバイ中
	消灯	電源 OFF、休止状態

【ユーザーパスワードを設定している場合】

ユーザーパスワードを設定している場合は、電源を入れると次のメッセージが表示されます。

Password =

設定したユーザーパスワードを入力し、**(Enter)**キーを押してください。

メモ

ユーザーパスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。

参照▶ パスワードについて「6章4 パスワードセキュリティ」

【メッセージが表示される場合】

不明なメッセージについては、「7章 2- メッセージ」をご覧ください。

3 起動するドライブを変更する場合

ご購入時の設定では、標準ハードディスクドライブからシステムを起動します。起動するドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

【一時的に変更する】

電源を入れたときに表示される5種類のアイコンから、起動するドライブを選択できます。

1 **F12**キーを押しながら電源スイッチを押す

アイコンの下に選択カーソルが表示されます。



アイコンは左から、次の順に表示されます。

HDD → CD-ROM ドライブ → FDD → ネットワーク → PC カード

2 →または←キーで起動したいドライブを選択し、**(Enter)**キーを押す

一時的にそのドライブが起動最優先ドライブとなり、起動します。

【あらかじめ設定しておく】

「東芝HWセットアップ」の[OSの起動]タブで起動ドライブの優先順位を変更できます。

参照 ➔ 設定の変更「6章2 東芝HWセットアップを使う」

2 電源を切る

正しい手順で電源を切らないとパソコンが故障したりデータが壊れる原因になりますので、必ず正しい手順で操作してください。

パソコンの使用を一時的に中断したいときには、スタンバイまたは休止状態にする方法もあります。

参照 ➔ スタンバイ、休止状態

「本章 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る」

お願い

電源を切る前に

- 必要なデータは必ず保存してください。保存されていないデータは消失します。
- 起動中のアプリケーションは終了してください。
- Disk LED や SD Card LED が点灯中は、電源を切らないでください。データが消失するおそれがあります。

1 操作手順

1 [スタート] ①→ [終了オプション] をクリックする②



2 [電源を切る] をクリックする



Windows が終了し、電源が切れます。Power LED が消灯します。

3 パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。

再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断したときの状態が再現されます。

お願い 操作にあたって

- スタンバイ中や休止状態では、バッテリや周辺機器（増設メモリなど）の取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。

1 スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。

スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリを消耗します。バッテリを使い切ってしまうとデータは消失するので、AC アダプタを取り付けて使用することを推奨します。

1 スタンバイの実行方法

- 1 [スタート] ①→ [終了オプション] をクリックする②



- 2 [スタンバイ] をクリックする



メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

- 3 Power LED がオレンジ点滅しているか確認する

メモ

〔Fn〕+〔F3〕キーを押して、スタンバイを実行することもできます。

2) 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。バッテリ駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。無効にした場合は、次の方法で有効にしてください。

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
 - ② [東芝省電力] をクリックする
 - ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
 - ④ [OK] ボタンをクリックする
- 休止状態が有効になります。

1 休止状態の実行方法

- 1 [スタート] ①→ [終了オプション] をクリックする②



- 2 Shiftキーを押したまま [休止状態] をクリックする

(Shift)キーを押している間は、[スタンバイ] が [休止状態] に変わります。



Disk LEDが点灯中は、バッテリパックを取りはずさないでください。

メモ

(Fn)+(F4)キーを押して、休止状態にすることもできます。

3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

[スタート] メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。購入時は、休止状態が有効に設定されていますが、解除した場合は「本節② 休止状態」を参照して、設定してください。

1 電源スイッチを押す

購入時には〔電源オフ〕に設定されています。変更する場合は次の手順を行ってください。

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [スタート] → [コントロールパネル] をクリックする
- ② [パフォーマンスとメンテナンス] をクリック→ [東芝省電力] をクリックする
- ③ [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの [電源ボタンを押したとき] で、表示されるメニューから実行したい動作を選択する
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

手順 1 の④で〔入力を求める〕を選択したときは、〔コンピュータの電源を切る〕画面が表示されます。〔何もしない〕を選択したときは、電源スイッチを押しても何も動作しません。

2 ディスプレイを閉じる

ディスプレイを閉じることによって【スタンバイ】【休止状態】【電源オフ】のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。購入時には【休止状態】に設定されています。変更する場合は次の手順を行ってください。

1 ディスプレイを閉じたときの動作を設定する

- ①【スタート】→【コントロールパネル】をクリックする
- ②【パフォーマンスとメンテナンス】をクリック→【東芝省電力】をクリックする
- ③【電源設定】タブで設定する省電力モードを選択し、【詳細】ボタンをクリックする
- ④【動作】タブの【コンピュータを閉じたとき】で、表示されるメニューから実行したい動作を選択する
- ⑤【OK】ボタンをクリックする
- ⑥【東芝省電力のプロパティ】画面で【OK】ボタンをクリックする

2 ディスプレイを閉じる

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

手順1の④で【スタンバイ】または【休止状態】を選択したときは、次にディスプレイを開くと、自動的に状態が再現されます。【何もしない】を選択すると、パネルスイッチ機能は働きません。

3章

本体の機能

このパソコン本体の各部について、名称、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

また、使いやすいうように各部機能の設定を変更、調整する操作など役に立つ機能も紹介。

各部の手入れについても確認してください。

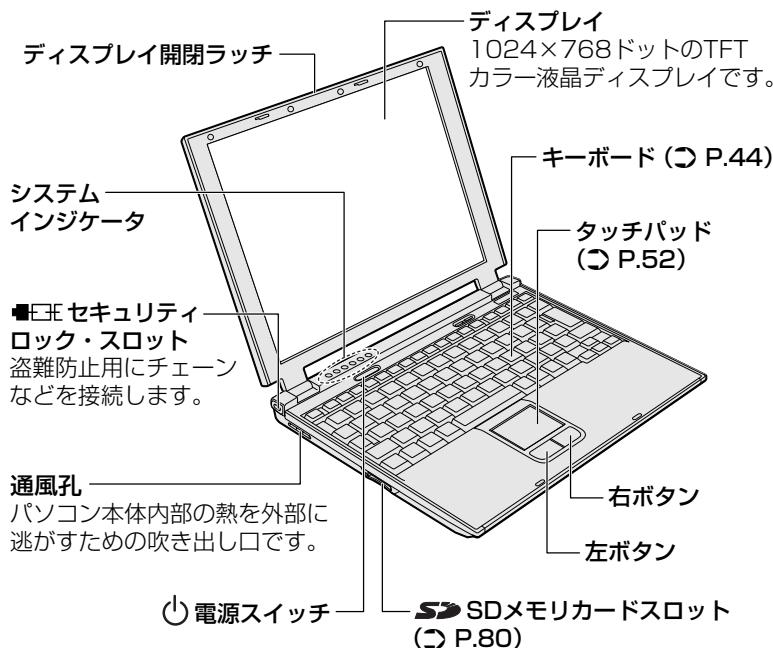
1	各部の名前	38
2	キーボード	44
3	タッチパッド	52
4	ディスプレイ	55
5	サウンド機能	57
6	LAN 機能	58
7	内蔵モデム	72

1 各部の名前

ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。

それぞれについての詳しい説明については、各参照ページを確認してください。

1 前面図



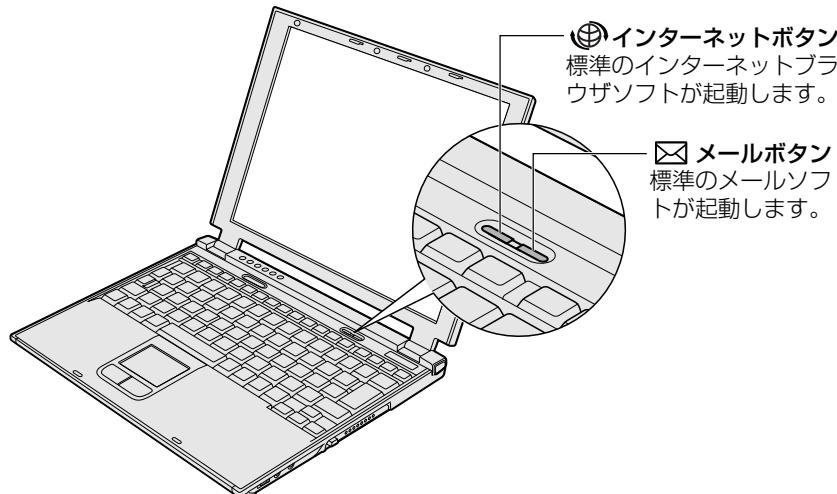
メモ

セキュリティロック用の機器については、本製品に対応のものかどうかを販売店にご確認ください。

【システムインジケータ】

	DC IN LED	電源コードの接続 参照 P.27
	Power LED	電源の状態 参照 P.27
	Battery LED	バッテリの状態 参照 P.95
	大容量バッテリ LED	大容量バッテリの状態 参照 P.95
	Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている
	ワイヤレス コミュニケーションLED	無線 LAN 通信の状態 参照 P.66

【ワンタッチボタン】



メモ

インターネットボタンとメールボタンの設定は、[コントロールパネル] → [プリンタとその他のハードウェア] の [東芝コントロール] で変更できます。

2 背面図

〔P〕ワイヤレスコミュニケーションスイッチ (☞ P.66)

ヘッドホン出力端子

ヘッドホンを接続します。音源はステレオで出力されます。
ステレオミニジャックタイプ (3.5φ) を使用してください。

〔PC〕PCカードスロット (☞ P.77)

モジュラージャック (☞ P.72)

モジュラーケーブルで本体を電話回線に接続し、
モデム機能を使用します。

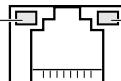
□RGBコネクタ (☞ P.87)
CRTディスプレイを接続します。

DC IN 15V 電源コネクタ

USBコネクタ (☞ P.85)

[Ether] LANコネクタ (☞ P.58)

LANアクティブLED (橙)
データを送受信している
ときに点灯します。

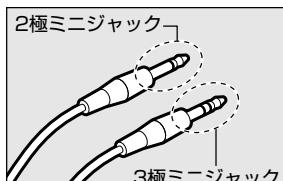


リンクLED (緑)
ネットワークに正常に接続され、使用可能なとき
に点灯します。

マイク入力端子

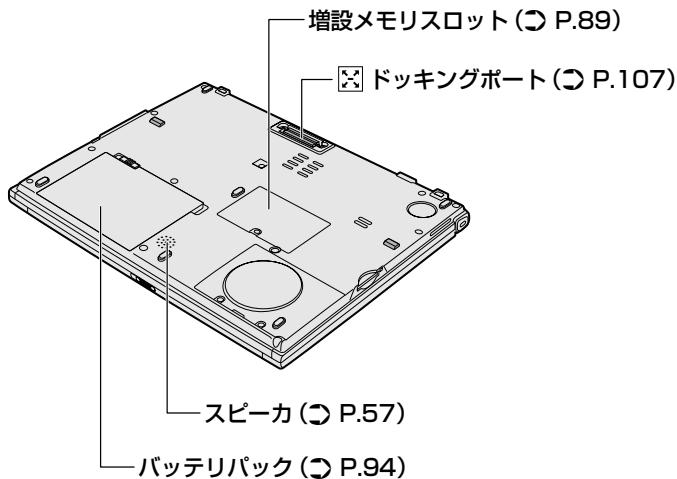
マイクロホンを接続します。

- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは3.5mmφ3極ミニジャック
タイプが使用できます。
3.5mmφ2極ミニジャックタイプでもマイクロ
ホン本体にバッテリなどを内蔵し、電源供給を
必要としないマイクロホンであれば使用できます。

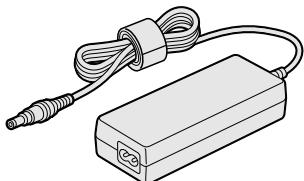


メモ

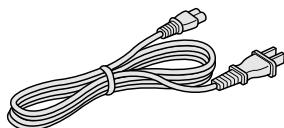
音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元
が推奨するマイクロホンを使用してください。

3 裏面図

4 付属品



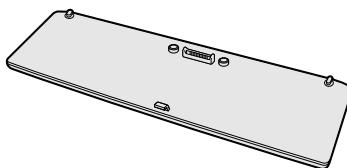
ACアダプタ



電源コード



モジュラーケーブル



大容量バッテリ

*S7シリーズにのみ同梱

5 パソコンを持ち運ぶときは

パソコンを持ち運ぶときは、誤動作や故障を起こさないために、次のことを必ず守ってください。

- 電源を必ず切り、ACアダプタを取りはずしてください。電源を入れた状態、またはスタンバイ状態で持ち運ばないでください。
電源を切ってACアダプタを取りはずした後に、すべてのLEDが消灯していることを確認してください。
- 急激な温度変化（寒い屋外から暖かい屋内への持ち込みなど）を与えないでください。やむなく急な温度変化を与えてしまった場合は、数時間たってから電源を入れるようにしてください。
- 外付けの装置やケーブルは取りはずしてください。
- PCカード、SDメモリカードなどがセットされている場合は取り出してください。セットしたまま持ち歩くと、カードが壁や床とぶつかり、故障するおそれがあります。
- 落としたり、強いショックを与えないでください。
- ディスプレイを閉じてください。

⚠ 注意

- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードをAC電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。
- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

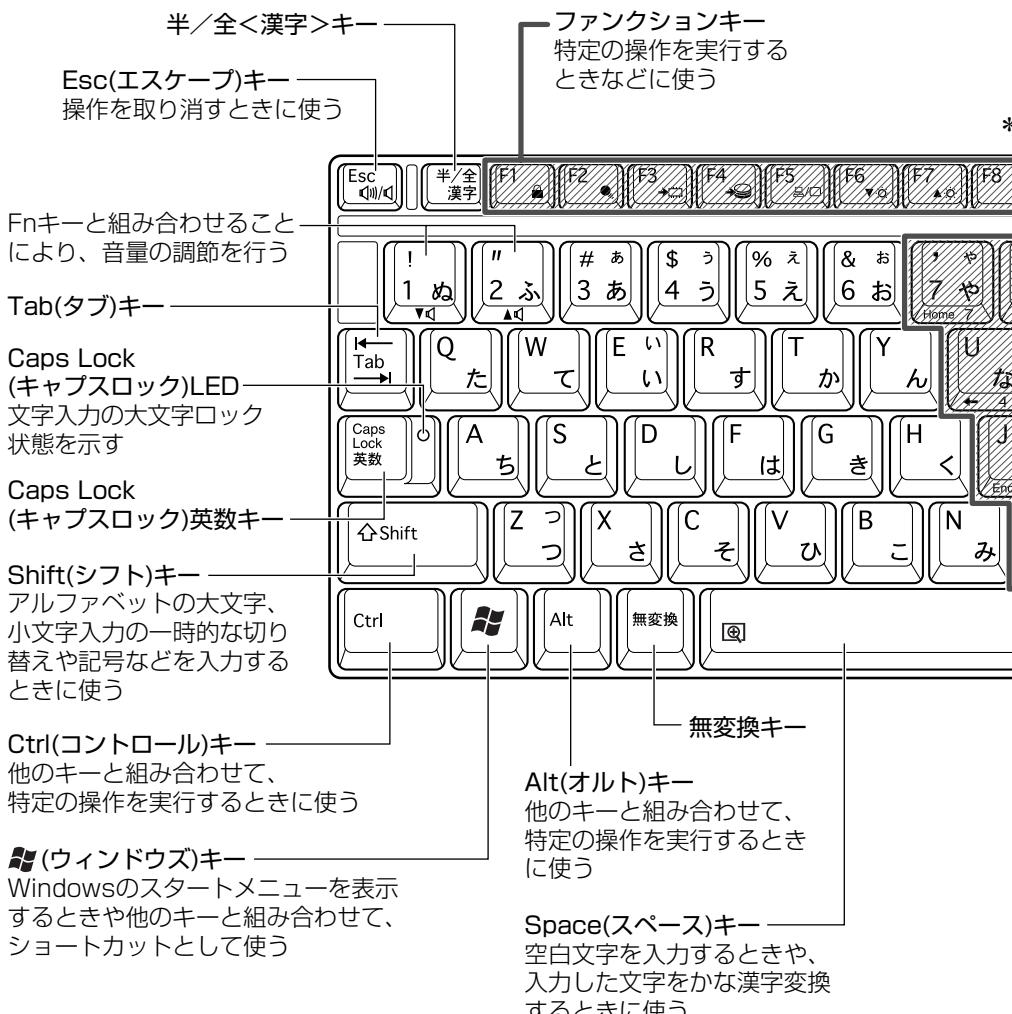
パソコン本体 / 電源コードの取り扱いと手入れ

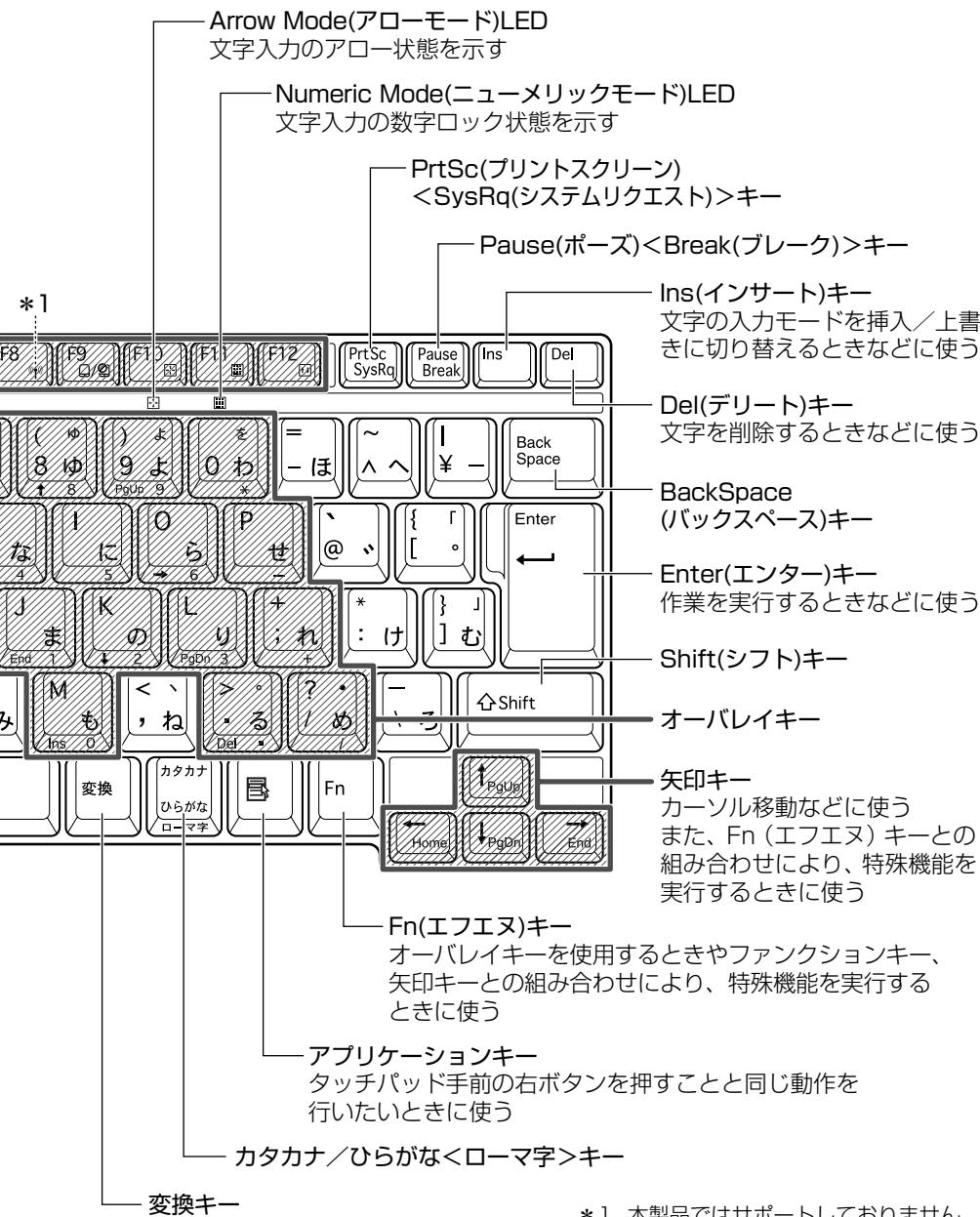
- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってから拭きます。
ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。
温度 5～35℃、湿度 20～80%
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所／非常に高温または低温になる場所／急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）／強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）／ホコリの多い場所／振動の激しい場所／薬品の充満している場所／薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面やACアダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
- 電源コードのプラグを長期間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にほこりを拭き取ってください。

2 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

1 キーボード図





【文字キー】

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。

文字キーに印刷されている2～6種類の文字や記号は、キーボードの文字入力の状態によって変わります。

■左上

(Shift)キーを押しながら押すと、記号やアルファベットの大文字が入力できます。

■右上

かな入力ができる状態で(Shift)キーを押しながら押すと、記号、ひらがなのそくおん促音(小さい「っ」)、拗音(小さい「や、 ゆ、 よ」)が入力できます。

■左下

他のキーは使わず、そのまま押すと、数字やアルファベットの小文字が入力できます。

大文字ロック状態になると、大文字も入力できます。

■右下

かな入力ができる状態で押すと、ひらがなや記号が入力できます。

■前面左

アロー状態のときに押すと、カーソル制御キーとして使えます。

■前面右

数字ロック状態のときに押すと、テンキーとして使えます。

参照 アロー状態、数字ロック状態

「本節 ②-(Fn)キーを使った特殊機能キー」

キーボードの取り扱いと手入れ

柔らかい乾いた素材のきれいな布で拭いてください。

汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼって拭きます。

キーのすきまにゴミが入ったときは、エアーで吹き飛ばすタイプのクリーナで取り除きます。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。

コーヒーなど飲み物をこぼしたときは、ただちに電源を切り、ACアダプタとバッテリパックを取りはずして、購入店、または保守サービスに点検を依頼してください。

2) キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせて押すと、いろいろな操作が実行できます。

【**(Fn)**キーを使った特殊機能キー】

キー	内容
(Fn) + (Esc) 〈スピーカのミュート〉	内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にします。元に戻すときは、もう1度 (Fn) + (Esc) キーを押します。
(Fn) +① 〈スピーカの音量を下げる〉	(Fn) キーを押したまま、①キーを押すたびに音量が1段階ずつ下がります。 表示される画面のアイコンで音量を確認できます。
(Fn) +② 〈スピーカの音量を上げる〉	(Fn) キーを押したまま、②キーを押すたびに音量が1段階ずつ上がります。 表示される画面のアイコンで音量を確認できます。
(Fn) + (Space) 〈内部液晶ディスプレイの解像度切り替え〉	(Fn) キーを押したまま、 (Space) キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの解像度を切り替えます。
(Fn) + (F1) 〈インスタントセキュリティ機能〉	画面右上にカギアイコンが表示された後、画面表示がオフになります。 パスワードによる保護を設定（[画面のプロパティ] の [スクリーンセーバー] タブで、[パスワードによる保護] または [再開時にようこと画面に戻る] をチェック）しておくと、セキュリティを強化できます。解除するには、次の操作を行ってください。 ① (Shift) キーや (Ctrl) キーを押す、またはタッチパッドを操作する ② ユーザが複数の場合はユーザ名をクリックする ③ パスワード入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、 (Enter) キーを押す パスワードによる保護を設定していない場合は、 (Shift) キーや (Ctrl) キーを押す、またはタッチパッドを操作すると解除できます。

キー	内容
(Fn)+(F2) 〈省電力モードの設定〉	(Fn)+(F2) キーを押すと、設定されている「東芝省電力ユーティリティ」の省電力モードが表示されます。 (Fn) キーを押したまま、 (F2) キーを押すたびに、省電力モードが切り替わります。
(Fn)+(F3) 〈スタンバイ機能の実行〉	(Fn)+(F3) キーを押し、表示される画面で [はい] ボタンをクリックするとスタンバイ機能が実行されます* ¹ 。
(Fn)+(F4) 〈休止状態の実行〉	(Fn)+(F4) キーを押し、表示される画面で [はい] ボタンをクリックすると、休止状態が実行されます* ¹ 。
(Fn)+(F5) 〈表示装置の切り替え〉	表示装置を切り替えます。 詳細について 参照 「4章 5 CRTディスプレイを接続する」
(Fn)+(F6) 〈内部液晶ディスプレイの輝度を下げる〉	(Fn) キーを押したまま、 (F6) キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が 1 段階ずつ下がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます* ² 。
(Fn)+(F7) 〈内部液晶ディスプレイの輝度を上げる〉	(Fn) キーを押したまま、 (F7) キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が 1 段階ずつ上がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます* ² 。
(Fn)+(F9) 〈タッチパッドオン／オフ機能〉	タッチパッドからの入力を無効にできます。再び有効にするには、もう 1 度、 (Fn)+(F9) キーを押します。 参照 「本章 3-❷ タッチパッドを無効／有効にするには」
(Fn)+(F10) 〈オーバレイ機能：アロー状態〉	キー前面左に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます（アロー状態）。アロー状態を解除するには、もう 1 度 (Fn)+(F10) キーを押します。
(Fn)+(F11) 〈オーバレイ機能：数字ロック状態〉	キー前面右に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます（数字ロック状態）。数字ロック状態を解除するには、もう 1 度 (Fn)+(F11) キーを押します。 アプリケーション（Microsoft Excel など）によっては機能が異なる場合があります。
(Fn)+(F12) 〈スクロールロック状態〉	一部のアプリケーションで キーを画面スクロールとして使用できます。ロック状態を解除するには、もう 1 度 (Fn)+(F12) キーを押します。

キー	内容
(Fn)+↑ <PgUp (ページアップ)>	一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、(↑)キーを押すと、前のページに移動できます。
(Fn)+↓ <PgDn (ページダウン)>	一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、(↓)キーを押すと、次のページに移動できます。
(Fn)+← <Home (ホーム)>	一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、(←)キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。
(Fn)+→ <End (エンド)>	一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、(→)キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。

- * 1 表示される画面で「今後、このメッセージを表示しない」をチェックすると、次回以降メッセージ画面は表示されません。
- * 2 液晶ディスプレイの点灯直後は、約 18 秒間、輝度の変更はできません。その間、液晶ディスプレイの点灯を安定させるため、自動的に最高輝度となります。

【キーを使ったショートカットキー】

キー	操作
+(R)	[ファイル名を指定して実行] 画面を表示する
+(M)	すべてを最小化する*
(Shift)+(Windows logo icon)+(M)	すべての最小化を元に戻す*
+(F1)	『Windows のヘルプ』を起動する
+(E)	[マイコンピュータ] 画面を表示する
+(F)	ファイルまたはフォルダを検索する
(Ctrl)+(Windows logo icon)+(F)	他のコンピュータを検索する
+(Tab)	タスクバーのボタンを順番に切り替える
+(Break)	[システムのプロパティ] 画面を表示する

* ウィンドウの種類によっては、この機能は使用できません。

【特殊機能キー】

特殊機能	キー	操作
カナロック状態	(Ctrl) + (Caps Lock 英数)	カナロック状態になります。この状態で文字キーを押すと、キー右下に印刷されたひらがなを、カタカナで入力できます*。
大文字ロック状態	(Shift) + (Caps Lock 英数)	大文字ロック状態になります。この状態で文字キーを押すと、キー左上に印刷された英字などの文字を、大文字で入力できます*。 大文字ロック状態のときは、(Caps Lock 英数)キーの Caps Lock LED が点灯します。
タスクマネージャの起動	(Ctrl) + (Alt) + (Del)	[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	(PrtSc)	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	(Alt) + (PrtSc)	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

* カナロック状態や大文字ロック状態を解除するには、もう 1 度同じキー操作をします。

ロック状態の優先度は、カナロック状態>大文字ロック状態です。

③ 日本語を入力するには

本製品には、日本語入力システム MS-IME が搭載されています。
日本語入力システムとは、日本語を入力するためのソフトウェアです。

起動したときは、英数字の入力ができるようになっています。(半/全)キーを押すと、日本語を入力できるようになります。

日本語入力に切り替わると、IME ツールバーは次のように表示されます。



入力モード

ローマ字入力が既定値になっています。

ローマ字入力とかな入力は(Alt)+(カタカナひらがな)キーを押すと切り替えられます。この場合、パソコンを再起動するとローマ字入力に戻ります。

常に同じ入力モードで使用する場合は、次の方法で設定します。

- ①ツールバーの [プロパティ] アイコン () をクリックする
- ②[全般] タブで [ローマ入力／かな入力] の設定をする

漢字変換

入力した文字を漢字変換するには、(Space)キーを押します。

目的の漢字ではない場合は、もう 1 度(Space)キーを押して、他の漢字を表示します。さらに(Space)キーを押すと、候補の一覧が表示されます。

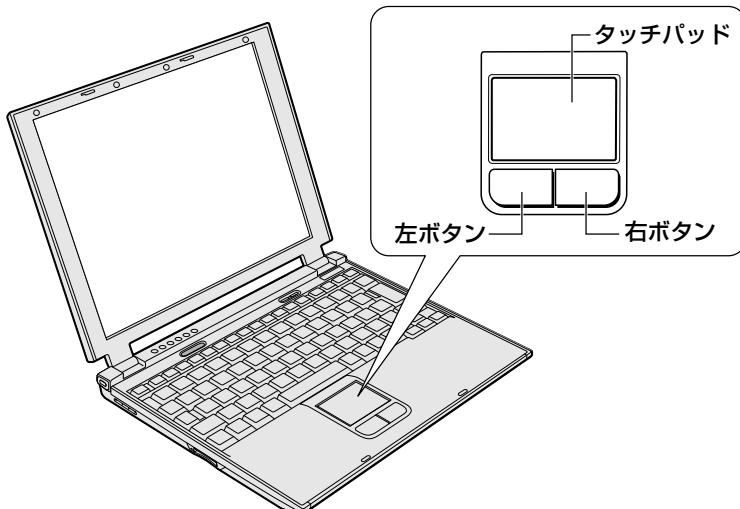
(↑)(↓)キーで選択し、(Enter)キーを押します。

メモ

MS-IME の使いかたについてはツールバーの [ヘルプ] アイコン () から『MS-IME のオンラインヘルプ』をご覧ください。

3 タッチパッド

電源を入れて Windows を起動すると画面上に  (ポインタ) が表示されます。タッチパッドと左ボタン／右ボタンを使って、ポインタを操作します。



お願い

- タッチパッドを強く押さえたり、ボールペンなど先の鋭いものを使ったりしないでください。タッチパッドが故障するおそれがあります。

タッチパッドに指を置き、上下左右に動かすと、ポインタが指の方向にあわせて動きます。

クリック	タッチパッドでポインタを合わせて、左ボタンまたは右ボタンを1回押します。
ダブルクリック	タッチパッドでポインタを合わせて、左ボタンをすばやく2回続けて押します。
ドラッグアンドドロップ	左ボタンを押したまま、タッチパッドでポインタを移動します(ドラッグ)。 ドラッグの操作の最後に、目的の場所でボタンから指を離します(ドロップ)。

1 タッピング

タッチパッドを指で軽くたたくことをタッピングといいます。

タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

クリック	タッチパッドを1回軽くたたきます。
ダブルクリック	タッチパッドを2回軽くたたきます。
ドラッグアンドドロップ	タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指を離さずに目的の位置まで移動し、指を離します。
スクロール	タッチパッドの右端に指を合わせて上下に動かします（上下スクロール）。 タッチパッドの下端に指を合わせて左右に動かします（左右スクロール）。

タッチパッドや左ボタン／右ボタンは【マウスのプロパティ】で設定を変更できます。

2 タッチパッドを無効／有効にするには

タッチパッドによる操作を無効にしたり、有効にしたりすることができます。

【方法1—(Fn)+(F9)キーを押す】

1 (Fn)+(F9)キーを押す

タッチパッドからの入力が一時的に無効になります。

解除するには、もう一度(Fn)+(F9)キーを押します。

(Fn)+(F9)キーでタッチパッドの操作を有効にした場合、タッチパッドの操作中にカーソルの動きが不安定になることがあります。そのような場合は、一度タッチパッドから手を離してください。しばらくすると、正常に操作できるようになります。

【方法2—マウスのプロパティで設定する】

- 1 タスクバーの [Touch Pad] アイコン () をダブルクリックする
[マウスのプロパティ] は、[コントロールパネル] の [マウス] からも表示できます。
- 2 [タッチパッド ON/OFF] タブで、[有効] または [無効] をチェックし、[OK] ボタンをクリックする
[有効] をチェックするとタッチパッドが使用可能になり、[無効] をチェックするとタッチパッドからの操作ができなくなります。



ヘルプの起動方法

- 1 [マウスのプロパティ] 画面を表示し、画面右上の ? をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい場所をクリックする
説明文がポップアップで表示されます。

4 ディスプレイ

本製品には表示装置として TFT 方式カラー液晶ディスプレイ（1024 × 768 ドット）が内蔵されています。ドットは点の数を表します。テレビと同じようにブラウン管を発光させて表示する、CRT ディスプレイを接続して使用することもできます。

参照 ➔ CRT ディスプレイの接続について
「4 章 5 CRT ディスプレイを接続する」

表示について

TFT 方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られておりますが、ごく一部に非点灯、常時点灯などの表示が存在することがあります。故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

1 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

2048 × 1536 ドット	1,677 万色
1920 × 1440 ドット	1,677 万色
1600 × 1200 ドット	1,677 万色
1280 × 1024 ドット	1,677 万色
1024 × 768 ドット	1,677 万色
800 × 600 ドット	1,677 万色

1280 × 1024 ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

メモ

1,677 万色はディザリング表示です。
ディザリングとは、1ピクセル（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数ピクセルの組み合わせによって表現する方法です。

2 解像度を変更する

- 1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [デスクトップの表示とテーマ] をクリック→ [画面解像度を変更する] をクリックする
- 3 [設定] タブの [画面の解像度] で、解像度を変更し、[OK] ボタンをクリックする



メモ

(Fn)+(Space)キーを押して、解像度を切り替えることもできます。

液晶ディスプレイの取り扱い

画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。

表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。

- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。

液晶表示素子は、ガラス板間に液晶を配向処理して注入しています。そのため、圧力がかかると配向が乱れ、元に戻らなくなる場合があります。

バックライト用蛍光管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにバックライト用蛍光管が内蔵されています。バックライト用蛍光管は、使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。有償にて交換いたします。

5 サウンド機能

本製品はサウンド機能とスピーカーを内蔵しています。

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。

スピーカーの音量は、キーボードまたはWindowsの「ボリュームコントロール」で調整できます。

1 キーボードで調整する

【音量を下げる】

1 **(Fn)**キーを押したまま、**(①)**キーを押す

①キーを押すたびに、音量が1段階ずつ下がります。

【音量を上げる】

1 **(Fn)**キーを押したまま、**(②)**キーを押す

②キーを押すたびに、音量が1段階ずつ上がります。

【ミュート(消音)】

1 **(Fn)**キーを押したまま、**(Esc)**キーを押す

スピーカーのミュート／ミュート解除が切り替わります。

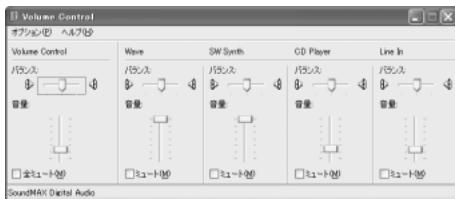
2 ボリュームコントロールで調整する

再生したいファイルごとに音量を調節したい場合、次の方法で調節できます。

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするとスピーカーの音量が上がります。[ミュート]をチェックすると消音となります。



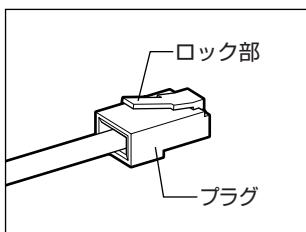
詳しくは『ボリュームコントロールのヘルプ』を確認してください。

6 LAN 機能

1) ケーブルを使った LAN 接続（有線 LAN）

本製品には、ブロードバンド対応の LAN 機能が内蔵されています。

LAN コネクタに ADSL モデムやケーブル modem を接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。また、本製品の LAN 機能は、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T) に対応しています。LAN コネクタに LAN ケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LAN コネクタに LAN ケーブルを接続すると、Fast Ethernet / Ethernet を自動的に検出して切り替えます。



LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、『Windows のヘルプ』を確認してください。または、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

2) ケーブルを使わない LAN 接続（無線 LAN）

無線 LAN とは、パソコンに LAN ケーブルを接続しない状態で使用できる、ワイヤレスの LAN 機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータを LAN システムに接続できます。

無線 LAN アクセスポイント（別売り）を使用することによって、複数のパソコンからワイヤレスでブロードバンド環境を実現できます。

1 無線LANの概要

本製品では、次の機能をサポートしています。

- 転送レート自動選択機能。11、5.5、2、1Mbps の転送レートから選択可能。
- 周波数チャネル選択（2.4GHz 帯）
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネージメント
- IEEE802.11 規格で規定されている RC4 暗号化アルゴリズムに基づいたデータ暗号化 (WEP)

【無線 LAN の種類】

無線 LAN は、IEEE802.11b に準拠する無線ネットワークです。無線 LAN は最大 11Mbps の転送レートをサポートしています。

- Wi-Fi Alliance 認定の Wi-Fi (Wireless Fidelity) ロゴを取得しています。
Wi-Fi ロゴは、IEEE802.11b に準拠する他社の無線 LAN 製品との通信が可能な無線機器であることを意味します。
- 「直接拡散方式」(Direct Sequence Spread Spectrum, DSSS) を採用し、
IEEE802.11b に準拠する他社の無線 LAN システムと完全な互換性を持っています。
- Wi-Fi CERTIFIED ロゴは Wi-Fi Alliance の認証マークです。

【セキュリティ】

WEP (暗号化) 機能を使用しないと、無線 LAN 経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。

そのため WEP 機能を設定されることを強くおすすめいたします。

 WEP 機能の設定「本項 4-WEP 機能を設定する」

お願い

無線 LAN を使用するにあたって

- 無線 LAN の無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で使用してください。無線通信のレンジを最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
- 無線 LAN は無線製品です。各国で適用される無線規制については、同梱の「無線 LAN について」を確認してください。

2 無線LANネットワークの種類

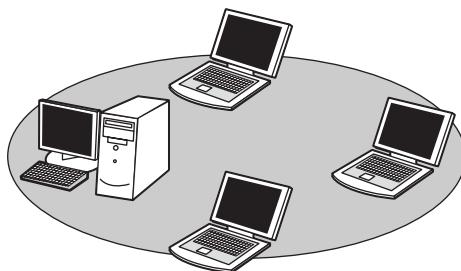
無線 LAN ネットワークには、次のような機能があります。

- 無線 LAN ステーション同士を直接ワイヤレス接続する
- 無線 LAN アクセスポイント経由で、インターネットやその他の無線 LAN ステーションに接続する

ピア・ツー・ピアワークグループ

無線 LAN アクセスポイントを持たない環境（Small Office/Home Office (SOHO) など）で一時的なネットワークを構築する方法です。ピア・ツー・ピアワークグループを設定することで、小規模な無線ネットワークを構築できます。パソコンなどのデバイス同士が互いの通信範囲内にある場合は、これが最も簡単かつ低成本に無線ネットワークを構築する方法です。

このワークグループでは、Microsoft ネットワークでサポートされているような [ファイルとプリンタの共有] などの機能を使用したファイル交換ができます。家族や友人同士でデータを共有したり、ファイルのやり取りをしたい場合などに便利です。



ピア・ツー・ピアワークグループでネットワークを構築するには、設定が必要です。

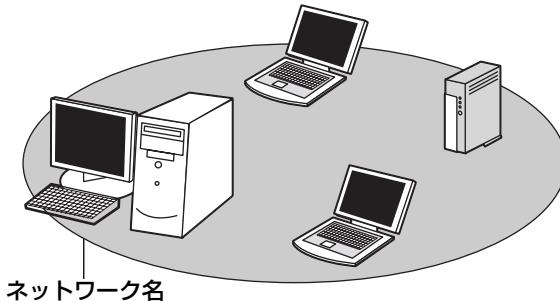
参照 ➔ ピア・ツー・ピアワークグループの設定について 「本項 3 基本設定」

インフラストラクチャネットワーク

無線 LAN アクセスポイントを使用してネットワークに接続し、すべてのネットワーク設備に無線 LAN 機器でアクセスできる方法です。ネットワークは、次のどちらでもアクセスできます。

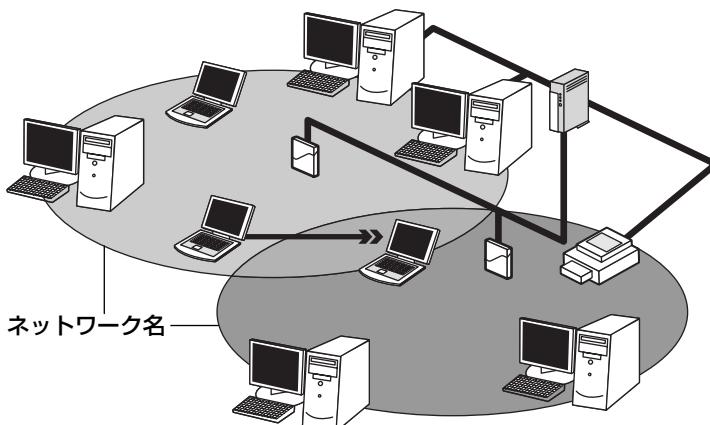
【スタンドアロンネットワーク】

無線 LAN アクセスポイントのみで構築したネットワークです。



【インフラストラクチャネットワーク】

無線 LAN アクセスポイントを既存の有線ネットワークに組み込むネットワーク形態です。



どちらの場合も、ネットワークに接続するには設定が必要です。

参照 ➔ ネットワーク接続のための設定について 「本項 3 基本設定」

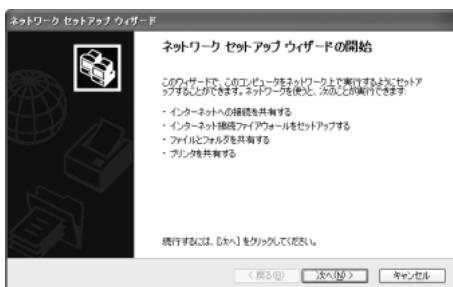
3 基本設定

無線 LAN ネットワークに接続するには、接続するネットワークに応じた設定が必要です。

Windows XP は、標準で無線 LAN ネットワークに対応しています。

- 1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [ネットワークとインターネット接続] をクリック→ [ネットワークタスク] の [ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する] をクリックする

[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。



4 詳細設定

無線 LAN は、ほとんどのネットワーク環境において基本的な設定だけで動作します。インフラストラクチャネットワークに接続している場合の詳細設定は、[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面で行います。

プロパティ画面の表示

- [スタート] → [マイコンピュータ] を開き、[その他] の [マイネットワーク] をクリックする
- [ネットワークタスク] の [ネットワーク接続を表示する] をクリックする
[ネットワーク接続] 画面が表示されます。
- [ワイヤレスネットワーク接続] を選択し①、[ネットワークタスク] の [この接続の設定を変更する] をクリックする②



[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面が表示されます。



設定を変更したあと、[OK] ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

WEP 機能を設定する

WEP (Wired Equivalent Privacy) とは、無線で伝送されるデータを暗号化する機能です。WEPでの暗号化には 128 ビットと 64 ビットの 2 種類があり、プロパティ画面で設定できます。

1 [ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面を開く

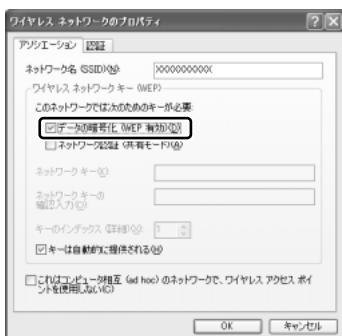
参照▶「本項 4- プロパティ画面の表示」

2 [ワイヤレスネットワーク] タブの [利用できるネットワーク] でネットワーク名をクリックし①、[構成] ボタンをクリックする②



[ワイヤレスネットワークのプロパティ] 画面が表示されます。

3 [データの暗号化 (WEP 有効)] をチェックする



4 ネットワークキーを設定する

ネットワークキーの設定がわからない場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

●ネットワークキーが自動的に提供される場合

[キーは自動的に提供される] がチェックされていることを確認する

●ネットワークキーが自動的に提供されない場合

① [キーは自動的に提供される] のチェックをはずす

② [ネットワークキー] と [ネットワークキーの確認入力] にネットワークキーを入力する

入力する文字の種類によって文字数が決められています。また、文字数によって設定されるセキュリティのレベルが異なります。ネットワーク上で接続する機器同士は同じセキュリティレベルに設定してください。

セキュリティレベル	文字の種類と文字数	
	半角英数文字	16進数
高 (128ビット)	13文字	26文字
低 (64ビット)	5文字	10文字

ネットワークキーは「* * * * (アスタリスク)」で表示されます。

5 [OK] ボタンをクリックする

手順4で指定以外の文字数でネットワークキーを入力するとエラーメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてメッセージを閉じ、もう1度手順4からやり直してください。

5 無線LANを使う

お願い

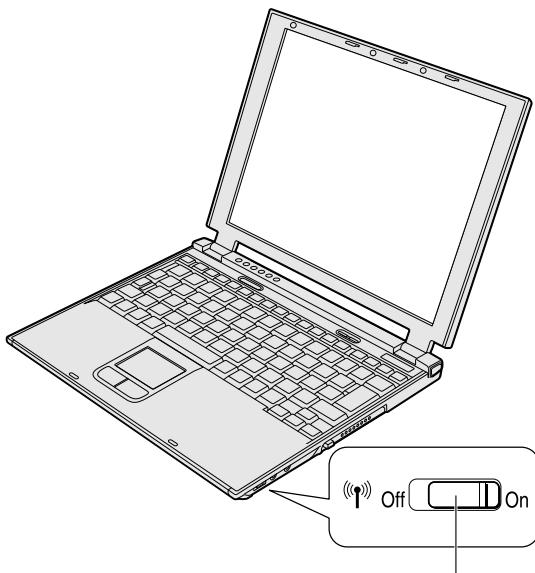
- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

ここでは、ネットワークに接続している他のパソコンの確認について説明します。

⚠ 警告

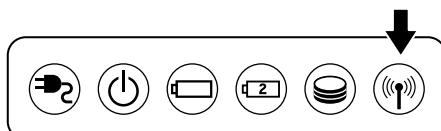
- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（左側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。
また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

1 パソコン本体のワイヤレスコミュニケーションスイッチを On 側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーションスイッチ
無線LANの機能を使用するかしないかを切り替えます。
使用するときは右側（On）に、使用しないときは
左側（Off）に切り替えてください。

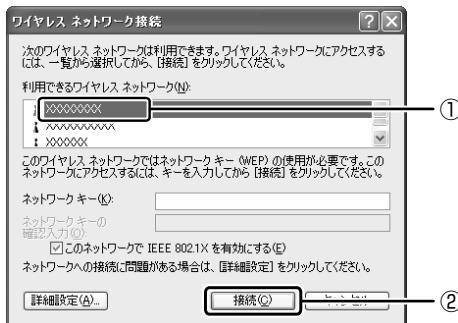
ワイヤレスコミュニケーション（）LED が点灯します。



無線 LAN 機能が起動すると、パソコンは自動的に利用できるネットワークを検索します。

利用できるネットワークが検出された場合、タスクバーにメッセージが表示されます。

- 2 [ワイヤレスネットワーク接続] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [利用できるワイヤレスネットワークの表示] をクリックする
[ワイヤレスネットワーク接続] 画面が表示されます。
- 3 [利用できるネットワーク] の使いたいネットワークを選択し①、[接続] ボタンをクリックする②



接続できると、タスクバーに [ワイヤレスネットワーク接続 に接続しました] とメッセージが表示されます。

- 4 [スタート] → [マイコンピュータ] を開き、[その他] の [マイネットワーク] をクリックする
- 5 [ネットワークタスク] の [ワークグループのコンピュータを表示する] をクリックする

無線 LAN でつながれた、他のパソコンなどのデバイスが表示されます。

メモ

[ワイヤレスネットワーク接続] アイコンをクリックすると [ワイヤレスネットワーク接続の状態] 画面が表示され、接続の状態、接続継続時間、通信速度、シグナルの強さなど動作状況がわかります。

ヘルプの起動

無線 LAN の詳しい情報は『Windows のヘルプ』を参照してください。

③ ネットワーク設定に便利な機能

本製品に用意されている「ConfigFree」を使うと、ネットワークの診断を行い、問題があればその原因や対応策を表示することができます。さらに、ネットワークの設定やネットワークデバイスの切り替えをより簡単に行うことができます。例えば、自宅とオフィスのネットワーク設定を登録しておけば、プロファイルを選択するだけで、設定を切り替えることができます。

無線 LAN アクセスポイントの SSID 名により自動でプロファイルを切り替える機能を使えば、自宅とオフィス間のネットワーク設定を、自動で切り替えることが可能です。

また、LAN ケーブルが抜かれたときに、自動で無線 LAN に切り替える機能も用意されています。

「ConfigFree」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで使用してください。

「ConfigFree」の起動方法

「ConfigFree」は、Windows を起動するとタスクバーにアイコン（）が表示されています。

「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA ConfigFree]
→ [ConfigFree] をクリックする

タスクバーにアイコン（）が表示され、[ConfigFree (ネットワークドクター)] 画面が表示されます。

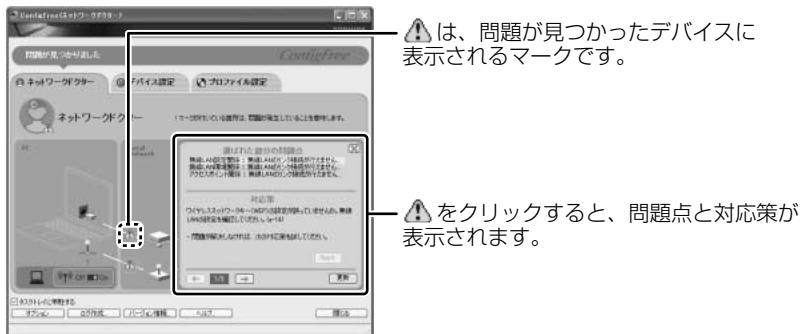
「ConfigFree」を初めて起動したときは、「ConfigFree」の説明画面が表示されます。以降必要な場合は、[次回から表示しない] をチェックし、[閉じる] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

1 ネットワークの診断を行う

「ConfigFree」では、ネットワークの状態を診断し、問題があればその原因と対応策を表示します。

- タスクバーの [ConfigFree] アイコン () をクリックし、表示されたメニューから [ネットワークドクター] をクリックする
[ConfigFree (ネットワークドクター)] 画面が表示されます。

[[ConfigFree (ネットワークドクター)] 画面]



また、画面上でネットワークデバイスのイラストにポインタを合わせると、それぞれのデバイスの説明やIPアドレスなどの情報が表示されます。

2 デバイスを切り替える

「ConfigFree」では、次のように操作をして、デバイスを簡単に切り替えることができます。

- タスクバーの [ConfigFree] アイコン () をクリックし、表示されたメニューから有効／無効にしたいデバイス名にポインタを合わせ①、有効／無効をクリックする②



デバイスの切り替えが行われます。

【 その他のデバイス設定 】

[ConfigFree] アイコン () → [デバイス] → [開く] をクリックすると、[ConfigFree (デバイス設定)] 画面が表示されます。この画面では次の設定を行うことができます。

- **自動切り替え（ケーブル切断）**

[ネットワークケーブル切断時に無線 LAN へ切り替わります。] をチェックすると、有線 LAN ケーブルが抜けたとき、自動的に無線 LAN が有効になります。

- **ネットワークとダイヤルアップ接続**

[ネットワークとダイヤルアップ接続] ボタンをクリックすると [ネットワーク接続] 画面が表示され、ネットワーク接続とダイヤルアップ接続の設定が行えます。

3 ネットワーク設定を切り替える

「ConfigFree」では、ネットワーク設定をプロファイルで管理しているため、プロファイルを選択するだけで、以前登録したネットワーク設定内容に切り替えることができます。

1 タスクバーの [ConfigFree] アイコン () をクリックする

メニューが表示されます。

[プロファイル] の下に表示されている項目が、登録済みのプロファイルです。左側にチェックがついている項目が、現在選択されているプロファイルです。

2 使用したいプロファイルをクリックする

ネットワーク設定の切り替えが行われます。

【 その他のプロファイル設定 】

[ConfigFree] アイコン () → [プロファイル] → [開く] をクリックすると、[ConfigFree (プロファイル設定)] 画面が表示されます。この画面では次の設定を行うことができます。

- **プロファイルの追加**

[追加] ボタンをクリックすると、[プロファイルの追加] 画面が表示されます。登録したいプロファイルの内容を設定してください。プロファイルが追加されます。

- **プロファイルの削除**

プロファイルリストから削除したいプロファイル名を選択し、[削除] ボタンをクリックしてください。プロファイルが削除されます。

● 自動切り替え (SSID)

[自動切り替え] ボタンをクリックすると、[自動切り替え] 画面が表示されます。[自動切り替え (SSID)] タブで [自動切り替え (SSID)] をチェックしてください。接続した無線 LAN ネットワーク (SSID) の設定が登録済みのプロファイルとして検知された場合、自動的にプロファイルが切り替わります。

この他にも、無線 LAN 機能を内蔵したプロジェクタ (TOSHIBA 液晶プロジェクタ : TLP-T701J / TLP-T700J。2003 年 3 月現在) との通信設定を簡単に行えるクリックコネクト機能などがあります。

「ConfigFree」の詳細については、ヘルプまたはファーストユーザーズガイドを確認してください。

終了方法

- 1 タスクバーの [ConfigFree] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [終了] をクリックする

ヘルプの起動方法

- 1 「ConfigFree」を起動後、表示された画面の [ヘルプ] ボタンをクリックする
[ConfigFree ヘルプ] 画面が表示されます。

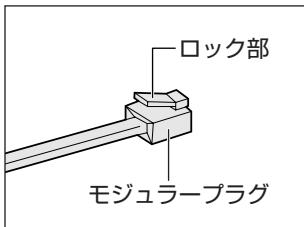
ファーストユーザーズガイドの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA ConfigFree]
→ [ファーストユーザーズガイド] をクリックする

7 内蔵モデム

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。ISDN回線に接続する場合は、ご使用のターミナルアダプタ（TA）またはダイヤルアップルータのアナログポートなどに接続してください。

内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6Kbpsで接続されます。



モジュラーケーブルを差し込むまたははずすときは、モジュラープラグを持って行い、ケーブルは引っ張らないでください。また、はずすときは、モジュラープラグのロック部を押さえながら抜きます。

お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- 雷雲が近づいたときは、モジュラープラグを電話回線用モジュラージャックから抜いてください。電話回線に落雷した場合、モデムやパソコン本体が破壊されるおそれがあります。
- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

1 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2003年3月現在)

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

参照 ➤ 内蔵モデム地域選択ユーティリティ『オンラインマニュアル』

4 章

周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。本製品に取り付けられる周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

1	周辺機器について	76
2	PC カードを使う	77
3	SD メモリカードを使う	80
4	USB 対応機器を接続する	85
5	CRT ディスプレイを接続する	87
6	メモリを増設する	89

1 周辺機器について

周辺機器を使って、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。

周辺機器によってインターフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。

お願い 取り付け／取りはずしにあたって

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。

- ホットインサーション（電源を入れた状態での機器の取り付け／取りはずし）に対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタからACアダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

2 PC カードを使う

本製品のPCカードスロットでは、PC Card Standard 準拠のTYPE II対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

⚠ 注意

- PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。

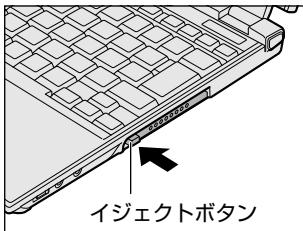
お願い

- ホットインサーションに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。

1 取り付け

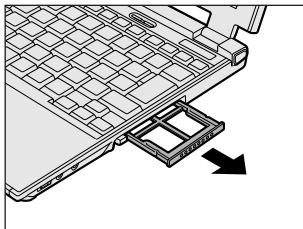
1 ケーブルの接続が必要なときは、PCカードにケーブルを付ける

2 PCカードスロットのイジェクトボタンを2回押す



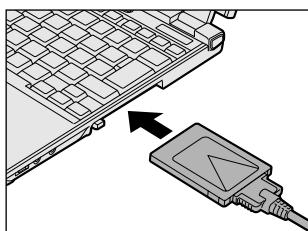
1回押すとイジェクトボタンが出てくるので、もう1度力チックと音がするまで押してください。ダミーカードが出てきます。

3 ダミーカードを抜く



ダミーカードはなくさないように保管してください。

4 PC カードの表裏を確認し、表を上にして挿入する



カードは、無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PC カードを使用できない、または PC カードが壊れることがあります。

参照 カードの接続および環境の設定方法『PC カードに付属の説明書』

2 取りはずし

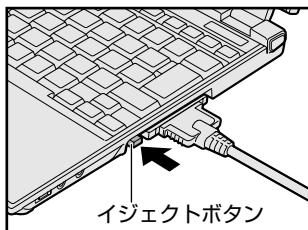
お願い

- 取りはずすときは、PC カードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- PC カードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

1 PC カードの使用を停止する

- ① タスクバーの [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 PC カードスロットのイジェクトボタンを 2 回押す



1 回押すとイジェクトボタンが出てくるので、もう 1 度力チックと音がするまで押してください。カードが少し出てきます。

3 カードをしっかりとつかみ、引き抜く

熱くないことを確認してから行ってください。

カードを引き抜くときはケーブルを引っ張らないでください。

故障するおそれがあります。

4 ダミーカードを挿入する

お願い

- PC カードを取りはずした後はダミーカードを挿入してください。
- ほこりやゴミなどが PC カードスロットに入り、故障するおそれがあります。

3 SDメモリカードを使う

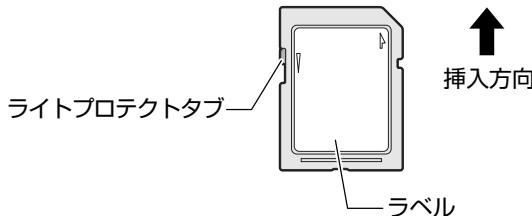
SDメモリカードをSDメモリカードスロットに差し込んで使用できます。
本製品のSDメモリカードスロットでは、マルチメディアカードは使用できません。

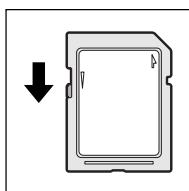
お願い SDメモリカードの使用にあたって

- SDメモリカードは、SDMIの取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMIとはSecure Digital Music Initiativeの略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SDメモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐSDMIに準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

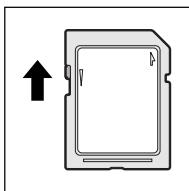
1 SDメモリカードについて

SDメモリカードは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにできます。



**書き込み禁止状態**

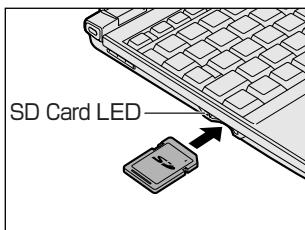
ライトプロテクトタブを挿入とは反対の方向へ移動させます。この状態の SD メモリカードには、データの書き込みはできません。データの読み取りはできます。

**書き込み可能状態**

ライトプロテクトタブを挿入と同じ方向へ移動させます。この状態の SD メモリカードには、データの書き込みも読み取りもできます。

2 セット**お願い**

- SD Card LED が点灯中は、電源を切ったり、SD メモリカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。
データや SD メモリカードが壊れるおそれがあります。
- SD メモリカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、SD メモリカードのデータが壊れるおそれがあります。

1 SD メモリカードの表裏を確認し、表を上にして、SD メモリカードスロットに挿入する

奥まで挿入します。

SD メモリカードとデータをやり取りしているときは、SD Card LED が点灯します。

3 取り出し

1 SDメモリカードの使用を停止する

- ① タスクバーの [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [TOSHIBA SD Memory Card Drive を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 SDメモリカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

4 SDメモリカードのフォーマット

フォーマットとは、SDメモリカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、SDメモリカードを使えるようにすることです。

新品のSDメモリカードは、SDメモリカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。

再フォーマットをする場合は、「東芝 SDメモリカードフォーマット」またはSDメモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。

SDメモリカードを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

お願い

- Windows 上 ([マイコンピュータ] 画面) で SDメモリカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤなど他の機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのSDメモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したSDメモリカードを再フォーマットする場合は注意してください。

東芝SDメモリカードフォーマットを使ってフォーマットする

お願い

- 「東芝SDメモリカードフォーマット」以外の、SDメモリカードを使用するアプリケーションはあらかじめ終了させてください。

1 SDメモリカードをセットする

- [スタート] → [すべてのプログラム] → [東芝SDカードユーティリティー] → [東芝SDメモリカードフォーマット] をクリックする
- [ドライブ] で、SDメモリカードのドライブを選択し、必要に応じて [フォーマットオプション] でフォーマットの種類を設定する



● 簡易フォーマット

ファイルの削除のみを行い、すべての領域の初期化は行われません。

● 完全フォーマット

SDメモリカードのすべての領域を初期化します。簡易フォーマットに比べて、フォーマットに時間がかかります。

4 [スタート] ボタンをクリックする

メッセージが表示されます。

5 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

6 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

SDメモリカードの取り扱い

SDメモリカードを取り扱うときには、次のことを守ってください。

- SDメモリカードに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作つて保管するようにしてください。
SDメモリカードに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- SDメモリカードの接触面（コンタクトエリア）を触らないでください。
ごみや異物が付着したり、汚れると使用できなくなります。
- 強い静電気、電気的ノイズの発生しやすい環境での使用、保管をしないでください。
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 高温多湿の場所、また腐食性のある場所での使用、保管をしないでください。
- 持ち運びや保管の際は、SDメモリカードに付属のケースに入れてください。
- SDメモリカードが汚れたときは、乾いた柔らかい素材の布で拭いてください。
- 新たにラベルやシールを貼らないでください。

4 USB 対応機器を接続する

USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

パソコン本体背面の USB コネクタに接続して使用できます。

お願い 操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム（OS）、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての USB 対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべての USB 対応機器の動作は保証できません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

1 取り付け

1 USB ケーブルのプラグを USB 対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB 対応機器についての詳細は、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 USB ケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む

2 取りはずし

お願い

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MO ドライブなど、記憶装置の USB 対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 USB 対応機器の使用を停止する

- ① タスクバーの [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす USB 対応機器) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 パソコン本体と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

5 CRT ディスプレイを接続する

RGB コネクタにケーブルを接続して、CRT ディスプレイに表示させることができます。

パソコンの電源を切ってから接続してください。

1 表示装置を切り替える

CRT ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

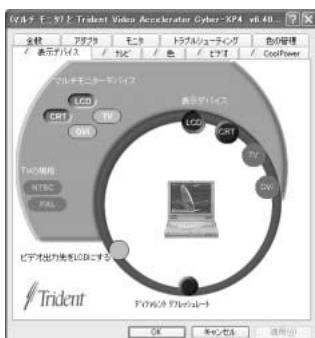
- 内部液晶ディスプレイだけに表示する（初期設定）
- CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- CRT ディスプレイだけに表示する

省電力ユーティリティで表示自動停止機能を設定して CRT ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スタンバイに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。

表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがあります、故障ではありません。

【方法 1— 画面のプロパティで設定する】

- 1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [デスクトップの表示とテーマ] をクリックし、[画面] をクリックする
- 3 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする
- 4 [表示デバイス] タブで表示する装置を有効にする



表示装置名をクリックすると有効になり、文字が黄色になります。

- LCD 内部液晶ディスプレイに表示
- CRT CRT ディスプレイに表示

[LCD] と [CRT] を有効にすると、同時表示されます。

5 [OK] ボタンをクリックする

6 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

【方法2—**(Fn) + (F5)**キーを使う】

(Fn)キーを押したまま**(F5)**キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。**(F5)**キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、**(Fn)**キーを離すと表示装置が切り替わります。

現在の表示装置がLCD（内部液晶ディスプレイ）以外に設定されている場合、**(Fn) + (F5)**キーを3秒間押し続けると、表示装置がLCDに戻ります。

- LCD 内部液晶ディスプレイだけに表示
- LCD／CRT 内部液晶のディスプレイとCRTディスプレイの同時表示
- CRT 内部液晶ディスプレイとCRTディスプレイを接続している／していないに関わらず、CRTディスプレイだけに表示されます。
内部液晶ディスプレイには何も表示されません。

複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは「Windowsのログオフ」画面で「ログオフ」を選択して切り替えてください。「ユーザの切り替え」で切り替えた場合は、**(Fn) + (F5)**キーで表示装置を切り替えられません。

参照 ➔ ユーザアカウントの切り替え『Windowsのヘルプ』

2 表示について

CRTディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRTディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

参照 ➔ ビデオモードについて「付録 1-3 サポートしているビデオモード」

6 メモリを増設する

増設メモリスロットに512MBまでの増設メモリを取り付けることができます。

⚠ 警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

⚠ 注意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後はやけどするおそれがあるので増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。

お願い

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

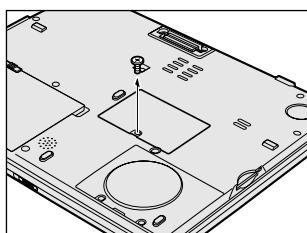
増設メモリは、本製品で動作が保証されているものを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。

静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

1 取り付け／取りはずし

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3 バッテリパックを取りはずす
参照 バッテリパックについて「5章 1-③ バッテリパックを交換する」
- 4 増設メモリカバーのネジをはずし、増設メモリカバーをはずす

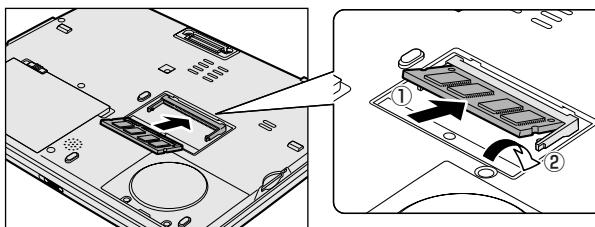


5 増設メモリを取り付けまたは取りはずす

● 取り付け

増設メモリスロットのコネクタにあわせて斜めに挿入し①、固定するまで倒す②

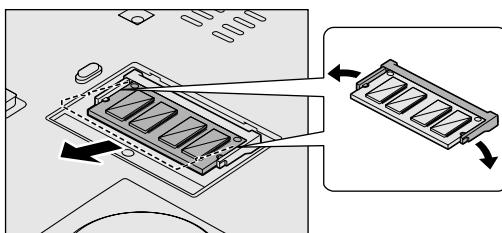
増設メモリの切れ込みを、コネクタのツメにあわせてしっかり差し込みます。フックがかかりにくいときには、ペン先などで広げてください。



● 取りはずし

増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き、増設メモリを取りはずす

斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。



6 増設メモリカバーをはめ、手順4ではずしたネジでとめる

7 バッテリパックを取り付ける

参照 バッテリパックについて「5章 1-③ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

2 メモリ容量の確認

メモリ容量は「PC診断ツール」で確認することができます。

【確認方法】

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [東芝ユーティリティ] → [PC診断ツール] をクリックする
- ② [基本情報の表示] ボタンをクリックする
- ③ [メモリ] の数値を確認する

5章

バッテリ駆動

ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定など、バッテリを使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

-
- 1 バッテリについて 94
 - 2 省電力の設定をする 102
 - 3 大容量バッテリパックを使う 107

1 バッテリについて

パソコン本体には、バッテリパックが取り付けられています。

バッテリを充電して、バッテリ駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリの充電を完了（フル充電）させます。または、フル充電したバッテリパックを取り付けます。本製品を初めて使用するときは、バッテリを充電してから使用してください。

『安心してお使いいただくために』に、バッテリパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

⚠ 危険

- バッテリパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリ（TOSHIBA バッテリパック:PABAS017）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがありますため発煙、火災のおそれがあります。

⚠ 警告

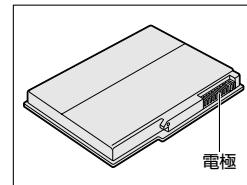
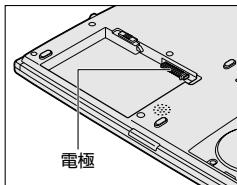
- 別売りのバッテリパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。
お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。

⚠ 注意

- バッテリパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。
充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- バッテリパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。

お願い

- バッテリ駆動で使用しているときは、バッテリの残量に十分注意してください。
バッテリパックを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、一度全バッテリを充電するために、ACアダプタを接続して充電してください。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

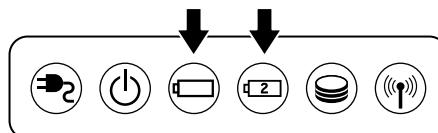


1 バッテリ充電量を確認する

バッテリ駆動で使う場合、バッテリの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが緑色に点灯すれば充電完了です。また、大容量バッテリパックを取り付けている場合は、大容量バッテリ LEDが緑色に点灯すれば充電完了です。



バッテリ駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリの充電が必要です。LEDの色は次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	<ul style="list-style-type: none">・ACアダプタが接続されていない／バッテリ駆動で使用中・バッテリが接続されていない・バッテリ異常

2 タスクバーの【省電力】アイコンで確認する

タスクバーの【省電力】アイコン()の上にポインタを置くと、バッテリ充電量が表示されます。

このときバッテリ充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリ駆動で使用している場合には、バッテリ動作予想時間も表示されます。



参照 ➤ 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1ヶ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリ駆動を行わないと、バッテリ充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリ充電量が減少したときは、Battery LEDや【省電力】アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヶ月に1度は再充電することを推奨します。

参照 ➤ 再充電について「本節 ②-2 バッテリを長持ちさせるには」

3 バッテリ充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery □ LEDがオレンジ色に点滅する(バッテリの減少を示しています)
- バッテリのアラームが動作する

東芝省電力ユーティリティの【アラーム】タブで設定すると、バッテリの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- パソコン本体にACアダプタを接続し、電源を供給する
- 電源を切ってから、フル充電のバッテリパックを取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリ減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切れます。

長時間使用しないでバッテリが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery □ LEDでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリ

本製品には、取りはずしができるバッテリパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリが内蔵されています。

時計用バッテリの充電は、パソコン本体の電源が入っているときに行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

時計用バッテリが切れていると、時間の再設定をうながすWarning(警告)メッセージが出ます。

【充電完了までの時間】

状態	時計用バッテリ
電源ON(Power ▶ LEDが緑色に点灯)	8時間

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2 バッテリを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い

- バッテリパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリは 10 ~ 30°C の室温で充電してください。

1 充電方法

大容量バッテリパックを取り付けている場合は、標準のバッテリパック→大容量バッテリパックの順に充電されます。

1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN  LED が緑色に点灯して Battery  LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源の ON / OFF にかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery LED が緑色になるまで充電する

バッテリの充電中は Battery  LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN  LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

メモ

パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

【充電完了までの時間】

状態	電源 ON	電源 OFF
標準のバッテリパック	約2～4時間	約2時間
大容量バッテリパック	約3～8時間	約3時間

(注) 周囲の温度が低いとき、バッテリパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くかかることがあります。

【使用できる時間】

バッテリ駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。

次の時間は、充電完了の状態で使用した場合の目安にしてください。

測定法	JEITA 測定法 1.0
標準のバッテリパック	約2.5時間
標準のバッテリパック+大容量バッテリパック	約8.1時間

【使っていないときの充電保持時間】

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリ充電量は少しずつ減っていき、放置環境などによって異なります。

次の保持時間は、フル充電した状態で電源を切った場合の目安にしてください。

パソコン本体の状態	電源 OFF または休止状態	スタンバイ
標準のバッテリパック	約14日	約2日
標準のバッテリパック+大容量バッテリパック	約44日	約6日

スタンバイを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリ駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

2 バッテリを長持ちさせるには

- ACアダプタをコンセントに接続したままでパソコンを8時間以上使用しない場合は、バッテリを長持ちさせるためにもACアダプタをコンセントからはずしてください。
- 1ヶ月以上の長期間バッテリを使わない場合は、パソコン本体からバッテリパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- 1ヶ月に1度は、ACアダプタをはずしてバッテリ駆動でパソコンを使用してください。
その際には、パソコンを使用する前に次の方法で再充電してください。

1 パソコン本体の電源を切る

2 パソコン本体からACアダプタをはずし、パソコンの電源を入れる 電源が入らない場合は手順4へ進んでください。

3 5分程度バッテリ駆動を行う

この間、Battery □ LEDが点滅するか、充電量が少なくなった等の警告が表示された場合は、すぐにACアダプタを接続し、手順4へ進みます。

4 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ DC IN ▷ LEDが緑色に点灯してBattery □ LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

5 Battery □ LEDが緑色になるまで充電する

バッテリの充電中はBattery □ LEDがオレンジ色に点灯します。

DC IN ▷ LEDが消灯している場合は、通電していません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【バッテリを節約する】

バッテリを節約して、本製品をバッテリ駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

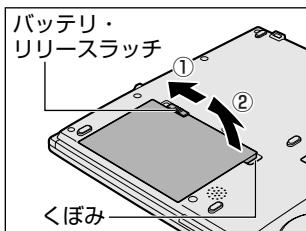
- こまめに休止状態にする 参照 ➤ 「2章 3-② 休止状態」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
参照 ➤ 「2章 3-③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 省電力モードに設定する 参照 ➤ 「本章 2 省電力の設定をする」

③ バッテリパックを交換する

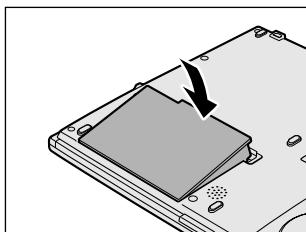
バッテリパックの取り付け／取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

1 取りはずし／取り付け

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す
- 4 バッテリ・リリースラッチをスライドしながら①、くぼみに指をかけてバッテリパックを取りはずす②



- 5 交換するバッテリパックを、カチッという音がするまで静かに差し込む



2 省電力の設定をする

バッテリ駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。

省電力の設定は「東芝省電力ユーティリティ」から行います。

AC アダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありません。

1 起動方法

- 1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [パフォーマンスとメンテナンス] をクリック→ [東芝省電力] をクリックする

2 [電源設定] タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適に使用できます。また、現在の電源やバッテリ残量などの詳細情報も表示します。



【電源に接続】 [バッテリを使用中]

表示されている設定可能な省電力モードの一覧から、設定したい省電力モードに設定します。【電源に接続】 [バッテリを使用中] は AC アダプタ接続／バッテリ駆動での使用によって、自動的に切り替わります。

購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。

フルパワー	最高性能で動作する、消費電力が一番大きいモードです。購入時の初期状態では、[電源に接続] (AC アダプタを使用するとき) がこのモードに設定されています。
ロングライフ	消費電力を優先して省電力制御を行います。
ノーマル	性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。購入時の初期状態では、[バッテリを使用中] (バッテリ駆動で使用するとき) がこのモードに設定されています。
ハイパワー	性能を優先して省電力制御を行います。
DVD 再生	性能と消費電力を両立して DVD の再生などに適した省電力制御を行います。
プレゼンテーション	性能と消費電力を両立してプレゼンテーション用ソフトなどの使用に適した省電力制御を行います。
スーパーロングライフ	消費電力を最優先にして省電力制御を行います。

これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

すべての省電力モードは、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項 4 省電力モードの詳細設定」を確認してください。

【省電力モードの作成】

- ①新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- ② [コピー] ボタンをクリックする
[～のコピー] という省電力モードができます。
- ③ その省電力モードの名前を変更する
- ④ 必要に応じて省電力の設定を変更する

【省電力モードの削除】

- ① 削除する省電力モードをクリックする
- ② [削除] ボタンをクリックする

[元に戻す] ボタンで直前に行った削除をキャンセルすることができますが、[閉じる] ボタンをクリックした後には元に戻すことはできません。また、購入時に用意されている省電力モードを削除することはできません。

【タスクバーに省電力モードの状態を表示する】

[タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックする () と現在の省電力モードを示す省電力アイコンがタスクバーに表示されます。

省電力アイコンをダブルクリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを起動できます。

【タスクバーに CPU 周波数の状態を表示する】

[タスクバーに Intel SpeedStep(R)Technology の状態を表示する] をチェックする () と現在の CPU 周波数の状態を示すアイコンがタスクバーに表示されます。

CPU 周波数アイコンをクリックすることにより、CPU 周波数を変更することができます。

3 【休止状態】タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。

使用する場合は、[休止状態をサポートする] をチェックしてください。



参照 ➤ 休止状態について「2章 3-② 休止状態」

4 省電力モードの詳細設定

- 1 東芝省電力のプロパティ】画面の【電源設定】タブで利用したい省電力モードを選択し、【詳細】ボタンをクリックする
選択した省電力モードのプロパティ画面が表示されます。



【全般】タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

【省電力】タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、内部液晶ディスプレイの輝度、CPUの処理速度などを設定します。また、CPUが高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

【動作】タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

メモ

動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、【現在の設定をすべてのモードで使用する】ボタンをクリックします。

[スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める] をチェックする（）と、Windowsログオンパスワードを設定している場合には、復帰するときにWindowsログオンパスワードの入力が必要になります。

【アラーム】タブ

バッテリ残量が少なくなったことをユーザに通知する方法および実行する動作を設定します。

[アラーム] タブは [電源設定] タブで [バッテリ使用中] に登録された省電力モードを選択した場合のみ表示されます。

【デバイスの設定】タブ

省電力モードで使用するとき、デバイスを有効／無効にする設定を行います。

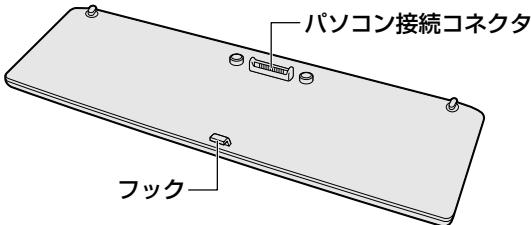
ヘルプの起動方法

- 1 「東芝省電力ユーティリティ」を起動後、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3 大容量バッテリパックを使う

本製品のドッキングポートに大容量バッテリパック（2100シリーズの場合は別売り）を取り付けて、標準バッテリパックと同時に使用することにより、長時間バッテリ駆動で使用することができます。

充電方法、充電時間、バッテリでの使用時間については、標準バッテリパックとあわせて説明していますので、「本章 1 バッテリについて」をご覧ください。

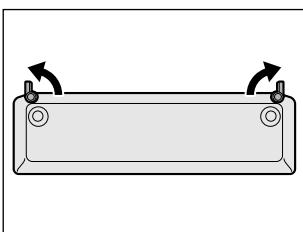


△ 注意

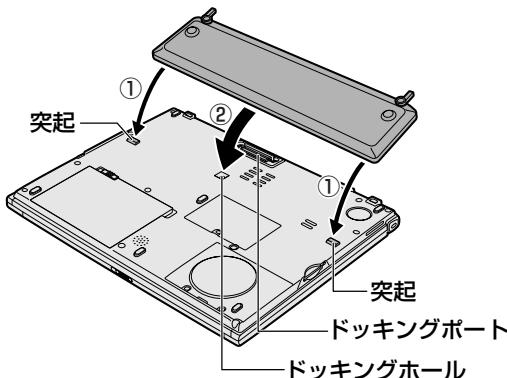
- バッテリパックはしっかりと取り付けられているかどうか、必ず確認してください。正しく取り付けられていないと、持ち運びのときにはずれ落ちて、思わぬケガのおそれがあります。

1 取り付け

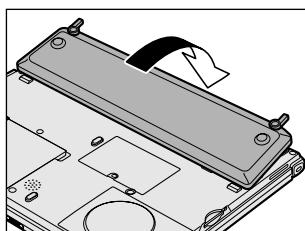
- 1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタや周辺機器のケーブルをはずす
- 2 パソコン本体と大容量バッテリパックを裏返す
- 3 大容量バッテリパックの左右のレバーを垂直に起こす



-
- 4 パソコン本体の突起に大容量バッテリパックをあわせ①、中央のドッキングホールに大容量バッテリパック中央のフックをかける②

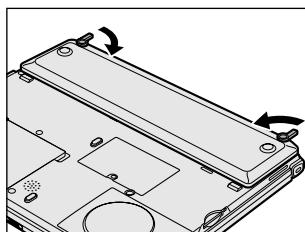


- 5 大容量バッテリパックを矢印の向きに倒す



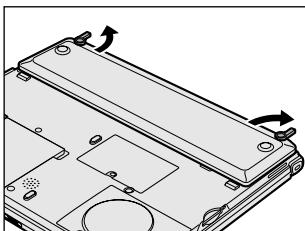
大容量バッテリパックがドッキングポートにはまります。

- 6 大容量バッテリパックのレバーを元の位置に戻し、パソコン本体に固定する

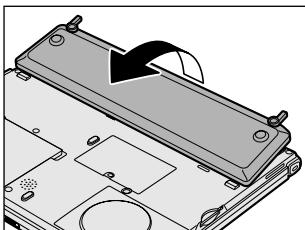


2 取りはずし

- 1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタや周辺機器のケーブルをはずす
- 2 パソコン本体と大容量バッテリパックを裏返す
- 3 大容量バッテリパックの左右のレバーを矢印の方向に起こす



- 4 大容量バッテリパックを矢印の方向に引き上げ、パソコン本体から取りはずす



6 章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

-
- 1 システム環境の変更とは 112
 - 2 東芝HWセットアップを使う 113
 - 3 BIOSセットアップを使う 117
 - 4 パスワードセキュリティ 130

1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

- ハードウェア環境（パソコン本体）の設定
- パスワードセキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、または BIOS セットアップで変更するか、2つの方法があります。

Windows 上のユーティリティには、「東芝 HW セットアップ」、「東芝パスワードユーティリティ」、「東芝省電力ユーティリティ」、「デバイスマネージャ」などがあります。

 東芝省電力ユーティリティについて「5章 2 省電力の設定をする」

通常は、Windows 上のユーティリティで変更することを推奨します。

BIOS セットアップと Windows 上のユーティリティで設定が異なる場合、
Windows 上のユーティリティでの設定が優先されます。

2 東芝 HW セットアップを使う

東芝 HW セットアップは、BIOS セットアップと連動して Windows 上でハードウェアの各種機能を設定するユーティリティです。

パソコンの起動などのさまざまな項目について設定ができます。

複数のユーザで使用する場合も、設定内容は全ユーザで共通になります。

1 起動方法

- 1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [プリンタとその他のハードウェア] をクリック→ [東芝 HW セットアップ] をクリックする

2 設定項目

■ [全般] タブ ■

BIOS セットアップのバージョンと日付などを表示します。

【 [標準設定] ボタン 】

東芝 HW セットアップの設定をご購入時の状態に戻します。

【 [バージョン情報] ボタン 】

東芝 HW セットアップのバージョン情報を表示します。

■ [デバイスの設定] タブ ■

パソコンが起動したときに BIOS セットアップが初期化する装置を指定します。

【 デバイスの設定 】

● 全デバイス設定

すべての装置を初期化します。

● OS による設定（標準値）

システムをロードするのに必要な装置のみ初期化します。それ以外の装置はシステムが初期化します。通常はこちらに設定します。

■ [ディスプレイ] タブ ■

表示する装置を選択します。

【起動時の表示装置】

- 自動選択

システム起動時に、外部ディスプレイが接続されている場合は、外部ディスプレイだけに表示します。システム起動時に、外部ディスプレイが接続されていない場合は、内部液晶ディスプレイに表示します。

- 内部LCD/ アナログRGB 同時表示

外部ディスプレイと内部液晶ディスプレイの両方に表示します。

参照 ➤ CRTディスプレイの接続「4章 5 CRTディスプレイを接続する」

■ [CPU] タブ ■

CPUについて設定します。

【CPU周波数の設定】

- ダイナミック切替モード（標準値）

CPUの消費電力・周波数切り替え機能を有効にし、パソコンを使用中、必要に応じて自動的に切り替わるようにします。

- 常時高速モード

CPUの消費電力・周波数切り替え機能を無効にし、常時、高周波数で動作します。

- 常時標準モード

CPUの消費電力・周波数切り替え機能を無効にし、常時、標準周波数で動作します。

■ [OSの起動] タブ ■

パソコンの起動について設定します。

【OSの起動】

システムを起動するディスクドライブの順番を選択します。

通常は【HDD → FDD → CD-ROM → LAN】に設定してください。

【HDDの起動】

ハードディスクドライブを複数使用する場合に、システムを起動する順番を設定します。

- Built-in HDD → PC Card (標準値)

パソコン本体のハードディスク→PCカードタイプのハードディスクの順で起動します。

- PC Card → Built-in HDD

PCカードタイプのハードディスク→パソコン本体のハードディスクの順で起動します。

【ネットワークブートプロトコル】

ネットワークからの起動について設定します。

- PXE (標準値)

PXEプロトコルに設定します。

- RPL

RPLプロトコルに設定します。

■ [キーボード] タブ ■

【キーボードによるスタンバイ復帰】

この機能を有効にすると、スタンバイ時にどれかキーを押して復帰させることができます。

- 有効にする

- 無効にする (標準値)

■ [USB] タブ ■

USB対応機器について設定します。

レガシーサポートを行うと、ドライバが必要なUSB対応機器でもドライバなしで使用できます。

【USBキーボード／マウス レガシーサポート】

USBキーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- 有効にする (標準値)

レガシーサポートを行います。ドライバなしでUSBキーボード、USBマウスが使用可能になります。通常はこちらに設定します。

- 無効にする

レガシーサポートを行いません。

【 USB フロッピーディスク レガシーサポート 】

USB フロッピーディスクドライブのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- 有効にする（標準値）

レガシーサポートを行います。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。

- 無効にする

レガシーサポートを行いません。

■ [LAN] タブ ■

LAN 機能について設定します。

【 LAN のウェイクアップ 】

LAN のウェイクアップ機能とは、ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れる機能です。

LAN のウェイクアップ機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。

【 内蔵 LAN 】

内蔵 LAN を使用するかどうかを設定します。

ヘルプの起動方法

- 1 「東芝 HW セットアップ」を起動後、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3 BIOS セットアップを使う

BIOS セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。

次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

BIOS セットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更は Windows 上の「東芝 HW セットアップ」、「東芝パスワードユーティリティ」、「東芝省電力ユーティリティ」、システムの「デバイスマネージャ」などで行ってください。
BIOS セットアップと Windows 上のユーティリティでの設定が異なる場合、Windows 上のユーティリティでの設定が優先されます。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOS セットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリが消耗して取り換えた場合は標準設定値に戻ります。

1 起動と終了

1 起動

1 [Esc]キーを押しながら電源を入れる

「Password =」と表示された場合は、次のように操作してください。

- 「Password =」と表示されたとき
 - ・ ユーザパスワードを登録してある場合
 - ① ユーザパスワードを入力し、[Enter]キーを押す
 - ・ ユーザパスワードと HDD パスワードの両方を登録してある場合
 - ① ユーザパスワードを入力し、[Enter]キーを押す
 - ユーザパスワードと HDD パスワードに同じパスワードを登録してある場合は、手順 2 に進んでください。
 - 「HDD Password =」と表示されます。
 - ② HDD パスワードを入力し、[Enter]キーを押す

-
- 「HDD Password =」と表示されたとき
① HDDパスワードを入力し、Enterキーを押す
参考 ➔ パスワードについて「本章 4 パスワードセキュリティ」

「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 **F1**キーを押す

BIOS セットアップが起動します。

2 終了

変更した内容を有効にして終了します。

1 **(Fn) + →**キーを押す

本製品では、**(Fn) + →**が**(End)**キーの機能を持ちます。

「Are you sure? (Y/N) The changes you made will cause the system to reboot.」と表示されます。

2 **(Y)**キーを押す

設定内容が有効になり、BIOS セットアップが終了します。

変更した項目によっては、再起動されます。

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合に行います。この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままでです。

1 **(Esc)**キーを押す

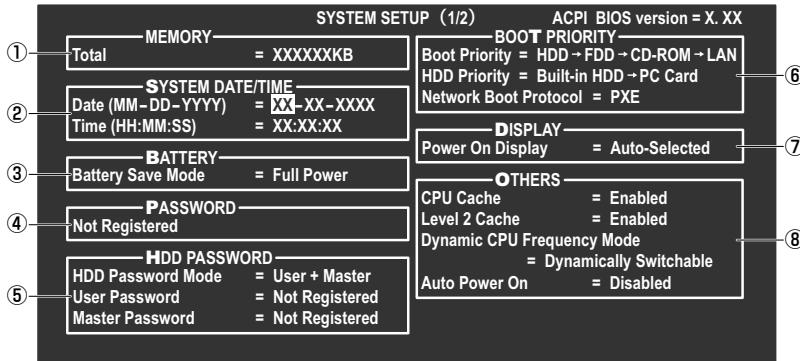
「Exit without saving? (Y/N)」と表示されます。

2 **(Y)**キーを押す

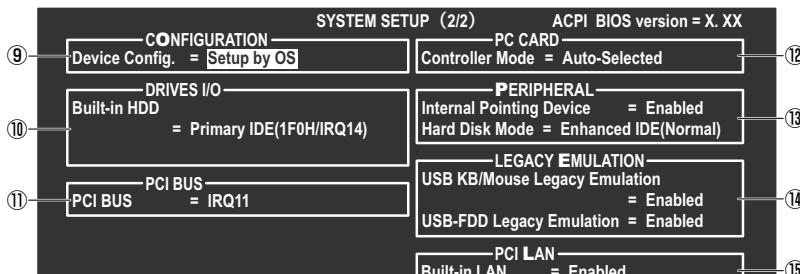
BIOS セットアップが終了します。

2 画面と基本操作

BIOS セットアップには次の 2 つの画面があります。



(注) 画面は標準設定値の表示例です。



(注) 画面は標準設定値の表示例です。

参照 ➤ 設定項目の詳細について 「本節 ③ 設定項目」

基本操作は次のとおりです。

変更したい項目を選択する	(\uparrow)、(\downarrow)、(\leftarrow)、(\rightarrow) 画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。
項目の内容を変更する	(Space)または(BackSpace)
画面を切り替える	(Fn)+(\downarrow)または(Fn)+(\uparrow) 本製品では、(Fn)+(\downarrow)が(PgDn)キー、(Fn)+(\uparrow)が(PgUp)キーの機能を持ちます。 次の画面または前の画面に切り替わります。
設定内容を標準値にする	(Fn)+(\leftarrow) 本製品では、(Fn)+(\leftarrow)が(Home)キーの機能を持ちます。 次の項目は、この操作をしても変更されません。 ●PASSWORD ●Hard Disk Mode ●Write Policy

3 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません（参照のみ）。
ここでは、標準設定値を「標準値」と記述します。

1 MEMORY—メモリ容量を表示する

【 Total 】

本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

2 SYSTEM DATE/TIME—日付と時刻の設定をする

日付と時刻の設定は(Space)または(BackSpace)キーで行います。
時と分、月と日の切り替えは、(\uparrow) (\downarrow)キーで行います。

【 Date 】

日付を設定します。

【 Time 】

時刻を設定します。

3 BATTERY—バッテリで長く使用するための設定をする

【Battery Save Mode】

バッテリセーブモードを設定します。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。

「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

●Full Power (標準値)
Processing Speed = High
CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 30Min.
HDD Auto Off = 30Min.
LCD Brightness = Bright ^{*1}
Super-Bright ^{*2}
Cooling Method = Maximum Performance

●User Setting (設定例)
Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 03Min.
HDD Auto Off = 03Min.
LCD Brightness = Semi-Bright
Cooling Method = Battery Optimized

●Low Power
Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 03Min.
HDD Auto Off = 03Min.
LCD Brightness = Semi-Bright ^{*1}
Bright ^{*2}
Cooling Method = Battery Optimized

(注) LCD Brightness (LCD 輝度) の表示は次の状態で変わります。

*1 バッテリ駆動時

*2 AC アダプタ接続時

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、 キーを押して選択項目を「Cooling Method」の外に移動します。

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Processing Speed

処理速度を設定します。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ High 処理速度を高速に設定する
- ・ Low 処理速度を低速に設定する

● CPU Sleep Mode

CPU が処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。

一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

- ・ Enabled 電力消費を低減する
- ・ Disabled 電力消費を低減しない

- **Display Auto Off (表示自動停止時間)**

時間を設定すると、設定した時間以上キーを押さない場合（マウスやタッチパッドの操作も含む）にディスプレイを消灯して節電します。

画面に表示されている内容が見えなくなりますが、これは故障ではありません。

画面に表示するには、(Shift)キーを押すか、マウス、タッチパッドを操作してください。

- Disabled 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。

- **HDD Auto Off (HDD 自動停止時間)**

設定した時間以上ハードディスクの読み書きをしない場合に、ハードディスクの回転を止めて節電します。

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。ハードディスクドライブを保護するため、「Disabled」は設定できません。

- **LCD Brightness (LCD 輝度)**

画面の明るさを選択します。

- Semi-Bright 低輝度に設定する
- Bright 高輝度に設定する
- Super-Bright 最高輝度に設定する

- **Cooling Method (CPU 熱制御方式)**

CPU の熱を冷ます方式を選択します。

CPU が高熱を帯びると故障の原因になります。

- Maximum Performance ... CPU 温度が上昇したときに、本体内にあるファンを高速回転させて CPU に風を送り、冷やします。
- Performance CPU が高温になったときに、本体内にあるファンが作動し CPU に風を送り、冷やします。
- Battery Optimized CPU が高温になったときに、CPU の処理速度を「Low」にして温度を下げます。「Low」にしても、温度が上がる場合はファンを作動させます。

4 PASSWORD—ユーザーパスワードの登録／削除をする

パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう一度設定を行ってください。

【 Not Registered 】

ユーザーパスワードが設定されていないときに表示されます（標準値）。

【 Registered 】

ユーザーパスワードが設定されているときに表示されます。

 ユーザーパスワードの設定方法「本章 4-① ユーザーパスワード」

5 HDD PASSWORD—HDDパスワードの登録／削除をする

【 HDD Password Mode 】

登録するHDDパスワードを選択します。HDDパスワード（ユーザHDDパスワード、マスタHDDパスワード）を登録していないときのみ、選択できます。HDDパスワードが登録されている場合は、いったんHDDパスワードを削除してから選択してください。

- ・ Master+User（標準値） マスタHDDパスワードとユーザHDDパスワードを設定する
- ・ User Only ユーザHDDパスワードのみ設定する

【 User Password 】

ユーザHDDパスワードを設定します。

【 Master Password 】

マスタHDDパスワードを設定します。

「HDD Password Mode」が「Master+User」の場合のみ表示されます。

マスタHDDパスワードを設定し、続けてユーザHDDパスワードの設定を行います。

 HDDパスワードの設定方法「本章 4-③ HDD パスワード」

6 BOOT PRIORITY—ブート優先順位を設定する

【 Boot Priority 】

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。

通常は「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」に設定してください。

- ・ HDD → FDD → CD-ROM → LAN (標準値)
 - ・ FDD → HDD → CD-ROM → LAN
 - ・ HDD → CD-ROM → LAN → FDD
 - ・ FDD → CD-ROM → LAN → HDD
 - ・ CD-ROM → LAN → HDD → FDD
 - ・ CD-ROM → LAN → FDD → HDD
- 指定のドライブ順に起動する

【 HDD Priority 】

ハードディスクドライブを複数使用する場合に、システムを起動する順番を設定します。

- ・ Built-in HDD → PC Card (標準値) ... パソコン本体のハードディスク→PC カードタイプのハードディスクの順で起動する
- ・ PC Card → Built-in HDD PC カードタイプのハードディスク→パソコン本体のハードディスクの順で起動する

【 Network Boot Protocol 】

ネットワークからの起動について設定します。

- ・ PXE (標準値) PXE プロトコルに設定する
- ・ RPL RPL プロトコルに設定する

7 DISPLAY—表示装置の設定をする

SVGAモードに対応していない外部ディスプレイを接続して、「LCD+AnalogRGB」を選択した場合、外部ディスプレイには画面が表示されません。

【 Power On Display 】

表示装置を選択します。

- ・ Auto-Selected (標準値) .. システム起動時に外部ディスプレイを接続しているときは外部ディスプレイだけに、接続していないときは内部液晶ディスプレイだけに表示する
- ・ LCD + AnalogRGB 外部ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する

8 OTHERS—その他の設定をする

【CPU Cache（キャッシュ）】

CPU内のキャッシュメモリを使用するかどうかの設定をします。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ Disabled キャッシュメモリを使用しない
- ・ Enabled (標準値) ... キャッシュメモリを使用する

「Enabled」を選択すると「OPTION」ウィンドウが開きます。

次に「OPTION」ウィンドウの項目について説明します。

● Write Policy

キャッシュメモリへの書き込み方式を設定します。

- ・ Write-back (標準値) ... 書き込み方式を「Write-back」に設定する
キャッシュメモリにデータを書き込み、キャッシュメモリの状態に応じてメインメモリに書き込みます。
- ・ Write-through 書き込み方式を「Write-through」に設定する
キャッシュメモリとメインメモリに、同時にデータを書き込みます。

【Level 2 Cache】

2次キャッシュを使用するかどうかの設定をします。

「CPU Cache」が「Disabled」に設定されている場合は変更できません。

- ・ Enabled (標準値) ... 2次キャッシュを使用する
- ・ Disabled 2次キャッシュを使用しない

【Dynamic CPU Frequency Mode】

- ・ Dynamically Switchable (標準値) ... CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、使用状況に応じてCPU周波数を自動的に切り替えます。
- ・ Alway High CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、高周波数で動作します。
- ・ Alway Low CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、低周波数で動作します。

【 Auto Power On (タイマ・オン機能) 】

タイマ・オン機能の設定状態を示します。タイマ・オン機能は 1 回のみ有効です。
起動後は設定が解除されます。

Windows XP を使用している場合は「Auto Power On」の設定は無効になります。
Windows のタスクスケジューラを使用してください。

- ・ Disabled (標準値) ... タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能とも設定されていない
- ・ Enabled タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能が設定されている

タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

パスワードと休止状態が設定してある状態で、タイマ・オン機能 (Auto Power On) を設定してシステムを起動させた場合、インスタントセキュリティ状態で起動し「Password=」と表示されます。パスワードを入力すると、休止状態から Windows に復帰します。

インスタントセキュリティとは、画面の表示をオフにし、キー入力（タッチパッド、マウスを含む）もできない状態のことです。

次に「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

アラームの時刻の設定は (Space) または (BackSpace) キーで行います。
時と分、月と日の切り替えは (↑) (↓) キーで行います。

● Alarm Time

自動的に電源を入れる時間を設定します。

- ・ Disabled 時間を設定しない

● Alarm Date Option

自動的に電源を入れる月日を設定します。

「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。

- ・ Disabled 月日を設定しない

● Wake-up on LAN

ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。

「Built-in LAN」が「Enabled」の場合に設定できます。

Wake up on LAN 機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。

- ・ Enabled Wake up on LAN 機能を使用する
- ・ Disabled (標準値) ... Wake up on LAN 機能を使用しない

9 CONFIGURATION

【 Device Config. 】

ブート時に BIOS が初期化する装置を指定します。

- Setup by OS (標準値) ... OS をロードするのに必要な装置のみ初期化する
それ以外の装置は OS が初期化します。
この場合、「PC CARD」内の設定は、「Auto-Selected」固定となり、変更できません。
- All Devices すべての装置を初期化する

プレインストールされている OS を使用する場合は、「Setup by OS」(標準値) を選択することを推奨します。ただし「12 PC CARD」の Controller Mode の設定を「Auto-Selected」以外に設定する場合は「All Devices」に設定してください。

10 DRIVES I/O—HDD、PC カードの設定

【 Built-in HDD 】

ハードディスクドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

【 PC Card 】

PC カードタイプ (TYPE II) のハードディスク (別売り) からシステムを起動させた場合のみ、表示されます。

システムを起動できる PC カードタイプ (TYPE II) のハードディスク (別売り) を PC カードスロットに接続したときのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。

11 PCI BUS—PCI バスの割り込みレベルを表示する

【 PCI BUS 】

PCI バスの割り込みレベルを表示します。変更はできません。

12 PC CARD—PCカードのモードを選択する

【 Controller Mode 】

PC カードのモードを選択します。

「9 CONFIGURATION」の「Device Config.」が「All Devices」の場合に変更できます。

- ・ Auto-Selected (標準値) ... プラグアンドプレイに対応した OS を使用している場合、選択します。
- ・ Card Bus/16-bit Auto-Selected で正常に動作しない CardBus 対応の PC カードを使用する場合に選択します。
- ・ PCIC Compatible Auto-Selected や CardBus/16 - bit で正常に動作しない 16 - bit PC カードを使用する場合に選択します。

13 PERIPHERAL—HDDや外部装置の設定をする

【 Internal Pointing Device 】

タッチパッドの使用する／使用しないを設定します。

- ・ Enabled (標準値) 使用する
- ・ Disabled 使用しない

【 Hard Disk Mode 】

ハードディスクのモードを設定します。

項目を変更する場合は、パーティションの再設定を行ってください。

- ・ Enhanced IDE (Normal) (標準値) 通常はこちらを選択する
- ・ Standard IDE Enhanced IDE に対応していない OS を使用する場合に選択する
この場合、528MB までが使用可能となり、残りの容量は使用できません。

14 LEGACY EMULATION

【 USB KB/Mouse Legacy Emulation 】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- Enabled (標準値) ... レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB キーボード／USB マウスが使用できます。
- Disabled レガシーサポートを行わない

【 USB-FDD Lagacy Emulation 】

- Enabled (標準値) ... レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB フロッピーディスクドライブが使用できます。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。
- Disabled レガシーサポートを行わない

[USB-FDD Lagacy Emulation] が [Enabled] に設定されていても、「[6 BOOT PRIORITY]」の [Boot Priority] が標準値の「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」の場合は、本体ハードディスクから起動します。

15 PCI LAN

【 Built-in LAN 】

内蔵 LAN の機能を有効にするかどうかの設定をします。

- Enabled (標準値) ... 有効にする
- Disabled 無効にする

4 パスワードセキュリティ

本製品では、パスワードを設定できます。

● Windows のログオンパスワード

Windows にログオンするとき

インスタントセキュリティ状態やパスワード保護の設定をしたスクリーンセーバを解除するとき

参照 インスタントセキュリティ機能
「3章 2-②- **(Fn)**キーを使った特殊機能キー」

● ユーザパスワード、スーパーバイザパスワード

電源を入れたときや東芝パスワードユーティリティを使用するとき

通常はユーザパスワードを登録してください。

参照 ユーザパスワード 「本節 ① ユーザパスワード」

スーパーバイザパスワードは、パソコン本体の環境設定を管理する人が使用します。スーパーバイザパスワードを登録すると、スーパーバイザパスワードを知らないユーザは、BIOS セットアップの設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。

この制限を加える必要がなければ、ユーザパスワードだけ登録してください。

参照 スーパーバイザパスワード 「本節 ② スーパーバイザパスワード」

● HDD パスワード

ハードディスクを起動するとき

参照 HDD パスワードについて 「本章 ③ HDD パスワード」

ここでは、ユーザパスワード／スーパーバイザパスワードの設定方法とトークン^{*1}の作成方法、HDD パスワードについて説明します。

*1 パスワードの代わりに使用できる SD メモリカードです。

メモ

パスワードは、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うものを使用してください。

1) ユーザパスワード

パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。

なおユーザパスワードの設定は、「東芝パスワードユーティリティ」を使用することをおすすめします。

1 ユーザパスワードの登録

東芝パスワードユーティリティでの登録

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [東芝ユーティリティ] → [東芝パスワードユーティリティ] をクリックする

2 [登録] ボタンをクリックする

[ユーザパスワードの登録] 画面が表示されます。

3 [入力] にパスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

パスワードは「* * * * * (アスタリスク)」で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット（半角）	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字（半角）	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号の一部（半角）	- ! @ < > ; : . (スペース)
使用できない文字	<ul style="list-style-type: none"> ・全角文字（2バイト文字） ・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ（全角／半角）、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号など ・記号の一部（半角） 【例】 （バーチカルライン）、_（アンダーバー）、¥（エン）など 	

入力した文字に使用できない文字が含まれていた場合は警告メッセージが表示されます。

メッセージの内容に従って、もう一度パスワードを入力してください。

4 [確認入力] に手順3で入力したパスワードをもう1度入力する

5 [登録] ボタンをクリックする

パスワードが登録されます。

入力エラーのメッセージが表示された場合は、[OK] ボタンをクリックして画面を閉じ、手順3から操作をやり直してください。

パスワードの文字列をファイルとして保存しておくことを推奨するメッセージが表示されます。

このファイルをパスワードファイルと呼びます。パスワードファイルを保管しておけば、パスワードを忘れた場合、本機または本機以外の機器でパスワードを確認することができます。

6 パスワードファイルを作成する場合は [OK] ボタンをクリックする

パスワードファイルを作成しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。

[OK] ボタンをクリックすると、[名前を付けて保存] 画面が表示されます。

7 パスワードファイルを作成する

パスワードファイルの保存先は、フロッピーディスクなどの外部記憶メディアを推奨します。あらかじめ用意しておいてください。

- ① メディアをセットする
- ② [保存する場所] で保存先を選択する
- ③ [ファイル名] にファイル名を入力する
- ④ [保存] ボタンをクリックする

お願い

- パスワードファイルを保存した外部記憶メディアは、安全な場所に保管してください。

【トークンの作成】

トークンとは、パスワードの代わりに使用することができるSDメモリカードです。トークンを作成するには、フォーマット済みのSDメモリカードが必要です。あらかじめ用意しておいてください。また、一部のフォーマット形式には対応しておりません。対応していないSDメモリカードをセットした場合は、警告メッセージが表示されます。その場合は、別のSDメモリカードを使用するか、「東芝SDメモリカードフォーマット」でフォーマットしてください。

 SDメモリカードのフォーマット

「4章 3-4 SDメモリカードのフォーマット」

トークンの作成は、パスワードを登録済みの場合のみ行えます。あらかじめパスワードを登録しておいてください。

- 1 SDメモリカードをセットする
- 2 [作成]ボタンをクリックする
[ユーザトークンの作成]画面が表示されます。
- 3 [SDカードのドライブ]でSDメモリカードのドライブを選択する
- 4 [作成]ボタンをクリックする
- 5 表示されたメッセージの内容を確認し、[OK]ボタンをクリックする
トークンが作成されます。
- 6 表示されたメッセージの内容を確認し、[OK]ボタンをクリックする

BIOSセットアップでの登録

- 1 BIOSセットアップを起動する
- 2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Not Registered」に合わせ、**(Space)**または**(BackSpace)**キーを押す
パスワードが入力できる状態になります。
- 3 パスワードを入力する
パスワードは50文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、「東芝パスワードユーティリティ」の場合と同様です。
- 4 **(Enter)**キーを押す
パスワードが確認され、「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。

5 もう 1 度パスワードを入力する

確認のため、手順 3 と同じパスワードをもう 1 度入力してください。

6 [Enter] キーを押す

パスワードが登録されます。2 回目のパスワードが 1 回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。手順 3 からやり直してください。

2 ユーザパスワードの削除

東芝パスワードユーティリティでの削除

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [東芝ユーティリティ] → [東芝パスワードユーティリティ] をクリックする
[東芝パスワードユーティリティ] 画面が表示されます。
パスワードまたはトークンで認証を行ってください。
トークンを使用する場合は、ここでトークンをセットしてください。

2 [削除] ボタンをクリックする

[ユーザパスワードの削除] 画面が表示されます。

3 [パスワード] に、登録してあるパスワードを入力する

トークンを使用する場合は、[トークンで認証] を選択し、[SD カードのドライブ] でトークンをセットしたドライブを選択してください。

4 [削除] ボタンをクリックする

- 5 表示されたメッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードが削除されます。

6 表示されたメッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

BIOS セットアップでの削除

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Registered」に合わせ、 [Space] または [BackSpace] キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると 1 文字ごとに * が表示されます。

4 [Enter]キーを押す

「Password」が「New Password」に変わって表示されます。

5 [Enter]キーを押す

ここでは何も入力しません。

「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。

6 [Enter]キーを押す

ここでは何も入力しません。

パスワードが変更されます

手順3で入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、ビープ音が鳴りエラーメッセージが表示されます。手順3からやり直してください。

入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう一度設定を行ってください。

3 ユーザパスワードの変更**東芝パスワードユーティリティでの変更**

- [スタート] → [すべてのプログラム] → [東芝ユーティリティ] → [東芝パスワードユーティリティ] をクリックする
 [東芝パスワードユーティリティ] 画面が表示されます。
 パスワードまたはトークンで認証を行ってください。
 トークンを使用する場合は、ここでトークンをセットしてください。

2 [変更] ボタンをクリックする

[ユーザパスワードの変更] 画面が表示されます。

3 [現在のパスワード] に、登録してあるパスワードを入力する

トークンを使用する場合は、[トークンで認証] を選択し、[SDカードのドライブ] でトークンをセットしたドライブを選択してください。

4 [入力] に新しいパスワードを入力する**5 [確認入力] に手順4で入力したパスワードをもう一度入力する****6 [変更] ボタンをクリックする**

-
- 7 表示されたメッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする**
エラーメッセージが表示された場合は内容を確認し、[OK] ボタンをクリックして画面を閉じてください。
エラーメッセージの内容が認証エラーの場合は手順 3、確認入力エラーの場合は手順 5 から操作をやり直してください。
 - 8 パスワードファイルを作成する場合は [OK] ボタンをクリックする**
パスワードファイルを作成しない場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。
パスワードファイルの作成方法は、「本項 1- 東芝パスワードユーティリティでの登録」の手順 7 を確認してください。

BIOS セットアップでの変更

- 1 BIOS セットアップを起動する**
- 2 カーソルバーを「Password」の「Registered」に合わせ、
Space または BackSpace キーを押す**
パスワードが入力できる状態になります。
- 3 登録してあるパスワードを入力する**
入力すると 1 文字ごとに * が表示されます。
- 4 Enter キーを押す**
「Password」が「New Password」に変わって表示されます。
- 5 新しいパスワードを入力し、Enter キーを押す**
「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。
- 6 手順 5 で入力したパスワードをもう 1 度入力し、Enter キーを押す**
パスワードが変更されます。
手順 5 と手順 6 で入力したパスワードが一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順 5 からやり直してください。

4 ユーザパスワードの入力

ユーザパスワードが設定されている場合、電源を入れると「Password=」と表示されます。

この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

1 設定したとおりにパスワードを入力し、**[Enter]**キーを押す

Arrow Mode LED、Numeric Mode LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

パスワードを忘ってしまった場合

ユーザ／スーパーバイザパスワードを忘ってしまった場合は、次の方法で確認または解除してください。

- パスワードファイルを確認する

電源を入れるときにパスワードが必要になった場合は、本機以外の機器で確認してください。

- トークンを使用して登録したパスワードを解除する

上記の方法でパスワードの確認または解除できなかった場合は、お近くの保守サービスにご相談ください。

パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できるもの）の提示が必要となります。

【トークンの使用方法】

- 電源を入れるとき

1 「Password=」と表示されたら、トークンをセットする

メモ

あらかじめトークンをセットしておいてから電源を入れると、自動的にパスワードが解除されます。

- 「東芝パスワードユーティリティ」を使用しているとき

1 認証を求める画面が表示されたら、トークンをセットする

「トークンで認証」が選択できない場合は、認証を求める画面を閉じ、もう一度表示させてください。

2 画面に表示された説明に従って操作を行う

パスワードが解除され、次の操作に進みます。

2) スーパーバイザパスワード

「東芝パスワードユーティリティ」で、Windows 上からスーパーバイザパスワードの設定や設定の変更ができます。なお、BIOS セットアップでは設定できません。

メモ

パスワードは、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うものを使用してください。

起動方法

- 1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- 2 「C:\Program Files\Toshiba\Windows Utilities\SVPWTool\TOSPU.EXE」と入力する
- 3 [OK] ボタンをクリックする
[東芝パスワードユーティリティ] 画面が表示されます。
パスワードを設定している場合はパスワードまたはトーカンで認証を行ってください。
- 4 [スーパーバイザパスワード] タブをクリックする

操作方法

スーパーバイザパスワードの登録、削除、変更などの設定方法は、「東芝パスワードユーティリティ」でのユーザパスワードの設定方法と同様です。
ユーザパスワードの設定を確認してください。

参照 ➡ ユーザパスワード「本節 ① ユーザパスワード」

3) HDD パスワード

HDD パスワードは、パソコン本体のハードディスクを保護するセキュリティ機能です。
HDD パスワードの登録、削除、変更などの設定は、BIOS セットアップで行います。

1 注意事項

登録したパスワードの内容は、メモをとるなどして、安全な場所に保管しておくことを強くおすすめします。

お願い

- 万一、登録したパスワードを忘れた場合、修理・保守対応ではパスワードを解除できません。この場合、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、ハードディスクドライブの交換対応となります。
- ハードディスクドライブが使用できなくなったことによる、お客様またはその他の個人や組織に対して生じた、いかなる損失に対しても、当社は一切責任を負いません。
- HDDパスワードの設定については、この点を十分にご注意いただいた上でご使用ください。

2 HDDパスワードの種類

HDDパスワードは、ユーザHDDパスワードとマスタHDDパスワードの2つを設定することが可能です。

【ユーザHDDパスワード】

各パソコンの使用者自身が設定することを想定したパスワードです。

マスタHDDパスワードを削除すると、同時にユーザHDDパスワードも削除されます。

【マスタHDDパスワード】

管理者などがパソコン本体の環境設定を管理／保守するために設定することを想定したパスワードです。

マスタHDDパスワードはユーザHDDパスワードの代わりに使えます。ユーザHDDパスワードを忘れた場合でも、マスタHDDパスワードを入力してハードディスクドライブにアクセスできます。マスタHDDパスワードを使用してユーザHDDパスワードを削除することもできます。

なお、マスタHDDパスワードのみを変更することはできません。

組織などでマスタHDDパスワードを用いた運用を検討した場合、各パソコンのユーザに対してパソコン本体を配布する前に、あらかじめ管理者がBIOSセットアップでマスタHDDパスワードと仮のユーザHDDパスワードを設定しておく必要があります。

ユーザHDDパスワードとマスタHDDパスワードの設定方法は同じです。以降は、ユーザHDDパスワードの設定を例に説明しています。

3 HDDパスワードの登録

マスタHDDパスワード (Master Password) の項目は、「HDD Password Mode」が「Master+User」の場合のみ表示されます。

マスタHDDパスワードを設定し、続けてユーザHDDパスワードの設定を行います。

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「User Password」の「Not Registered」に合わせ、**[Space]**または**[BackSpace]**キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 パスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、ユーザパスワードの場合と同様です。

参照 ユーザパスワードに使用できる文字

「本節 ①-1 東芝パスワードユーティリティでの登録」

パスワードは1文字ごとに*が表示されますので、画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

4 **[Enter]**キーを押す

パスワードが確認され、「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

5 パスワードを入力する

確認のため、手順3と同じパスワードをもう1度入力してください。

6 **[Enter]**キーを押す

パスワードが登録されます。2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。手順3からやり直してください。

4 HDDパスワードの削除

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「User Password」の「Registered」に合わせ、**[Space]**または**[BackSpace]**キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに*が表示されます。

4 [Enter]キーを押す

「User Password」が「New User Password」に変わって表示されます。

5 [Enter]キーを押す

ここでは何も入力しません。

「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

6 [Enter]キーを押す

ここでは何も入力しません。

パスワードが変更されます

手順3で入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、ビープ音が鳴りエラーメッセージが表示されます。手順3からやり直してください。

「HDD Password Mode」で「Master+User」を選択した場合は、マスタHDDパスワードの削除を行うと、同時にユーザHDDパスワードも削除されます。

ユーザHDDパスワードのみを削除することはできません。

5 HDDパスワードの変更**1 BIOS セットアップを起動する****2 カーソルバーを「User Password」の「Registered」に合わせ、
[Space]または[BackSpace]キーを押す**

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに*が表示されます。

4 [Enter]キーを押す

「User Password」が「New User Password」に変わって表示されます。

手順3で入力したパスワードが正しくない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順3からやり直してください。

5 新しいパスワードを入力し、[Enter]キーを押す

「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

6 手順5で入力したパスワードをもう1度入力し、**[Enter]**キーを押す

パスワードが変更されます。

手順5と手順6で入力したパスワードが一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順5からやり直してください。

「HDD Password Mode」が「Master+User」の場合は、手順3でマスタHDDパスワードを入力してください。またはユーザHDDパスワードの代わりに、マスターHDDパスワードを入力することもできます。この場合、マスターHDDパスワードを使ってユーザHDDパスワードを変更することができます。

5 HDDパスワードの入力

HDDパスワードが設定されている場合、電源を入れると「HDD Password=」と表示されます。

この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

1 設定したとおりにHDDパスワードを入力し、**[Enter]**キーを押す

Arrow Mode  LED、Numeric Mode  LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

HDDパスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、ハードディスクドライブ以外のドライブが起動します。ハードディスクドライブ以外のドライブにシステムが入っているメディアがセットされていない場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

7章

困ったときは

パソコンの操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。

トラブルが起ったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

1 トラブルを解消するまで 144

2 Q&A集 148

1 トラブルを解消するまで

パソコンが動かなくなった！今までとは違う動きをする！なんだか変！不安だ！そんなときには次の順番で解消へのアプローチをたどってください。

- パソコンの状態を確認してください。
- 電源は入りますか？
 - 画面は表示されますか？
 - タッチパッド、キーボードは操作できますか？

はい

オンラインマニュアルで調べてください。

パソコンの画面上で本製品の使いかたやトラブルの解消方法を見るることができます。
また、語句（キーワード）を入力して検索できます。

いいえ

本章の「2 Q&A集」で調べてください。

パソコンについてよく問い合わせのあるトラブルの解消方法を、「電源を入れるとき／切るとき」などの操作場面ごとにQ&A形式で説明しています。

「dynabook.com」
で調べてください。
インターネットに接続で
きる場合は「dynabook
.com」のホームページで
調べてください。
本製品の最新情報や、
「よくあるご質問(FAQ)」、
技術情報などが掲載され
ています。

参照 「本節 ①-2
「dynabook.com」
を見る」

アプリケーションの
トラブル

各アプリケーション
のサポート窓口に問
い合わせてください。
「9章 3-③ アプリケ
ーションの問い合わせ先」
を確認してください。

周辺機器のト
ラブル

各周辺機器のサ
ポート窓口に問い合わせ
てください。
『周辺機器に付属の説明
書』を確認してください。

パソコン本体のトラブル

「東芝PCダイヤル」
に問い合わせてく
ださい。
巻末の「トラブルチエッ
クシート」で必要事項
を確認してから、電話
で問い合わせてく
ださい。

故障や修理などについてのサポート情報は、同梱の『東芝PCサポートのご案内』
を確認してください。

1 トラブル解消に役立つ操作

1 コントロールパネルを開く

コントロールパネルとは、パソコンのいろいろな設定をまとめたフォルダです。パソコンの設定を変更したいときには、まずコントロールパネルを開き、その中から目的の設定を行うオプション画面を選ぶことがあります。

1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックする

「本章 2 Q&A 集」では、コントロールパネルの開きかたを省略しています。

2 「dynabook.com」を見る

インターネットのホームページ「dynabook.com」では、本製品の最新情報や技術情報、活用術などを提供しています。

URL <http://dynabook.com/>

1 [スタート] → [インターネット] をクリックする

Internet Explorer が起動します。

購入時の状態では、起動して最初に「dynabook.com」のトップページが表示されるように設定されています。

【サポート情報について】

URL http://dynabook.com/assistspc/index_j.htm

「dynabook.com」のトップページ (<http://dynabook.com/>) からは、「サポート情報」タブをクリックすると表示されます。



「よくあるご質問（FAQ）」や、デバイスドライバや修正モジュールなどのダウンロード、Windows 関連情報をお届けしています。

また、インターネットでのお客様登録を行うことができます。

サポート窓口や修理についても案内しています。

【パソコンの操作に困ったら「よくあるご質問(FAQ)」】

URL http://dynabook.com/assistpc/faq/index_j.htm

「dynabook.com」のトップページ (<http://dynabook.com/>) からは、[サポート情報] タブをクリックし①、[よくあるご質問] をクリックする②と表示されます。



日々よく寄せられる質問について、サポートスタッフが、図や解説をまじえて解決方法を掲載しています。

キーワードでも、普通の文章でも入力して、検索できます。



「dynabook.com」は、最新情報を掲載するため、内容を変更することがあります。

この他、アプリケーションの取り扱い元では、ホームページに情報を掲載している場合があります。

参照 → ホームページアドレスについて

「9章 3-③ アプリケーションの問い合わせ先」

2 Q&A 集

電源を入れるとき／切るとき	151
Q 電源スイッチを押しても反応しない	151
Q 1度電源が入りかけるがすぐに切れる 電源が入らない	151
Q 電源を入れたが、システムが起動しない	152
Q 自動的に電源が入ってしまう	152
Q [終了オプション] から電源が切れない	153
Q 使用中に突然電源が切れてしまった	153
Q しばらく操作しないとき、電源が切れる	153
Q 間違って電源を切ってしまった	154
Q Windows の起動と同時にプログラムが実行される	154
Q パソコンが休止状態にならない	155
Q 休止状態を設定できない	156
画面／表示	156
Q 画面に何も表示されない	156
Q 電源は入っているが、画面に何も表示されない	156
Q 画面が見にくく	157
Q 画面が暗い	157
Q 画面の表示や色がはっきりしない	158
Q CRT ディスプレイで画面の色がにじんだように表示される	158
Windows	158
Q 内蔵時計が合っていない	158
Q パソコンの処理速度が遅くなった	159
バッテリ駆動で使用するとき	160
Q Battery LED が点滅した	160
Q 充電したはずのバッテリパックを使用しても Battery LED がオレンジ色に点滅する	160
Q バッテリ駆動でしばらく操作しないとき、電源が切れる	160
キーボード	161
Q キーを押しても文字が表示されない	161
Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでもしまう ...	161
Q 「＼」(バックスラッシュ) が入力できない	161

Q ひらがなや漢字の入力ができない	162
Q キーボードで入力モードを切り替えたい	162
Q キーに印刷された文字と違う文字が入力されてしまう	162
Q どのキーを押しても反応しない 設定はあってるが、希望の文字が入力できない	163
Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった	163
タッチパッド／マウス	164
Q タッチパッドやマウスを動かしても画面のポインタが動かない (反応しない)	164
Q ダブルクリックがうまくできない	164
Q ポインタの動きが遅い／速い	164
Q USB マウスが使えない	165
通信機能	165
Q 無線 LAN 機能が使えない	165
サウンド機能	165
Q スピーカから音が聞こえない	165
Q サウンド再生時に音飛びが発生する	166
周辺機器	166
Q 周辺機器を取り付けたが正しく動かない	166
PC カード	167
Q PC カードが認識されない	167
Q PC カードの挿入は認識されるがデバイスとして認識されない	167
Q PC カードは認識されるが使用できない	168
SD メモリカード	168
Q SD メモリカードが使えない	168
Q SD メモリカードに書き込み（データの保存）ができない	168
Q SD メモリカードの曲を再生できない	169
Q 「フォーマットされていません」という エラーメッセージが表示された	169
Q 「READ ERROR」「DATA ERROR」「CODE ERROR」 と表示された	169

USB 対応機器	170
Q USB 対応機器が使えない	170
アプリケーション	170
Q アプリケーションが使えない	170
Q アプリケーションが操作できなくなった	171
Q 購入時に入っていたアプリケーションを 誤って削除してしまった	171
メッセージ	171
Q 「Password=」と表示された	171
Q 「パスワードを忘れてしまいましたか？」 「パスワードが誤っています。」と表示された	172
Q 「システムは休止状態からの復帰に失敗しました」 と表示された	172
Q 「RTC battery is low or CMOS checksum is inconsistent」 「Press [F1] key to set Date/Time.」と表示された	172
Q C:> のように表示された	173
Q その他のメッセージが表示された	173
その他	173
Q セーフモードで起動した	173
Q Disk LED が点滅し、パソコン本体から音がする	174
Q 甲高い音がする	174
Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい	174
Q パソコンが応答しない	174
Q コンピュータウイルスに感染した可能性がある	175
Q 異常な臭いや過熱に気づいた！	175
Q 操作できない原因がどうしてもわからない	175
Q パソコンを廃棄したい	176

【電源を入れるとき／切るとき】

Q 電源スイッチを押しても反応しない

- A 電源スイッチを押す時間が短いと電源が入らないことがあります。
Power LED が緑色に点灯するまで押し続けてください。

Q 1度電源が入りかけるがすぐに切れる 電源が入らない

(Battery LED がオレンジ色に点滅している場合)

- A バッテリの充電量が少ない可能性があります。
次のいずれかの対処を行ってください。
- 本製品用のACアダプタを接続して、通電する
(他製品用のACアダプタは使用できません)
 - 充電済みのバッテリパックを取り付ける
-  バッテリの充電について「5章 1-② バッテリを充電する」

(DC IN LED がオレンジ色に点滅している場合)

- A 電源の接続の接触が悪い可能性があります。
バッテリパックやACアダプタを接続し直してください。
-  バッテリパックの取り付け／取りはずし
「5章 1-③ バッテリパックを交換する」
-  ACアダプタの接続
「1章 1-① 電源コードとACアダプタを接続する」

-
- A パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。
パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。
また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。
それでも電源が切れる場合は、保守サービスに連絡してください。



電源を入れたが、システムが起動しない

A システムの入っていないメディアがセットされているドライブが、起動ドライブとして設定されている可能性があります。

CD やフロッピーディスクをシステムが入っているものと取り換えてから、何かキーを押してください。

A システムの入っていないドライブが、起動ドライブとして設定されている可能性があります。

CD-ROM ドライブやフロッピーディスクドライブから CD やフロッピーディスクを取り出し、何かキーを押してください。それでも正常に起動しない場合は、強制終了してください。

強制終了の方法は「Q [終了オプション] から電源が切れない」をご覧ください。
強制終了した後、**(F12)**キーを押しながら電源スイッチを押してください。

システムの入っているドライブのアイコンにカーソルを合わせて**(Enter)**キーを押すと、システムが起動します。

参照 起動ドライブについて「2章 1-3 起動するドライブを変更する場合」



自動的に電源が入ってしまう

A Windows のタスクスケジューラで設定されている可能性があります。

タスクスケジューラで【タスクの実行時にスリープを解除する】に設定されると、スタンバイ中や休止状態のときは自動的に電源が入り、設定したタスクを実行します。

次の手順で設定を変更できます。

① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [タスク] をクリックする

② 設定されているタスクをダブルクリックする

電源が入った時間などを参考に選択してください。

③ [設定] タブの【電源の管理】で【タスクの実行時にスリープを解除する】のチェックをはずす

④ [OK] ボタンをクリックする

A パネルスイッチ機能が設定されている可能性があります。

パネルスイッチ機能とは、ディスプレイを閉じると電源を切り、開けると電源スイッチを押さなくても自動的に電源を入れる機能です。

次の手順で、パネルスイッチ機能の設定を解除できます。

① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリック
→ [東芝省電力] をクリックする

- ② [電源設定] タブで利用する省電力モードを選択して、[詳細] ボタンをクリックする
- ③ [動作] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [何もしない] を選択する
- ④ [OK] ボタンをクリックする
- ⑤ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

① 【終了オプション】から電源が切れない

- A** **[Ctrl]+[Alt]+[Del]**キーを押して、電源を切ってください。
この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。
- ① **[Ctrl]+[Alt]+[Del]**キーを押す
[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。
 - ② メニューバーの [シャットダウン] をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、**[Alt]+[U]**キーを押してください。
 - ③ [コンピュータの電源を切る] をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、**[U]**キーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。
-
- A** **[Ctrl]+[Alt]+[Del]**キーを押しても反応がない場合は、電源スイッチを5秒以上押してください。
この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

② 使用中に突然電源が切れてしまった

- A** パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。
パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。
また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。
それでも電源が切れる場合は、保守サービスに連絡してください。

③ しばらく操作しないとき、電源が切れる

- A** Power  LED が点灯している場合、表示自動停止機能が働いた可能性があります。
画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。
[Shift]キーや**[Ctrl]**キーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。CRT ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに 10 秒前後かかることがあります。

A Power LED がオレンジ色に点滅しているか、消灯の場合、スタンバイまたは休止状態になった可能性があります。

一定時間パソコンを使用しないときに、スタンバイまたは休止状態に移行するように設定されています。

復帰させるには、電源スイッチを押してください。

また、次の手順で設定を解除できます。

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリック
→ [東芝省電力] をクリックする
- ② [電源設定] タブで利用する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ③ [省電力] タブで [システムスタンバイ] および [システム休止状態] の設定を [なし] にする
- ④ [OK] ボタンをクリックする
- ⑤ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

Q 間違って電源を切ってしまった

A パソコンが処理をしている最中 (Disk LED が点灯中) に電源が切れてしまうと、ハードディスクが故障する場合がありますので、正しい終了手順を守ってください。

正しい終了手順に従わずに強制終了した後、パソコンの動作に少しでも異常が起った場合はエラーチェック（ハードディスクの検査）を行ってください。異常があった場合は、画面の指示に従って操作を行ってください。

参照 ➔ エラーチェックについて『Windows のヘルプ』

Q Windows の起動と同時にプログラムが実行される

A [スタートアップ] にプログラムが設定されている可能性があります。

[スタートアップ] は、設定されているプログラムを Windows 起動時に自動的に実行します。

アプリケーションをインストールすると、自動的に [スタートアップ] に登録される場合があります。

次の手順で登録を削除できます。

- ① [スタート] ボタンを右クリックし、表示されたメニューから [開く] をクリックする
 - ② [プログラム] アイコンをダブルクリックする
 - ③ [スタートアップ] アイコンをダブルクリックする
[スタートアップ] 画面が表示されます。
 - ④ 削除したいプログラムのアイコンをクリックし、[ファイルとフォルダのタスク] の [このファイルを削除する] をクリックする
[ファイルの削除の確認] 画面が表示されます。
 - ⑤ [はい] ボタンをクリックする
 - ⑥ [スタートアップ] 画面の [閉じる] ボタンをクリックする
-

A Windows のタスクスケジューラで設定されている可能性があります。

タスクスケジューラで [実行する] に設定されていると、設定したスケジュールに従ってタスクを実行します。

アプリケーションをインストールすると、自動的にタスクが登録される場合があります。

次の手順で設定を変更できます。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [タスク] をクリックする
- ② 設定されているタスクをダブルクリックする
プログラムが実行された時間などを参考に選択してください。
- ③ [タスク] タブで [実行する] のチェックをはずす
- ④ [OK] ボタンをクリックする

① パソコンが休止状態にならない

A 休止状態に対応していない周辺機器（PC カードなど）を取り付けていると休止状態になりません。

休止状態に対応していない周辺機器を取りはずしてから、休止状態を実行してください。

A [スタートアップ] に休止状態の妨げになるアプリケーションが設定されている可能性があります。

[スタートアップ] からそのアプリケーションを削除し、Windows を再起動してください。

 スタートアップに登録されているアプリケーションの削除方法

「本節 電源を入れるとき／切るとき

- Q. Windows の起動と同時にプログラムが実行される」



休止状態を設定できない

A 休止状態の設定になっていない可能性があります。

次の手順で設定を変更してください。

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリック
→ [東芝省電力] をクリックする
- ② [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
- ③ [OK] ボタンをクリックする

参照 → 休止状態について「[2章 3-② 休止状態](#)」

【画面／表示】



画面に何も表示されない

(Power LED が消灯、またはオレンジ色に点滅している場合)

A 電源が入っていない、またはスタンバイ状態になっています。

電源スイッチを押してください。



電源は入っているが、画面に何も表示されない

(Power LED が緑色に点灯している場合)

A 表示自動停止機能が働いた可能性があります。

画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。

(Shift)キーや(Ctrl)キーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。CRT ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに 10 秒前後かかることがあります。

A インスタントセキュリティ機能が働いた可能性があります。

次の操作を行ってください。

- [画面のプロパティ] の [スクリーンセーバー] タブで [パスワードによる保護] をチェックしていない場合

(Shift)キーや(Ctrl)キーを押すか、タッチパッドを操作してください。

- [画面のプロパティ] の [スクリーンセーバー] タブで [パスワードによる保護] または [再開時にようこそ画面に戻る] をチェックしている場合

① (Shift)キーや(Ctrl)キーを押すか、タッチパッドを操作する

複数のユーザで使用している場合は、ユーザ名選択画面が表示されますので、ログオンするユーザ名をクリックしてください。

② パスワードの入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、**[Enter]**キーを押す

参照 インスタントセキュリティ機能について
「3章 2-②-[Fn]キーを使った特殊機能キー」

A 表示装置が適切に設定されていない可能性があります。

[Fn]+[F5]キーを3秒以上押し続けると、表示装置が内部液晶ディスプレイに切り替わります。

参照 詳細について「4章 5 CRTディスプレイを接続する」

Q 画面が見にくい

A ディスプレイを見やすい角度に調整してください。

Q 画面が暗い

A **[Fn]+[F7]**キーを押して、内部液晶ディスプレイ（画面）の輝度を明るくしてください。

逆に、**[Fn]+[F6]**キーを押すと、内部液晶ディスプレイの輝度は暗くなります。

[Fn]キーで内部液晶ディスプレイの輝度を変更した場合、パソコンの電源を切つたり再起動したりすると、設定はもとに戻ります。この設定は、外部ディスプレイには反映されません。

A 内部液晶ディスプレイ（画面）の輝度が低く設定されている可能性があります。次の手順で設定を変更してください。この設定は、外部ディスプレイには反映されません。

- ① [コントロールパネル]を開き、[パフォーマンスとメンテナンス]をクリック
→ [東芝省電力]をクリックする
- ② [電源設定]タブで利用する省電力モードを選択して、[詳細]ボタンをクリックする
- ③ [省電力]タブで [モニタの輝度]を設定する
- ④ [OK]ボタンをクリックする
- ⑤ [東芝省電力のプロパティ]画面で [OK]ボタンをクリックする

設定を変更しても明るくならない場合は、内部液晶ディスプレイに取り付けられているバックライト用蛍光管が消耗している可能性があります。バックライト用蛍光管は、使用を続けるにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。その場合は、使用している機種を確認後、保守サービスに連絡してください。有償にて交換します。



画面の表示や色がはっきりしない

A 画面の解像度をパソコン本体のディスプレイサイズよりも小さく設定している場合、画面の表示がはっきりしません。また、色数を少ない設定にしている場合、画面の色がはっきりしません。

次の手順で設定を変更してください。

① [コントロールパネル] を開き、[デスクトップの表示とテーマ] をクリック
→ [画面] をクリックする

② [設定] タブで設定を変更する

- 表示がはっきりしない場合

[画面の解像度] をディスプレイの解像度に合わせて変更してください。

- 色がはっきりしない場合

[画面の色] を [最高 (32 ビット)] に設定してください。

③ [OK] ボタンをクリックする

参照 ➔ ディスプレイの解像度について「3章 4 ディスプレイ」



CRT ディスプレイで画面の色がにじんだように表示される

A テレビ、オーディオ機器のスピーカなど強力な磁気を発生する電気製品の近くに設置している場合は、表示がにじむ場合があります。

パソコンと電気製品との距離を離してください。

【Windows】



内蔵時計が合っていない

A 次の手順で [日付と時刻] を修正してください。

① [コントロールパネル] を開き、[日付、時刻、地域と言語のオプション] をクリック→ [日付と時刻を変更する] をクリックする

② [時刻] に表示されている、デジタル時計の数字の部分をクリックする
「時：分：秒」で項目が分かれているので、変更したい部分をクリックしてください。

③ デジタル時計の右端にある ▲ ▼ ボタンで、時刻の修正を行う

④ [OK] ボタンをクリックする

- A 長い間パソコンを使用しないと時計用バッテリの充電が不十分になります。**
パソコン本体にACアダプタを接続し、電源を入れて時計用バッテリを充電してください。
- A 充電してもしばらくすると内蔵時計が合わなくなる場合は、時計用バッテリの充電機能が低下している可能性があります。**
保守サービスに連絡してください。

① パソコンの処理速度が遅くなった

- A 「東芝省電力ユーティリティ」の設定で、CPUの処理速度が切り替わった可能性があります。**
また、ご購入時の状態の省電力モードは、ACアダプタを接続しているときは「フルパワー」、バッテリ駆動で使用するときは「ノーマル」に設定されていますので、ACアダプタ接続時に比べてバッテリ駆動時のパソコンの処理速度は遅くなります。
CPUの処理速度は次の手順で変更できます。
- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリック → [東芝省電力] をクリックする
 - ② 利用したい省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
 - ③ [省電力] タブの [CPUの処理速度] で、バッテリ残量に応じて処理速度を設定する
 - ④ [OK] ボタンをクリックする
 - ⑤ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする
- 参考 ➔ 省電力モードについて「5章 2 省電力の設定をする」

- A パソコンのCPUが高温になり、自動的に処理速度が遅くなった可能性があります。**
しばらく作業を中止すると、CPUの温度が下がり処理速度が元に戻ります。
- A ハードディスクの空き容量が少なくなり、処理速度が遅くなった可能性があります。**
不要なファイルなどを削除して、ハードディスクの空き容量を増やしてください。

【バッテリ駆動で使用するとき】

Q Battery ■ LED が点滅した

A バッテリの充電量が残り少ない状態です。

ただちに次のいずれかの対処を行ってください。

- パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- 電源を切ってから、フル充電のバッテリパックを取り換える

対処しないと、休止状態が有効に設定されている場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切れます。

休止状態が無効に設定されている場合、パソコン本体は何もしないで電源が切れますので、保存されていないデータは消失します。休止状態を有効にしておくことを推奨します。購入時は有効に設定されています。

また、データはこまめに保存してください。

参照 ➔ バッテリの充電方法「5章 1-② バッテリを充電する」

Q 充電したはずのバッテリパックを使用しても Battery ■ LED がオレンジ色に点滅する

A バッテリパックは使わずにいても充電量が少しずつ減っていきます。

もう 1 度充電してください。

充電しても状態が変わらない場合は、バッテリを再充電してみてください。

参照 ➔ 再充電について「5章 1-②-2 バッテリを長持ちさせるには」

バッテリを再充電しても状態が変わらない場合は、バッテリパックの充電機能が低下している可能性があります。別売りのバッテリパックと交換してください。それでも状態が変わらない場合は、パソコン本体が故障していると考えられます。保守サービスに連絡してください。

参照 ➔ バッテリの充電量について「5章 1-① バッテリ充電量を確認する」

Q バッテリ駆動でしばらく操作しないとき、電源が切れる

A 自動的にスタンバイまたは休止状態になった可能性があります。

一定時間パソコンを使用しないときに、自動的にスタンバイまたは休止状態にするように設定されています。

復帰させるには、電源スイッチを押してください。

また、次の手順で設定を解除できます。

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリック
→ [東芝省電力] をクリックする
- ② [電源設定] タブでバッテリ駆動中に使用する省電力モードをクリックし、
[詳細] ボタンをクリックする
- ③ [省電力] タブで [システムスタンバイ] および [システム休止状態] の設定
を [なし] にする
- ④ [OK] ボタンをクリックする
- ⑤ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

【キーボード】

① キーを押しても文字が表示されない

A システムが処理中の可能性があります。

ピントが砂時計の形（図）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、キーボードやタッチパッドなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

② キーボードから文字を入力しているときにカーソルが とんでしまう

A 文字を入力しているときに誤ってタッチパッドに触れると、カーソルがとんだり、アクティブウィンドウが切り替わってしまうことがあります。

次のいずれかの操作を行ってください。

● キー入力時にタッピング機能が効かないように設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリック
→ [マウス] をクリックする
- ② [タッピング] タブの [タイピング] と [キー入力時タップしない] を
チェックする
- ③ [OK] ボタンをクリックする

● タッチパッドを無効に設定する

[Fn]+[F9]キーを押して、タッチパッドを無効に切り替えてください。

参照 ➔ 詳細について「3章 3-② タッチパッドを無効／有効にするには」

③ 「＼」(バックスラッシュ) が入力できない

A 日本語フォントでは「＼」は入力できません。

[円] を押すと￥が表示されますが、「＼」と同じ機能を持ちます。



ひらがなや漢字の入力ができない

- A 日本語入力システムが起動していない状態になっています。
〔半/全〕キーを押して、日本語入力システムを起動してください。



キーボードで入力モードを切り替えたい

- A 次のショートカットキーを利用して入力モードを変更できます。

〔Shift〕+〔CapsLock 英数〕キー	大文字ロック状態
〔Alt〕+〔カタカナひらがな〕キー	ローマ字入力／かな入力の切り替え
〔Fn〕+〔F10〕キー	アロー状態
〔Fn〕+〔F11〕キー	数字ロック状態



キーに印刷された文字と違う文字が入力されてしまう

- A キーボードドライバの設定が正しくない可能性があります。

次の手順でドライバを再設定してください。

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [システム] をクリックする
[システムのプロパティ] 画面が表示されます。
- ③ [ハードウェア] タブで [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする
[デバイスマネージャ] 画面が表示されます。
- ④ [キーボード] をダブルクリックする
- ⑤ 表示されたキーボードドライバ名をダブルクリックする
キーボードのプロパティ画面が表示されます。
- ⑥ [ドライバ] タブで [ドライバの更新] ボタンをクリックする
[ハードウェアの更新ウィザード] 画面が表示されます。
- ⑦ [一覧または特定の場所からインストールする] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする
- ⑧ [検索しないで、インストールするドライバを選択する] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする
- ⑨ [互換性のあるハードウェアを表示] のチェックをはずす
[製造元] と [モデル] の一覧が表示されます。
- ⑩ [製造元] から [(標準キーボード)]、[モデル] から [日本語 PS/2 キーボード (106 / 109 キー Ctrl + 英数)] を選択して、[次へ] ボタンをクリックする
[デバイスのインストールの確認] 画面が表示されます。

- ⑪ [はい] ボタンをクリックする
ドライバがインストールされ、[ハードウェアの更新ウィザードの完了] 画面が表示されます。
- ⑫ [完了] ボタンをクリックする
- ⑬ キーボードのプロパティ画面で [閉じる] ボタンをクリックする
[システム設定の変更] 画面が表示され、「今コンピュータを再起動しますか?」というメッセージが表示されます。
- ⑭ [はい] ボタンをクリックする
パソコンが再起動します。



どのキーを押しても反応しない 設定はあってるが、希望の文字が入力できない

A 次の操作を行ってください。

この場合、保存していない作成中のデータは消去されます。

- ① [スタート] → [終了オプション] をクリックする
- ② [再起動] をクリックする

A [スタート] メニューから再起動できない場合は、**(Ctrl)+(Alt)+(Del)**キーを押して、再起動してください。

この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

A **(Ctrl)+(Alt)+(Del)**キーを押して再起動できない場合は、電源スイッチを5秒以上押してください。

電源が切れます。この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。
しばらくしてから電源を入れ直してください。

強制終了した後パソコンの動作に少しでも異常が起こった場合は、エラーチェック（ハードディスクの検査）を行ってください。異常があった場合は、画面の指示に従って操作を行ってください。



キーボードに飲み物をこぼしてしまった

A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。

もし、液体がパソコン内部に入ったときは、ただちに電源を切り、AC アダプタとバッテリパックを取りはずして、購入した販売店、または保守サービスに点検を依頼してください。

【タッチパッド／マウス】

*マウスは別売りです。



タッチパッドやマウスを動かしても画面のポインタが動かない（反応しない）

A システムが処理中の可能性があります。

ポインタが砂時計の形（図）をしている間は、システムが処理中のため、タッチパッド、マウス、キーボードなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

A タッチパッドのみ操作を受け付けない場合、タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。

〔Fn〕+〔F9〕キーを押して、タッチパッドを有効に切り替えてください。

参照 詳細について「3章 3-② タッチパッドを無効／有効にするには」



ダブルクリックがうまくできない

A 次の手順で、ダブルクリックの速度を調節してください。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリック→ [マウス] をクリックする
- ② [ボタン] タブで [ダブルクリックの速度] のスライダーバーを左右にドラッグする
- ③ [OK] ボタンをクリックする



ポインタの動きが遅い／速い

A 次の手順でポインタの速度を変更してください。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリック→ [マウス] をクリックする
- ② [ポインタオプション] タブで [速度] のスライダーバーを左右にドラッグする
- ③ [OK] ボタンをクリックする

A マウス内部が汚れていないか確認してください。

マウス内部が汚れていると動きが鈍くなります。マウス内部の掃除を行ってください。

マウスの手入れについては『マウスに付属の説明書』を確認してください。

A 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

また、マウスの動きを滑らかにするには、マウスパッドの使用を推奨します。

Q USB マウスが使えない**A マウスとパソコン本体が正しく接続されていないと、マウスの操作はできません。マウスのプラグを正しく接続してください。**

マウスの接続については、『マウスに付属の説明書』を確認してください。

A 新しく接続したハードウェアとして認識されていない可能性があります。

次の手順で【新しいハードウェアの追加ウィザード】を実行してください。

- ①【コントロールパネル】を開き、【プリンタとその他のハードウェア】をクリックする
- ②【関連項目】の【ハードウェアの追加】をクリックする
【ハードウェアの追加ウィザード】が起動します。
- ③【次へ】ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。

【通信機能】

Q 無線 LAN 機能が使えない**A ワイヤレスコミュニケーションスイッチが Off の場合は On にしてください。****A ConfigFree でデバイスを有效地に切り替えてください。**

- ①タスクバーの【ConfigFree】アイコンをクリックし、表示されたメニューから【Intel(R)PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter】にポイントをあわせ【有効】をクリックする

【サウンド機能】

Q スピーカから音が聞こえない**A ヘッドホン出力端子からヘッドホンを取りはずしてください。**

-
- A** **[Fn]+①キー、[Fn]+②キー**で音量を調節してください。
-
- A** スピーカの設定がミュート（消音）になっている可能性があります。
[Fn]+[Esc]キーを押してミュートを解除してください。
-
- A** 標準の【優先するデバイス】が変更されている可能性があります。
次の手順で設定を変更してください。
- ① [コントロールパネル]を開き、[サウンド、音声、およびオーディオデバイス]をクリックする
 - ② [サウンドとオーディオデバイス]をクリックする
[サウンドとオーディオデバイスのプロパティ]画面が表示されます。
 - ③ [オーディオ]タブで [音の再生] の [既定のデバイス] を [SoundMAX Digital Audio] に設定する
 - ④ [OK] ボタンをクリックする

-
- A** 上記の操作を行っても音量が変わらなければ、標準のサウンドドライバが壊れているか、誤って消去された可能性があります。
次の場所からサウンドドライバを再インストールしてください。
- S7シリーズ : [スタート] → [すべてのプログラム] → [アプリケーションの再インストール]
2100シリーズ : アプリケーション CD-ROM

⑧ サウンド再生時に音飛びが発生する

- A** PCカード接続のハードディスクドライブまたはドライブの動作中にサウンドの再生を行うと、音飛びが発生する場合があります。

【周辺機器】

周辺機器については「4章 周辺機器の接続」、『周辺機器に付属の説明書』もあわせて確認してください。

⑧ 周辺機器を取り付けたが正しく動かない

- A** 周辺機器の電源を入れてからパソコン本体の電源を入れてください。
USB対応機器など、周辺機器によっては、パソコン本体が起動した後に電源を入れても使うことができるものがあります。

-
- A 接続ケーブルが正しく接続されていない可能性があります。
接続ケーブルを正しく接続し直してください。
-
- A パソコン本体が周辺機器を、「新しいハードウェア」として認識していない可能性があります。
次の手順で [ハードウェアの追加ウィザード] を実行してください。
- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
 - ② [関連項目] で [ハードウェアの追加] をクリックする
[ハードウェアの追加ウィザード] が起動します。
 - ③ [次へ] ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。
-
- A システム（OS）に対応していない可能性があります。
周辺機器によっては、使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。使用しているシステム（OS）に対応しているか確認してください。

【PC カード】

① PC カードが認識されない

- A PC カードが奥までしっかりと差し込んであるか確認してください。

参照 ➔ PC カードの接続について「4 章 2 PC カードを使う」

② PC カードの挿入は認識されるがデバイスとして認識されない

- A PC カードによっては、使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。
使用しているシステム（OS）に対応しているか、『PC カードに付属の説明書』を確認してください。

-
- A 本製品は Windows 専用モデルです。コマンドプロンプト上での PC カードの使用はサポートしていません。



PC カードは認識されるが使用できない

A IRQ が不足している可能性があります。

次の手順で使用しないデバイスを [デバイスマネージャ] で使用不可にしてください。

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリック
→ [システム] をクリックする
- ② [ハードウェア] タブで [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする
[デバイスマネージャ] 画面が表示されます。
- ③ 使用しない装置の種類をダブルクリックする
- ④ 表示される項目から使用しないデバイスを右クリックし、[無効] をクリックする
- ⑤ メッセージが表示されたら [はい] ボタンをクリックする
- ⑥ [デバイスマネージャ] を閉じる
- ⑦ [システムのプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

[SD メモリカード]



SD メモリカードが使えない

A SD メモリカードが正しくセットされていない可能性があります。

SD メモリカードが奥まで挿入されているか確認してください。



SD メモリカードに書き込み（データの保存）ができない

A 使用するアプリケーションでは対応していないフォーマットの SD メモリカードを挿入している可能性があります。

フォーマットし直してから、SD メモリカードを使用してください。

フォーマットは、「東芝 SD メモリカードフォーマット」または SD メモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。

フォーマットを行うと、その SD メモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。よく確かめてからフォーマットを行ってください。

参照 ➔ フォーマットについて「4 章 3-4 SD メモリカードのフォーマット」

A SD メモリカードのライトプロテクトタブが「書き込み禁止状態」になっていると、書き込み（データの保存）ができません。
SD メモリカードを取り出して、ライトプロテクトタブを「書き込み可能状態」にしてください。

参照 ➡ ライトプロテクトタブ「4章 3-1 SDメモリカードについて」

A SDメモリカードの空き容量が少ないと、書き込み（データの保存）ができません。
次のいずれかの操作を行ってください。

- 不要なファイルやフォルダを削除して空き容量を増やしてから、やり直すSDメモリカードから削除したファイルを元に戻すことはできません。よく確かめてから削除を行ってください。
- 空き容量が十分にある別のSDメモリカードを使用する



SDメモリカードの曲を再生できない

A SDメモリカードに、再生できる曲のファイルが保存されていない可能性があります。ファイルがあるかどうか確認してください。

A 著作権保護技術を使用して書き込まれた音楽データは使用できません。
または、再生しようとしたデータが、使用するアプリケーションでは対応していないファイル形式の可能性があります。ファイル形式を確認してください。



「フォーマットされません」というエラーメッセージが表示された

A PCカードとSDメモリカードを挿入した状態でパソコンを起動すると、SDメモリカードに正しくアクセスできない場合があります。

SDメモリカードをSDメモリカードスロットから取り出して、もう一度セットしなおしてください。



「READ ERROR」「DATA ERROR」「CODE ERROR」と表示された

A ファイル読み込みでエラーが検出されました。データが壊れている可能性があります。

そのファイルを削除してください。

このエラーが多発する場合は、そのSDメモリカードをフォーマットしてください。フォーマットは、「東芝SDメモリカードフォーマット」またはSDメモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。

フォーマットを行うと、そのSDメモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。よく確かめてからフォーマットを行ってください。

参照 ➡ フォーマットについて「4章 3-4 SDメモリカードのフォーマット」

【USB 対応機器】

Q USB 対応機器が使えない

- A ケーブルが正しく接続されていない可能性があります。
ケーブルを正しく接続し直してください。

参照 接続について「4 章 4 USB 対応機器を接続する」

- A 何らかの原因で、システム（OS）が正しくUSB対応機器を認識していない可能性があります。
Windows を再起動してください。

- A ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。
次の手順でインストールしてください。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [関連項目] で [ハードウェアの追加] をクリックする
[ハードウェアの追加ウィザード] が起動します。
- ③ [次へ] ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。

【アプリケーション】

Q アプリケーションが使えない

- A 正しくインストールしていない可能性があります。
『アプリケーションに付属の説明書』を読んで、正しくインストールしてください。

- A システム（OS）に対応していない可能性があります。
アプリケーションによっては使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。
詳しくは、『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

- A メモリ容量が足りない可能性があります。
アプリケーションを起動するために必要なメモリ容量がない場合は、そのアプリケーションを使用することはできません。必要なメモリ容量は、『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

また、本製品は、必要に応じてメモリを増設することができます。

参照 ➔ メモリの増設について「4章 6 メモリを増設する」

A アプリケーションによっては、システム構成の変更が必要です。

『アプリケーションに付属の説明書』を読んで、システム構成を変更してください。

① アプリケーションが操作できなくなった

A アプリケーション使用中に操作できなくなった場合は、次の手順でアプリケーションを強制終了してください。

終了後、もう1度アプリケーションを起動してください。この場合、アプリケーションで編集していたデータは保存できません。

- ① **(Ctrl)+(Alt)+(Del)**キーを押す
[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。
- ② [アプリケーション] タブで [応答なし] と表示されているアプリケーションをクリックする
- ③ [タスクの終了] ボタンをクリックする
アプリケーションが終了します。

② 購入時に入っていたアプリケーションを誤って削除してしまった

A 本製品にあらかじめインストールされている（プレインストールされている）アプリケーションやドライバは次の場所から再インストールできます。

S7シリーズ : [スタート] → [すべてのプログラム] → [アプリケーションの再インストール]

2100シリーズ : アプリケーション CD-ROM

【メッセージ】

① 「Password=」と表示された

A パスワードの入力、またはトーケンによる認証が必要です。

次のいずれかの操作を行ってください。

- パスワードを入力し、**[Enter]**キーを押す

あらかじめ「東芝パスワードユーティリティ」でパスワードファイルを外部記憶メディアに保存しておくと、パスワードを忘れた場合に確認できます。他のパソコンの「メモ帳」などでパスワードファイルを開き、確認したパスワードを入力してください。

- あらかじめ「東芝パスワードユーティリティ」で作成したトークンをSDメモリカードスロットに挿入し、認証を行う

上記の方法を実行できない場合は、使用している機種を確認後、保守サービスに連絡してください。有償にてパスワードを解除します。その際、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

参照→ パスワードについて「6章 4 パスワードセキュリティ」



「パスワードを忘れてしまいましたか？」
「パスワードが誤っています。」と表示された

- A 入力モードの状態により大文字／小文字を誤って入力した可能性があります。
Caps Lock LED を確認してください。必要に応じて〔Shift〕+〔CapsLock 英数〕キーを押して入力の状態を切り替え、もう1度入力してください。



「システムは休止状態からの復帰に失敗しました」と表示された

- A 休止状態が無効になったというメッセージです。
電源を切る前の状態は再現できません。
「復元データを削除してシステムブートメニューにすすみます」を選択し、
〔Enter〕キーを押してください。
Windows が起動します。



「RTC battery is low or CMOS checksum is inconsistent」「Press [F1] key to set Date/Time..」
と表示された

- A 時計用バッテリーが不足しています。
次の手順で、BIOS セットアップの日付と時刻を設定してください。
- ①〔F1〕キーを押す
確認のメッセージが表示されます。
 - ② BIOS セットアップの [SYSTEM DATE/TIME] で日付と時刻を設定する
参照→ 日付と時刻の設定方法「6章 3 BIOS セットアップを使う」
 - ③〔Fn〕+〔-〕キーを押す
確認のメッセージが表示されます。
 - ④〔Y〕キーを押す
BIOS セットアップが標準設定の状態になり、終了します。
パソコンが再起動します。



C:¥ >_ のように表示された

A コマンドプロンプトが全画面表示されています。

次のいずれかの操作を行ってください。

- コマンドプロンプト画面をウィンドウ表示に切り替える
〔Alt〕+〔Enter〕キーを押してください。
- コマンドプロンプト画面を終了する
 - ① 〔E〕〔X〕〔I〕〔T〕とキーを押す
 - ② 〔Enter〕キーを押す



その他のメッセージが表示された

A 使用しているシステムやアプリケーションの説明書を確認してください。

【その他】



セーフモードで起動した

A 周辺機器のドライバやアプリケーションが原因で不具合を起こしている可能性があります。

次の手順でハードディスクをチェックしてください。

- ① [マイコンピュータ] を開く
 - ② (C:) ドライブをクリックする
 - ③ メニューバーから [ファイル] → [プロパティ] をクリックする
 - ④ [ツール] タブの [エラーチェック] で [チェックする] ボタンをクリックする
 - ⑤ [ディスクのチェック] 画面で [不良セクタをスキャンし、回復する] をチェックする
 - ⑥ [開始] ボタンをクリックする
- チェック後パソコンを再起動し、通常起動するか確認してください。

上記の操作を行っても正常に起動しない場合は、東芝 PC ダイヤルに連絡してください。

参照 ➔ セーフモードについて『Windows のヘルプ』

Q Disk LED が点滅し、パソコン本体から音がする

A ハードディスクが自動保存を行っています。

パソコン操作中は、自動的にデータの保存などの内部作業が行われています。

ハードディスクが動作する音が聞こえますが、問題はありません。

極端に異常な音が聞こえるなど、おかしいと思われる状態が発生したときは、購入した販売店または保守サービスまで連絡してください。

Q 甲高い音がする

A ハウリングを起こしています。

ハウリングとは、スピーカから出た音がマイクに入り再びスピーカに返されることで、音が増幅し発生する高く大きな音のことです。

使用するアプリケーションによっては、マイクとスピーカとでハウリングを起こすことがあります。

次の方法で調整してください。

- $(Fn)+①$ キー、 $(Fn)+②$ キーで音量を調整する
- 外部マイクをパソコン本体から遠ざける
- 使用しているソフトウェアの設定を変える
- マスタ音量の設定で音量を調整する

参照 音量の調節「3章 5 サウンド機能」

Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

A 次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体の方向を変える
- パソコン本体をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のフィルタを入れる
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィーダを同軸ケーブルに替える

Q パソコンが応答しない

A 応答しないアプリケーションを強制終了してください。

この場合、保存されていないデータは消失します。

アプリケーションを終了しても調子がおかしい場合は、以降の操作を行ってください。

A Windows を強制終了し、再起動してください。

強制終了の方法は、次のとおりです。

システムが操作不能になったとき以外は行わないでください。強制終了を行うと、スタンバイ／休止状態は無効になります。また、保存されていないデータは消失します。

- ① **[Ctrl]+[Alt]+[Del]** キーを押す
[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。
- ② メニューバーの [シャットダウン] をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、**[Alt]+[U]** キーを押してください。
- ③ [コンピュータの電源を切る] をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、**[U]** キーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。
- ④ パソコン本体の電源を入れる



コンピュータウイルスに感染した可能性がある

A ウイルスチェックソフトでウイルスチェックを行い、ウイルスが発見された場合は駆除してください。



異常な臭いや過熱に気づいた！

A パソコン本体、周辺機器の電源を切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。安全を確認してバッテリパックをパソコン本体から取りはずしてから購入した販売店または保守サービスに連絡してください。

なお、連絡の際には次のことを伝えてください。

- 使用している機器の名称
- 購入年月日
- 現在の状態（できるだけ詳しく連絡してください）

参照 修理の問い合わせについて『東芝 PC サポートのご案内』



操作できない原因がどうしてもわからない

A パソコン本体のトラブルの場合は、巻末の「トラブルチェックシート」で、必要事項を確認のうえ、東芝 PC ダイヤルに連絡してください。

A アプリケーションのトラブルの場合は、各アプリケーションのサポート窓口に問い合わせさせてください。

参照 アプリケーションの問い合わせ先
「9章 3-③ アプリケーションの問い合わせ先」

A 周辺機器のトラブルの場合は、各周辺機器のサポート窓口に問い合わせてください。

参照 ➤ 周辺機器の問い合わせ先『周辺機器に付属の説明書』

Q パソコンを廃棄したい

A 本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例または規則に従って処理してください。詳しくは、各地方自治体に問い合わせてください。

参照 ➤ 廃棄について「9章 2 廃棄・譲渡について」

8章

再セットアップ

これまでに説明してきたトラブル解消方法では解決できないとき、最後に行うのがパソコンの再セットアップです。再セットアップすることで、システムやアプリケーションを購入時の状態に復元できます。

-
- 1 再セットアップする前に 178
 - 2 再セットアップする 180

1 再セットアップする前に

システムやアプリケーションを購入時の状態にリカバリ（復元）することを再セットアップといいます。

また、システムを復元せずにハードディスクのデータを消去することもできます。目的にあった方法を選んでください。

参照 ➔ ハードディスクのデータ消去
「9章 2-③ ハードディスクのデータ消去」

1) 再セットアップが必要なとき

次のようなときには、「7章 1 トラブルを解消するまで」で解消へのアプローチを確認してください。いろいろな解消方法を紹介しています。

それでも、解消できないときに再セットアップしてください。

- ハードディスクをフォーマットしてしまった
- ハードディスクにあるシステムファイルを削除してしまった
- 電源を入れても、システム（Windows）が起動しない

2) 準備

モデルを確認する

はじめに、ご購入のモデルをご確認ください。

S7シリーズの場合、内蔵ハードディスクからの再セットアップができます。

参照 ➔ 「本章 2-① 再セットアップ (S7シリーズ)」

2100シリーズの場合は、同梱のリカバリ CD-ROM を使用します。

なお、使用するCD-ROM ドライブ（別売り）によって、手順が異なります。

2100シリーズでは、次のドライブをサポートしています。

- USB CD-R&DVD-ROM ドライブ (IPCS053A)
- USB CD-ROM ドライブ (PACDD002)
- PC カード CD-R/RW ドライブ (PACDR002, IPCS045A)
- PC カード CD-ROM ドライブ (PA2671UJ, PA2673UJ)

上記のドライブを使用する場合は「本章 2-② 東芝推奨ドライブでの再セットアップ (2100シリーズ)」をご覧ください。

上記以外のドライブを使用する場合は「本章 2-③ 東芝推奨ドライブ以外での再セットアップ (2100シリーズ)」をご覧ください。

データのバックアップをとる

標準システムの復元をすると、ハードディスク内に保存されていたデータは、すべて消えてしまいます。購入後に作成したファイルなど、必要なデータは、あらかじめ外部記憶メディアにバックアップをとって保存してください。

また、インターネットやハードウェアなどの設定は、すべて購入時の状態に戻ります。標準システムの復元後も現在と同じ設定でパソコンを使いたい場合は、現在の設定を控えておいてください。

バックアップは、普段から定期的に行っておくことを推奨します。

ただし、ハードディスクをフォーマットしたりシステムファイルを削除した場合や電源を入れてもシステムが起動しない場合は、データを保存することができません。標準システムの復元を行っても、ハードディスクに保存されていたデータは復元できません。

パソコンのハードウェア構成を購入時の状態に戻す

フロッピーディスクドライブやマウス、増設したハードディスクドライブやメモリなど、周辺機器を取りはずしてください。

③ リカバリ CDについて（2100シリーズ）

2100シリーズには次のリカバリ CDが同梱されています。

- リカバリ CD-ROM
- アプリケーション CD-ROM

リカバリ CDは再セットアップのときに必要です。絶対になくさないようにしてください。紛失した場合、再発行することはできません。また、リカバリ CDは2100シリーズ専用です。他のパソコンで再セットアップを実行しないでください。

 アプリケーション CD-ROMの使用方法

「9章 3-② アプリケーションを再インストールする」

2 再セットアップする

本製品にプレインストールされている Windows やアプリケーションをすべて復元し、購入時の状態に戻す方法について説明します。

1) 再セットアップ (S7 シリーズ)

システムを復元する方法を説明します。手順をよく確認してから行ってください。

本製品の再セットアップは、ユーザ権限に関わらず、誰でも実行できます。誤って他の人に再セットアップを実行されないよう、ユーザパスワードを設定しておくことをおすすめします。

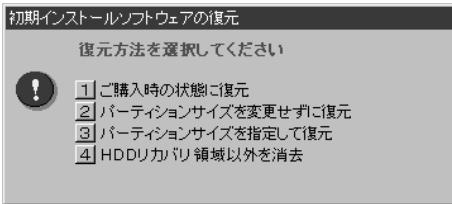
参照 ユーザパスワード 「6 章 4-① ユーザパスワード」

お願い

- 市販のソフトウェアを使用してパーティションの構成を変更すると、再セットアップができない場合があります。

1 操作手順

- 1 パソコンの電源を切る
- 2 AC アダプタと電源コードを接続する
- 3 キーボードの① (ゼロ) キーを押しながら、パソコンの電源を入れる
[初期インストールソフトウェアの復元] 画面が表示されます。
- 4 ご購入時の状態に復元する場合は①キーを、現在のパーティション設定をそのまま使用する場合は②キーを、パーティション設定を指定する場合は③キーを押す
ハードディスクを分割しないで C ドライブのみとする場合は、①キーを押してください。パーティションとは、1 台のハードディスクを分割したそれぞれの部分のことです。現在複数のパーティションを設定している場合で、パーティションサイズを変更しないときは②キー、変更するときは③キーを押してください。
④キーを押すと、HDD リカバリ領域（再セットアップ用のデータ領域）を除き、ハードディスク上のデータはすべて消失します。詳細は「9 章 2-③ ハードディスクのデータ消去」を参照してください。



- ①キーを押した場合

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

手順5に進んでください。

- ②キーを押した場合

「先頭パーティションのデータは、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

手順5に進んでください。

- ③キーを押した場合

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

①⑩キーを押す

[パーティションサイズの指定] 画面が表示されます。

②⑨または⑩キーを使ってパーティションのサイズを指定する

ここではハードディスクに対するCドライブのサイズを設定します。
HDDリカバリ領域（再セットアップ用のデータ領域）を除く領域の
パーティションサイズを指定できます。

ディスク容量が残った場合は管理ツールで設定してください。

参考 ➤ 設定方法について「本節 ④ パーティションの設定」

③⑨キーを押す

「復元を開始します！」というメッセージが表示されます。

手順6に進んでください。

5 [Y]キーを押す

「復元を開始します！」というメッセージが表示されます。
処理を中止する場合は、[N]キーを押してください。

6 [Y]キーを押す

処理を中止する場合は、[N]キーを押してください。
復元が実行されます。復元中は、次の画面が表示されます。
復元の進行状況を示すグラフ表示が 100%まで伸びた後、もう一度 0%から始まります。グラフが 2 度目に 100%に達すると完了です。



復元が完了すると、終了画面が表示されます。

7 何かキーを押す

システムが再起動します。

8 Windows のセットアップを行う

参照 詳細について「1 章 2 Windows のセットアップ」

購入後に変更した設定がある場合は、Windows のセットアップ後に、もう一度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windows のセットアップ後に行ってください。

2 東芝推奨ドライブでの再セットアップ(2100シリーズ)

システムを復元する方法を説明します。手順をよく確認してから行ってください。

【用意するもの】

- リカバリ CD-ROM
- 外付け CD-ROM ドライブ（別売り）

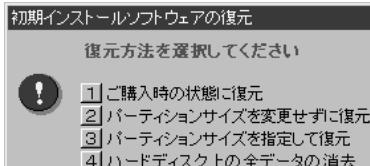
使用するドライブについては「本章 1-② モデルを確認する」を参照してください。

1 操作手順

- 1 パソコンの電源を切る
- 2 AC アダプタと電源コードを接続する
- 3 外付け CD-ROM ドライブを接続し、「リカバリ CD-ROM Disk1」をセットする
- 4 キーボードの **F12** キーを押しながら、パソコンの電源を入れる
- 5 →または←キーで CD のアイコン (●) にカーソルを合わせ、**Enter** キーを押す
[初期インストールソフトウェアの復元] 画面が表示されます。
- 6 購入時の状態に復元する場合は①キーを、現在のパーティション設定をそのまま使用する場合は②キーを、パーティション設定を指定する場合は③キーを押す

ハードディスクを分割しないで C ドライブのみとする場合は、①キーを押してください。パーティションとは、1 台のハードディスクを分割したそれぞれの部分のことです。現在複数のパーティションを設定している場合で、パーティションサイズを変更しないときは②キー、変更するときは③キーを押してください。

④キーを押すと、ハードディスク上のデータはすべて消失します。詳細は、「9 章 2-③ ハードディスクの消去」を参照してください。



- ①キーを押した場合

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

手順7に進んでください。

- ②キーを押した場合

「先頭パーティションのデータは、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

手順7に進んでください。

- ③キーを押した場合

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

- ① ⑥キーを押す

[パーティションサイズの指定] 画面が表示されます。

② ←または→キーを使ってパーティションのサイズを指定する

ここではハードディスクに対するCドライブのサイズを設定します。
ディスク容量が残った場合は管理ツールで設定してください。

参照 設定方法について「本節 ④ パーティションの設定」

- ③ Enterキーを押す

「復元を開始します！」というメッセージが表示されます。

手順8に進んでください。

7 ⑥キーを押す

「復元を開始します！」というメッセージが表示されます。

処理を中止する場合は、Nキーを押してください。

8 ⑥キーを押す

処理を中止する場合は、Nキーを押してください。

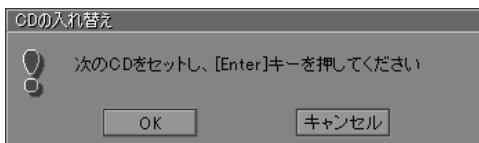
復元が実行されます。復元中は、次の画面が表示されます。

復元の進行状況を示すグラフ表示が100%まで伸びた後、もう1度0%から始まります。グラフが2度目に100%に達すると完了です。



9 表示されるメッセージに従って復元を行う

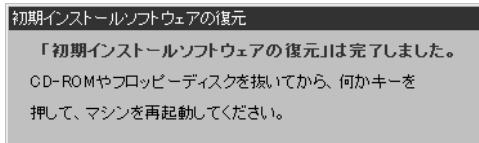
復元中に次のメッセージが表示された場合、CDを入れ替え、[Enter]キーを押してください。処理が続けます。



画面には、現在何枚目のCDの復元が終了し、次に何枚目のCDをセットする必要があるかなどは、表示されません。

CDが何枚目であるかはラベルに書いてありますので、CDを取り出す際に番号を覚えておくようにしてください。

復元が完了すると、次の画面が表示されます。



10 CDを取り出し、パソコンからCD-ROMドライブを取りはずしてから、何かキーを押す

システムが再起動します。

11 Windows のセットアップを行う

参照 ➔ 詳細について「1章 2 Windows のセットアップ」

購入後に変更した設定がある場合は、Windows のセットアップ後に、もう 1 度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windows のセットアップ後に行ってください。

③ 東芝推奨ドライブ以外での再セットアップ(2100シリーズ) (

システムを復元する方法を説明します。手順をよく確認してから行ってください。

【用意するもの】

- リカバリ CD-ROM
- アプリケーション CD-ROM
- 外付け CD-ROM ドライブ（別売り）
　　ドライブについては「本章 1-② モデルを確認する」を参照してください。
- USB フロッピーディスクドライブ（別売り）
- フォーマット済みのフロッピーディスク 1 枚

【作業の流れ】

- ① 「標準システムインストール起動ディスク」を作成する
- ② 再セットアップする

参考 ➤ パーティションを指定した場合「本節 ④ パーティションの設定」

1 標準システムインストール起動ディスクの作成

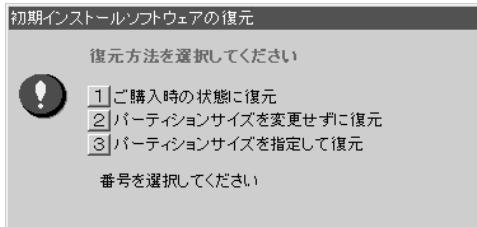
- 1 フォーマット済みのフロッピーディスクに、ラベル（「標準システムインストール起動ディスク」）を付ける
- 2 パソコンにフロッピーディスクドライブを接続し、フロッピーディスクをセットする
- 3 外付け CD-ROM ドライブを接続し、アプリケーション CD-ROM をセットする
- 4 アプリケーション CD-ROM を起動し、メニューから [標準システムインストール起動ディスクの作成] をクリックする
- 5 何かキーを押す
- 6 使用するドライブのタイプの番号を入力して **Enter** キーを押す
メニュー一覧にお持ちのドライブが表示されない場合は [3:PC カードタイプ／手動インストール] を選択してください。
- 7 画面の指示に従って操作する
ディスクの作成が完了すると、「リカバリディスクが作成されました」と表示されます。
- 8 何かキーを押してプログラムを終了する

2 再セットアップ

お願い

USB 接続フロッピーディスクドライブをお使いの場合は、「東芝 HW セットアップ」の [USB] タブで、[USB フロッピーディスク レガシーサポート] を [有効にする] に設定してください。「東芝 HW セットアップ」を起動できない場合は、BIOS セットアップを起動し [LEGACY EMULATION] の [USB-FDD Legacy Emulation] を [Enabled] に設定してください。

- 1 パソコンの電源を切る
- 2 AC アダプタと電源コードを接続する
- 3 フロッピーディスクドライブを接続し、「標準システムインストール起動ディスク」をセットする
- 4 外付け CD-ROM ドライブを接続し、「リカバリ CD-ROM Disk 1」をセットする
- 5 キーボードの **F12** キーを押しながら、パソコンの電源を入れる
- 6 → または ← キーでフロッピーディスクのアイコン () にカーソルを合わせ、**Enter** キーを押す
[初期インストールソフトウェアの復元] 画面が表示されます。
- 7 購入時の状態に復元する場合は①キーを、現在のパーティション設定をそのまま使用する場合は②キーを、パーティション設定を指定する場合は③キーを押す
ハードディスクを分割しないで C ドライブのみとする場合は、①キーを押してください。パーティションとは、1 台のハードディスクを分割したそれぞれの部分のことです。現在複数のパーティションを設定している場合で、パーティションサイズを変更しないときは②キー、変更するときは③キーを押してください。



- ①キーを押した場合

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

手順8に進んでください。

- ②キーを押した場合

「先頭パーティションのデータは、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

手順8に進んでください。

- ③キーを押した場合

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

① [Y]キーを押す

[パーティションサイズの指定] 画面が表示されます。

② [←]または[→]キーを使ってパーティションのサイズを指定する

ここではハードディスクに対するCドライブのサイズを設定します。

ディスク容量が残った場合は管理ツールで設定してください。

参照 設定方法について「本節 ④ パーティションの設定」

③ [Enter]キーを押す

「復元を開始します！」というメッセージが表示されます。

手順9に進んでください。

8 [Y]キーを押す

「復元を開始します！」というメッセージが表示されます。

処理を中止する場合は、[N]キーを押してください。

9 [Y]キーを押す

処理を中止する場合は、[N]キーを押してください。

表示されるメッセージに従ってインストールしてください。

4 パーティションの設定

パーティションの設定を変更した場合は、再セットアップ後すみやかに設定を行ってください。

S7シリーズのハードディスクには、再セットアップ用のデータが格納されています。したがって実際に使用できるハードディスクの容量（ユーザ領域）は、製品に搭載されている容量よりも少なくなります。

お願い

- S7シリーズでWindowsの「ディスク管理」を使用すると、「HDDRECOVERY」というボリュームのパーティションが表示されます。このパーティションには再セットアップ（システムの復元）するためのデータが保存されていますので、削除しないでください。削除した場合、再セットアップはできなくなります。

- 1 コンピュータの管理者になっているユーザーアカウントでログオンする
- 2 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックする
- 3 [パフォーマンスとメンテナンス] をクリック→ [管理ツール] をクリックする
- 4 [コンピュータの管理] をダブルクリックする
- 5 [ディスクの管理] をクリックする
設定していないパーティションは [未割り当て] と表示されます。
- 6 [ディスク 0] の [未割り当て] の領域を右クリックする
- 7 表示されるメニューから [新しいパーティション] をクリックする
[新しいパーティションウィザード] が起動します。
- 8 [次へ] ボタンをクリックし、ウィザードに従って設定する
次の項目を設定します。
 - ・パーティションの種類
 - ・パーティションサイズ
 - ・ドライブ文字またはパスの割り当て
 - ・フォーマット
 - ・ファイルシステム

9 設定内容を確認し、[完了] ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

パーティションの状態が [正常] と表示されれば完了です。

詳細については「コンピュータの管理」のヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法

1 メニューバーから [ヘルプ] → [トピックの検索] をクリックする

9章

こんなときは

アプリケーションの使用、保守や修理などアフターケアを行う保守サービスを利用するときについて。
また、バッテリパックの廃棄やパソコン本体の廃棄・譲渡を行う場合について説明しています。

-
- 1 アフターケアについて 192
 - 2 廃棄・譲渡について 193
 - 3 アプリケーションについて 198

1 アフターケアについて

保守サービスについて

保守サービスへの相談は、『東芝PCサポートのご案内』を確認してください。

保守・修理後はパソコン内のデータはすべて消去されます。

保守・修理に出す前に、作成したデータの他に次のデータのバックアップをとってください。

- メール
- メールのアドレス帳
- インターネットのお気に入り など

消耗品について

次のものは消耗品です。

- バッテリパック（充電式リチウムイオンポリマ電池）
- 大容量バッテリパック（充電式リチウムイオン電池）

長時間の使用により消耗し、充電機能が低下します。

充電機能が低下した場合は、別売りのバッテリパックPABAS017または大容量バッテリパックPABAL007と交換してください。

保守部品（補修用性能部品）の最低保有期間

保守部品（補修用性能部品）とは、本製品の機能を維持するために必要な部品です。本製品の保守部品の最低保有期間は、製品発表月から6年6ヶ月です。

2 廃棄・譲渡について

1) バッテリパックについて

貴重な資源を守るために、不要になったバッテリパックは廃棄しないで、充電式電池リサイクル協力店へ持ち込んでください。

その場合、ショート防止のため電極にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってください。



Li-ion

- バッテリパック（充電式電池）の回収、リサイクルおよびリサイクル協力店に関する問い合わせ先

社団法人 電池工業会

TEL／03-3434-0261

ホームページ／<http://www.baj.or.jp>

2) パソコン本体について

本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例または規則に従って処理してください。
詳しくは、各地方自治体に問い合わせてください。

(LCD表示部に使用している蛍光灯には水銀が含まれています。)

1 企業でパソコンを使用しているお客様へ

本製品を破棄するときは、産業廃棄物として扱われます。

東芝は、廃棄品の回収と適切な再使用・再利用処理を有償で実施しています。

使用済みになった東芝製品については、東芝の回収・処理システムの利用をお願いします。

● 問い合わせ先

東芝パソコンリサイクルセンター

〒230-0034 神奈川県横浜市鶴見区寛政町20-1

株式会社テルム内

電話番号：045-510-0255

受付時間：9:00～17:00（土・日・祝日、当社指定の休日を除く）

FAX：045-506-7983（受付時間：24時間）

2 お客様登録の削除について

お客様登録されている製品を廃棄する場合は、「パソコンお客様ご登録係」まで連絡のうえ、登録の削除の手続きをしてください。

パソコンお客様ご登録係

TEL／043-278-5997

受付時間／9:00～17:00（土・日、祝日、特別休日を除く）

3 ハードディスクのデータ消去

1 パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきております。これらのパソコンの中のハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

したがって、そのパソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。

ところが、このハードディスク上に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。

「データを消去する」という場合、一般に

- ◆ データを「ごみ箱」に捨てる
- ◆ 「削除」操作を行う
- ◆ 「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ◆ ソフトで初期化（フォーマット）する
- ◆ 付属のリカバリ CD-ROM を使い、購入時の状態に戻す

などの作業をするとと思いますが、これらのことをして、ハードディスク上に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータは見えなくなっているという状態なのです。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。

したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、パソコンのハードディスク上の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

パソコンユーザが、廃棄・譲渡などを行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、ユーザの責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、十分な確認を行う必要があります。

本製品には、パソコン上のデータを消去する機能があります。

参照 ➔ 「本項 2 ハードディスクの内容を消去する」

この機能は、WindowsなどのOSによるデータの消去や初期化とは違い、ハードディスクの全領域（*）にデータを上書きするため、データが復元されにくくなります。

ただし、本機能を使用したデータを消去した場合でも、特殊な装置の使用によりデータを復元される可能性はゼロではありませんので、あらかじめご了承ください。

* 内蔵ハードディスクからの再セットアップが可能な製品は、再セットアップに必要な領域は削除されません。

データ消去については、次のホームページも参照してください。

URL <http://dynabook.com/pc/eco/haiki.htm>

2 ハードディスクの内容を消去する

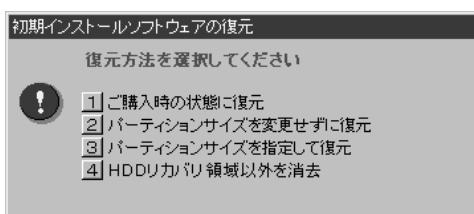
パソコン上のデータは、削除操作をしても実際には残っています。普通の操作では読み取れないようになっていますが、特殊な方法を実行すると削除したデータでも再現できてしまいます。そのようなことができないように、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、他人に見られたくないデータを読み取れないように、消去することができます。

2100シリーズの場合は、東芝推奨ドライブをご使用ください。

参照 ➔ 推奨ドライブについて「8章 2-②- モデルを確認する」

【S7シリーズの場合】

- 1 パソコンの電源を切る
 - 2 ACアダプタと電源コードを接続する
 - 3 キーボードの①（ゼロ）キーを押しながら、パソコンの電源を入れる
- [初期インストールソフトウェアの復元] 画面が表示されます。

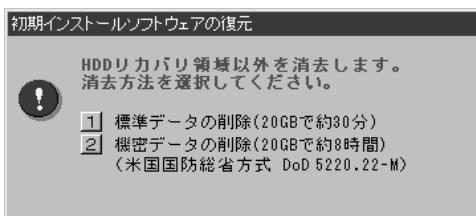


4 ④キーを押す

「HDDリカバリ領域以外は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

5 ⑤キーを押す

データの消去方法を選択する画面が表示されます。
処理を中止する場合は、⑥キーを押してください。



6 目的にあわせて、①または②キーを押す

通常は、①キーを押してください。データを読み取れなくなります。
より確実にデータを消去するためには、②キーを押してください。数時間がかかりますが、HDDリカバリ領域（再セットアップ用のデータ領域）を除き、データは消去されます。

【2100シリーズの場合】

1 パソコンの電源を切る

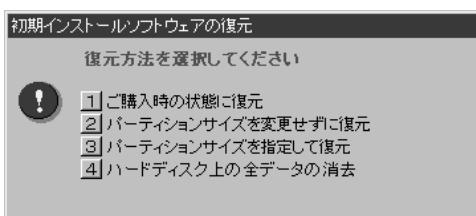
2 ACアダプタと電源コードを接続する

3 パソコンにCD-ROMドライブを接続し、「リカバリ CD-ROM Disk1」をセットする

4 キーボードのF12キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

5 →または←キーでCDのアイコン(●)にカーソルを合わせ、Enterキーを押す

【初期インストールソフトウェアの復元】画面が表示されます。

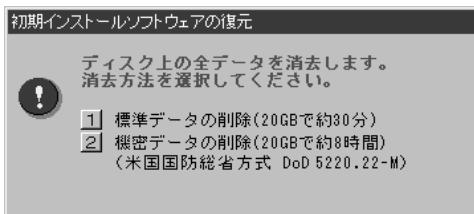


6 ④キーを押す

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

7 ⑥キーを押す

データの消去方法を選択する画面が表示されます。
処理を中止する場合は、⑨キーを押してください。



8 目的にあわせて、①または②キーを押す

通常は、①キーを押してください。データを読み取れなくなります。
より確実にデータを消去するためには、②キーを押してください。数時間がかかりますが、データは消去されます。

3 アプリケーションについて

1) 複数のユーザで使用する場合

複数のユーザで使用できる Windows XP では、システム全体を変更できるユーザ（コンピュータの管理者）と、できる操作に制限のあるユーザ（制限付きアカウント）をあらかじめ設定しますが、プレインストールされているアプリケーションの中に、ログオンするユーザによって使用に制限がある場合があります。

参照 複数のユーザで使用する場合について『オンラインマニュアル』

アプリケーション	使用できるユーザ		複数のユーザで同時に使用できる	制限付きアカウントでのアイコン表示
	すべてのユーザ	コンピュータの管理者のみ		
Norton AntiVirus	○		○	○
The 翻訳インターネット	○		○	○
駅すぱあと	○		○	
ekitanExpress Online		○		○ * 1
The 翻訳インターネット	○		○	○
LaLaVoice	○ * 2		○	○
内蔵モデム 地域選択ユーティリティ		○		○ * 1
PC 診断ツール		○		○ * 1
東芝 HW セットアップ	○			— * 3
東芝省電力ユーティリティ		○	○	— * 3
東芝パスワード ユーティリティ	○ * 4			○
東芝 SD メモリカード フォーマット		○		○
ConfigFree		○		○ * 1
Fn-esse	○		○	○
DION かんたん設定ツール		○	○	○ * 1
@nifty でインターネット		○		○ * 1

* 1 コンピュータ管理者（インストールしたユーザ）以外も、デスクトップまたはスタートメニューにアイコンがありますが、使用できるユーザはコンピュータ管理者のみです。

* 2 制限付きアカウントでのご使用は動作保証外となります。

* 3 コントロールパネルにはアイコンが表示されます。

* 4 制限付きアカウントで Windows にログオンしている場合は、トークンの作成など一部の機能は使用できません。

2 アプリケーションを再インストールする

本製品にプレインストールされているアプリケーションやドライバを一度削除してしまっても、必要なアプリケーションやドライバを指定して再インストールすることができます。

すでにインストールされているアプリケーションを再インストールするときは、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」または各アプリケーションのアンインストールプログラムを実行して、アンインストールを行ってください。アンインストールを行わずに再インストールを実行すると、正常にインストールできない場合があります。ただし、上記のどちらの方法でもアンインストールが実行できないアプリケーションは、上書きでインストールしても問題ありません。

1 S7シリーズの場合

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アプリケーションの再インストール] をクリックする
- 2 表示されるメッセージに従ってインストールする
[ファイルのダウンロード] 画面が表示された場合は、[開く] ボタンをクリックしてください。

2 2100シリーズの場合

- 1 外付け CD-ROM ドライブを接続し、アプリケーション CD-ROM をセットする
アプリケーション CD-ROM は、複数枚入っている場合があります。
再インストールしたいアプリケーションやドライバが CD に入っていないかった場合は、CDを入れ替えてください。
- 2 表示されるメッセージに従ってインストールする
[ファイルのダウンロード] 画面が表示された場合は、[開く] ボタンをクリックしてください。

3 アプリケーションの問い合わせ先

* 2003年3月現在の内容です。

本製品に添付されているアプリケーションやプロバイダの問い合わせ先は、次のとおりです。

各アプリケーションのユーザ登録については、それぞれの問い合わせ先までお問い合わせください。

Acrobat Reader／ConfigFree／Fn-esse／Internet Explorer／
Outlook Express／Windows Media Player／東芝HWセットアップ／
PC診断ツール／東芝コントロール／東芝省電力ユーティリティ／
内蔵モデム用地域選択ユーティリティ／東芝パスワードユーティリティ／
東芝SDメモリカードフォーマット

東芝（東芝PCダイヤル）

お問い合わせの際には「お客様登録番号」をお伺いしております。あらかじめ「お客様登録」を行っていただきますようお願い申し上げます。

ナビダイヤル 0570-00-3100（サポート料無料）

受付時間 : 9:00～19:00（年中無休）

システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合がございます。
なお、システムメンテナンスの日程については、dynabook.com上にてお知らせいたします。

電話番号はお間違えのないようお確かめのうえ、おかげくださいますようお願いいたします。
お客様からの電話は全国6箇所（千葉市、大阪市、名古屋市、福岡市、仙台市、札幌市）の最寄りの拠点に自動的に接続されます。

拠点までの電話料金は有料となります。また海外からの電話、携帯電話などで上記電話番号に接続できないお客様、NTT以外とマイラインプラスなどの回線契約をご利用のお客様は、043-298-8780でお受けしています。

ご注意

- ・ ナビダイヤルでは、ダイヤル後に通話区間料金のアナウンスが流れます。これはお客様から全国6箇所の最寄りの拠点までの通常電話料金で、サポート料金ではありません。
- ・ ナビダイヤルでは、NTT以外とマイラインプラスをご契約の場合でも、自動的にNTT回線を使用することになりますので、あらかじめご了承ください。

The翻訳インターネット

東芝翻訳サポートセンタ

TEL : フリーダイヤル 0120-1048-37
 *携帯電話、PHSをご利用の場合 : 03-5465-7290

受付時間 : 10:00~12:00、13:00~17:00
 (土・日・祝日ならびに本サポートセンタ臨時休業日を除く)

E-mail : honyaku@toshiba.co.jp

ホームページ : <http://www.hon-yaku.toshiba.co.jp/>

※「The翻訳インターネット」は、AOL専用ブラウザおよび、メーラーに連携させることはできません。

駅すぱあと

株式会社ヴァル研究所 ユーザーサポートセンター

TEL : 03-5373-3522

受付時間 : 10:00~12:00、13:00~17:00 (土・日・祝日を除く)

FAX : 03-5373-3523

E-mail : support@val.co.jp
 *ユーザー登録されたお客様が対象となります。

ホームページ : <http://ekiworld.net/>

Norton AntiVirus

●技術的なお問い合わせ

シマンテックテクニカルサポートセンター

なお、上記サポートセンターをご利用いただくためには以下のシマンテックホームページにてカスタマーIDの取得が必要です。

ホームページ : <http://www.symantecstore.jp/oem/toshiba/>
 TEL : 03-5836-2621
 受付時間 : 10:00~12:00、13:00~17:00
 (土・日・祝日・年末年始を除く)
 FAX : 03-5836-2623

※本製品でNorton AntiVirusをご使用の場合、電話によるサポートは製品のご使用を開始されてから90日間となります。それ以降は、有償サポートをご購入いただくかパッケージ製品へアップグレードしていただくことでサポートを受けていただくことが可能となります。

●カスタマーID取得、およびご購入前の一般的なご質問に関するお問い合わせ

コンシューマ・カスタマーサービスセンター

TEL : 03-5836-2654
 受付時間 : 10:00~12:00、13:00~17:00
 (土・日・祝日・年末年始を除く)
 FAX : 03-5836-2655

ekitanExpress Online

ekitanExpress Onlineお問い合わせ窓口

電子メールでのみ受け付けております。

受付時間 : 24時間

※Webmasterからの返信は、基本的に平日（9:00～17:00）の対応とさせていただいております。

また、内容により返信できない場合、回答に日数を要する場合もありますので、あらかじめご了承ください。

E-mail : express-support@ekitan.com

ホームページ : <http://express.ekitan.com/>

フレッツADSL

<登録に関するお問い合わせ>

東芝ヘルプデスクセンター

TEL : 043-278-7522

受付時間 : 9:00～17:00

(土・日・祝祭日・年末年始および弊社特別休日を除く)

Yahoo! BB

Yahoo! BBカスタマーサポートセンター

TEL : 0120-919-820

携帯電話・PHSからのお問い合わせは 03-6688-5001 (東京)

受付時間 : 24時間 年中無休

E-mail : info@ybb-support.jp

ホームページ : <http://bb.yahoo.co.jp>

@nifty

@nifty入会センター

TEL : 0120-816-042

(携帯電話／PHS／海外の場合) 03-5753-2374

(電話料金はお客様ご負担となります。)

受付時間 : 毎日 9:00～21:00

※ビルの電源工事などによりお休みさせていただく場合があります。

E-mail : https://www.nifty.com/support/madoguchi/form_join.htm

ホームページ : <http://www.nifty.com/support/madoguchi/>

DION

KDDIカスタマーサービスセンター

受付時間 : 9:00~21:00 (土・日・祝日も受付中)

●サービス内容に関するお問合わせ

TEL : 0077-7192 (無料)

E-mail : ADSLに関して bbsupport@dion.ne.jp

その他のサービスに関して support@dion.ne.jp

●接続・設定に関するお問合わせ

TEL : 0077-7084 (無料) ADSLコースについては24時間受付中!

※夜間はお問合せ内容によって、翌日にご回答させていただく場合があります。

E-mail : ADSLに関して bbtech@dion.ne.jp

その他のサービスに関して tech_support@dion.ne.jp

付録

本製品について、外形や各インターフェースなどの
ハードウェア仕様や、技術基準適合について記して
います。

-
- 1 本製品の仕様 206
 - 2 無線 LAN の仕様 214
 - 3 各インターフェースの仕様 216
 - 4 技術基準適合について 219
 - 5 東芝 PC ダイヤルのご案内 230

1 本製品の仕様

1 製品仕様

機種	S7／2100 シリーズ	
プロセッサ	CPU	PC診断ツールを参照
メモリ	ROM	512KB (フラッシュROM)、ACPI 1.0b、 APM1.2、Plug and Play 1.0a
	RAM	PC診断ツールを参照
	ビデオRAM	32MB
表示機能	表示装置	12.1型TFT方式カラー液晶ディスプレイ
	グラフィック表示	横1024 x 縦768 1画面
入力装置	キーボード	OADG109Aキーイニシャル 85キー (文字キー、制御キーの合計)
	ポインティングデバイス	タッチパッド内蔵
補助記憶装置	ハードディスクドライブ	1台内蔵
インターフェース	RGB	1個装備
	USB	2個装備 USB2.0準拠 *1
	PCカード	1個装備 PC Card Standard準拠 (TYPE II) CardBus対応
	SDメモリカード	1個装備
	モデム	1個装備 (ITU-T V.90準拠)
	LAN	1個装備 100BASE-TX/10BASE-T
	無線LAN	1個装備 IEEE802.11b準拠 11Mbpsまで対応
	サウンド	マイク入力 (モノラル) ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) ヘッドホン出力 (ステレオ) ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) 内蔵スピーカ (モノラル) 装備
カレンダ機能	日付、時計機能を標準装備 充電型電池によるバックアップ	
電源	ACアダプタ	AC100V-240V～ (50Hz、または60Hz)
	バッテリ	バッテリパック (標準装備) Li-Polymer 10.8V/1,600mAh 大容量バッテリパック (2100シリーズの場合は別売り) Li-ion 10.8V/3,600mAh
最大消費電力	約45W	
使用環境条件	温度：5°C～35°C 湿度：20%～80%Rh	
外形寸法 (突起部除く)	286 (幅) x 229 (奥行) x 14.9～19.8(高さ) mm	
質量	約1.09kg	

- * 1 従来のUSB1.1規格と完全な互換性を持つとともに、USB1.1と比べて40倍（理論値）の高速データの転送の可能なHighspeedモードをサポートします。
ただし、すべてのUSB対応機器の動作を保証するものではありません。

【PC診断ツール】

基本仕様の一部は「PC診断ツール」で確認することができます。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [東芝ユーティリティ] → [PC診断ツール] をクリックする
- 2 [基本情報の表示] ボタンをクリックする

メモ

「PC診断ツール」で表示される内容は、その時点での設定内容です。購入後に設定を変更された場合は、変更後の設定内容が表示されます。ただし [CPU] の項目には、搭載されているCPUの最大クロック数（固定値）が表示され、これはユーティリティなどによる設定値には影響されません。

【電源コードの仕様】

本製品に同梱されている電源コードは、電気用品安全法に準拠しています。
日本以外の地域で使用する場合は、当該国・地域法令・安全規格に適合した電源コードを購入してください。

使用できる電圧（AC）は100Vです。必ずAC100Vのコンセントで使用してください。

【ACアダプタの仕様】

入力 : AC100-240V～、1.1-0.6A、50-60Hz

出力 : DC15V 3A

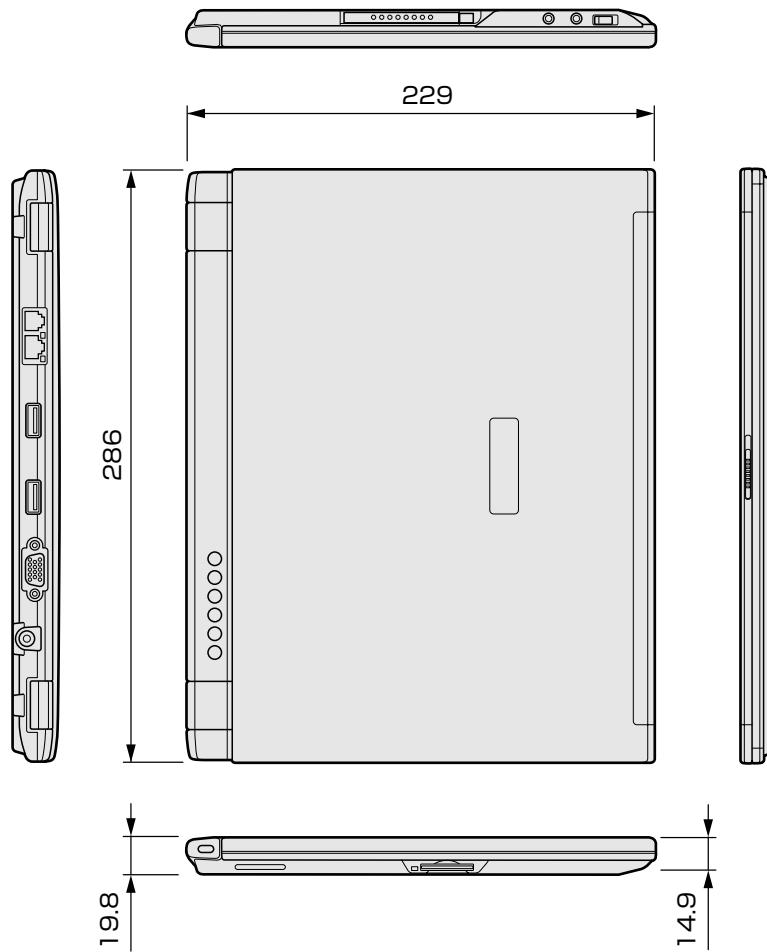
最大消費電力 : 約45W（電源スイッチオン時）

最小消費電力 : 約1.1W（スタンバイ時）

約0.7W（電源スイッチオフ時）

2 外形寸法図

※数値は突起部を含みません。(単位 mm)



3 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

参照 表示可能色数の詳細について「3章 4-1 表示可能色数」

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。モードナンバーは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバーによってモードを指定してくる場合、そのナンバーが図のナンバーと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
0.1	VGA テキスト	40×25字	8×8	16/256K	70
2,3		80×25字	8×8	16/256K	
0*,1*		40×25字	8×14	16/256K	
2*,3*		80×25字	8×14	16/256K	
0+,1+		40×25字	8(9)×16	16/256K	
2+,3+		80×25字	8(9)×16	16/256K	
4,5	VGA グラフィックス	320×200ドット	8×8	4/256K	70
6		640×200ドット	8×8	2/256K	
7	VGA テキスト	80×25字	8(9)×14	モノクロ	60
7+		80×25字	8(9)×16	モノクロ	
D	VGA グラフィックス	320×200ドット	8×8	16/256K	60
E		640×200ドット	8×8	16/256K	
F		640×350ドット	8×14	モノクロ	
10		640×350ドット	8×14	16/256K	
11		640×480ドット	8×16	2/256K	
12		640×480ドット	8×16	16/256K	
13		320×200ドット	8×8	256/256K	
—	SVGA グラフィックス	640×480ドット	—	256/256K	60/75/85/ 100
—		800×600ドット	—	256/256K	
—		1024×768ドット	—	256/256K	
—		1280×1024ドット*1	—	256/256K	
—		1600×1200ドット*1	—	256/256K	60/75/85
—		1920×1440ドット*1	—	256/256K	60
—		2048×1536ドット*1	—	256/256K	

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
—	SVGA グラフィックス	640×480ドット	—	64K/64K	60/75/85/ 100
—		800×600ドット	—	64K/64K	
—		1024×768ドット	—	64K/64K	
—		1280×1024ドット*1	—	64K/64K	
—		1600×1200ドット*1	—	64K/64K	60/75/85
—		1920×1440ドット*1	—	64K/64K	60
—		2048×1536ドット*1	—	64K/64K	
—		640×480ドット	—	16M/16M	60/75/85/ 100
—		800×600ドット	—	16M/16M	
—		1024×768ドット	—	16M/16M	
—		1280×1024ドット*1	—	16M/16M	
—		1600×1200ドット*1	—	16M/16M	60/75/85
—		1920×1440ドット*1	—	16M/16M	60
—		2048×1536ドット*1	—	16M/16M	

* 1 : LCD に表示する場合は、実際の画面 (1024 × 768) 内に、仮想スクリーン表示します。

注) 一部の画面モードはディファレントリフレッシュモード、マルチモニターでは使用できません。

4 ハードウェアリソースについて

メモリマップ、I/O ポートマップ、IRQ 使用リソース、DMA 使用リソースは次の方法で確認できます。

使用している環境（ハードウェア／ソフトウェア）によって変更される場合があります。

- [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [システム情報] をクリックする
- 画面左側のツリーから [ハードウェアリソース] をダブルクリックする
- 調べたい項目をクリックする
 - メモリマップ : [メモリ]
 - I/O ポートマップ : [I/O]
 - IRQ 使用リソース : [IRQ]
 - DMA 使用リソース : [DMA]

5 内蔵モデムについて

モデムボードを取り付けることによって、モデム機能を使用できます。あらかじめモデムボードが取り付けられているモデルの場合は、取り付け／取りはずしの作業は必要ありません。また、モデムボードを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。

⚠ 警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると危険です。

⚠ 注意

- モデムボードの取り付け／取りはずしを行う場合は、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後には、モデムボードの取り付け／取りはずしを行わないでください。内部が熱くなっているため、やけどのおそれがあります。モデムボードの取り付け／取りはずしは、電源を切った後30分以上たってから、行うことをおすすめします。
- モデムボードを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- パソコン内部にネジや異物を残さないでください。

お願い

- モデムボードの取り付け、取りはずし、規格（PTT）ラベルの確認以外の目的でパソコン本体のパームレストを開けないでください。

モデムボードの取り付け／取りはずし

【取り付け】

- ① データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- ② パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- ③ ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす
- ④ ハードディスクドライブカバーのネジ 2 本をはずし、ハードディスクカバーと ハードディスクドライブを取りはずす
- ⑤ 増設メモリカバー以外の、パソコン本体裏面のネジ 15 本をすべて取りはずす
- ⑥ パソコン本体を表に返し、キーボードホルダをはずし、その下のネジ 2 ケ所をは ずす
- ⑦ キーボードをはずし、ネジ 4 本をはずす
- ⑧ パソコン本体を裏返して、ベースカバーを取りはずす
- ⑨ モデムボードにハーネスを取り付ける
- ⑩ タッチパッドの裏にモデムボードを取り付け、固定用のネジ 2 本でとめる
- ⑪ 手順⑧ではずしたベースカバーを取り付け、手順⑥⑦ではずしたキーボードを取 り付け、手順⑤ではずしたネジ 15 本でとめる
- ⑫ ハードディスクドライブとハードディスクカバーを取り付け、手順④ではずした ネジ 2 本でとめる
- ⑬ バッテリパックを取り付ける

【取りはずし】

- ① データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- ② パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- ③ ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす
- ④ ハードディスクドライブカバーのネジ 2 本をはずし、ハードディスクカバーと
　　ハードディスクドライブを取りはずす
- ⑤ 増設メモリカバー以外の、パソコン本体裏面のネジ 15 本をすべて取りはずす
- ⑥ パソコン本体を表に返し、キーボードホルダをはずし、その下のネジ 2ヶ所をは
　　ずす
- ⑦ キーボードをはずし、ネジ 4 本をはずす
- ⑧ パソコン本体を裏返して、ベースカバーを取りはずす
- PTT ラベルを確認することができます。
- ⑨ モデム固定用のネジ 2 本をはずし、モデムボードを取りはずす
- ⑩ モデムボードからケーブルを取りはずす
- ⑪ 手順⑧ではずしたベースカバーを取り付け、手順⑥⑦ではずしたキーボードを取
　　り付け、手順⑤ではずしたネジ 15 本でとめる
- ⑫ ハードディスクドライブとハードディスクカバーを取り付け、手順④ではずした
　　ネジ 2 本でとめる
- ⑬ バッテリパックを取り付ける

2 無線 LAN の仕様

1 ネットワーキング特性

互換製品	無線LANのIEEE802.11規格に準拠する製品 (DSSS) Wi-Fi Alliance認定のWi-Fiロゴ取得製品	
ネットワークOS	Microsoft Windows® Networking	
ホストOS	Microsoft Windows® 2000 : NDIS5 Miniport Driver Microsoft Windows® XP : NDIS5.1 Miniport Driver	
メディアアクセスプロトコル	CSMA/CA (Collision Avoidance) with Acknowledgment (ACK)	
データレート	High	11 Mb/s
	Medium	5.5 Mb/s
	Standard	2 Mb/s
	Low	1 Mb/s
	転送レート自動選択機構を使用	

2 無線特性

無線 LAN の無線特性は、製品を購入した国、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

各国で適用される無線規制については、同梱の別紙「無線 LAN について」を確認してください。

無線周波数帯	2.4GHz (2400-2483.5 MHz)
変調方式	直接拡散方式 CCK (転送レート High, Medium) DQPSK (転送レート Standard) DBPSK (転送レート Low)

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 サポートする周波数帯域

無線 LAN がサポートする 2.4GHz 帯のチャネルは、国内で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線 IEEE802.11 チャネルセット」参照）。各国で適用される無線規制については、同梱の別紙「無線 LAN について」をご覧ください。

【無線 IEEE802.11 チャネルセット】

周波数帯域	2400-2483.5 MHz
チャネルID	
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457 *1
11	2462

* 1 : 購入時に設定されているチャネルです。

無線 LAN のチャネル設定は、次のように管理されます。

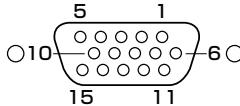
- インフラストラクチャで無線 LAN 接続する場合、ステーションが自動的に無線 LAN アクセスポイントのチャネルに切り替えます。異なるアクセスポイント間をローミングする場合は、ステーションが必要に応じて自動的にチャネルを切り替えます。ステーションはチャネル 1 から 11 までを切り替えます。無線 LAN アクセスポイントの設定チャネルもこの範囲にする必要があります。
- "ピア・ツー・ピア" モードで無線 LAN 接続する場合は、チャネル 10 が使用されます。

3 各インターフェースの仕様

1 RGBインターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	O
2	CGV	緑色ビデオ信号	O
3	CBV	青色ビデオ信号	O
4	Reserved	予約	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	Reserved	予約	
10	GND	信号グランド	
11	Reserved	予約	
12	SDA	SDA通信信号	I/O
13	-CHSYNC	水平同期信号	O
14	-CVSYNC	垂直同期信号	O
15	SCL	SCLデータクロック信号	I/O

コネクタ図



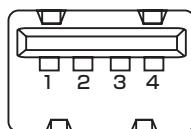
高密度D-SUB 3列15ピンメス

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
信号方向 (I)：パソコン本体への入力
信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

2 USBインターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	VCC	+5V	
2	-Data	マイナスデータ	I/O
3	+Data	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グランド	

コネクタ図



信号名：ーがついているのは、負論理値の信号です

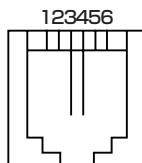
信号方向 (I) : パソコン本体への入力

信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

3 モデムインターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	-	ノーコンタクト	
2	-	ノーコンタクト	
3	TIP	電話回線	I/O
4	RING	電話回線	I/O
5	-	ノーコンタクト	
6	-	ノーコンタクト	

コネクタ図

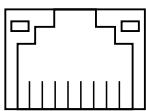


信号名：ーがついているのは、負論理値の信号です

信号方向 (I) : パソコン本体への入力

信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

4 LANインターフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TX	送信データ (+)	O
2	-TX	送信データ (-)	O
3	RX	受信データ (+)	I
4	Unused	未使用	
5	Unused	未使用	
6	-RX	受信データ (-)	I
7	Unused	未使用	
8	Unused	未使用	
コネクタ図			
 87654321			

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です

信号方向 (I) : パソコン本体への入力

信号方向 (O) : パソコン本体からの出力

4 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

国際エネルギー ستارプログラムについて

当社は国際エネルギー ستارプログラムの参加事業者として、
本製品が国際エネルギー ستارプログラムの対象製品に関する基
準を満たしていると判断します。



参照 ➤ 省電力設定について 「5章 2 省電力の設定をする」

FCC information

Product name : PORTÉGÉ R100

Model number : PPR10

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's external monitor port, USB port, and Microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.

9740 Irvine Boulevard

Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity

TOSHIBA declares, that the product: PPR10 conforms to the following Standards:

Supplementary Information : "The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/5/EEC."

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives.
Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第50条1項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



認定番号

A02-0604JP

●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2003年3月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。

内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

●自動再発信の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。

お願い

- ● 雷雲が近づいたときは、モジュラープラグを電話回線用モジュラージャックから抜いてください。電話回線に落雷した場合、内蔵モデムやパソコン本体が破壊されるおそれがあります。
- ● 内蔵モデムを使用する場合は、ご使用になる地域にあわせて設定が必要です。

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.

In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

1 NOTICE : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.

For the REN of your modem, refer to your modem's label.

NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

The IC registration number of the modem is shown below.

Canada: 1353A-L4INT

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.

The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in your modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

AT%TE=1

ATS133=1

AT&F

AT&W

AT%TE=0

ATZ

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
 - In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
 - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
 - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
 - This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
 - Some parameters required for compliance with Telecom's PTC
- Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
- a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.

c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.

- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.

- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:

ATB0 (CCITT operation)

AT&G2 (1800 Hz guard tone)

AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)

ATS0=0 (not auto answer)

ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)

ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)

ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)

- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:

(a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.

(b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.

- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.

Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1

Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.

- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.

Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.

- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.

- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.

- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for NZ\$1237.50 will be sent under separate cover.

5 東芝 PC ダイヤルのご案内

パソコンの操作について、困ったときは、東芝 PC ダイヤルに連絡してください。
技術的な質問、問い合わせに電話で対応します。

問い合わせの際には「お客様登録番号」を伺っています。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の「お客様カード」またはインターネット経由で登録できます。

1) 東芝 PC ダイヤル

ナビダイヤル

全国共通電話番号

0570-00-3100

(サポート料無料)

※受付時間／9:00～19:00 (年中無休)

システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合がございます。

なお、システムメンテナンスの日程については、dynabook.com 上にてお知らせいたします。

[電話番号はまちがえないよう、確認してかけてください]

電話は全国 6箇所（千葉市、大阪市、名古屋市、福岡市、仙台市、札幌市）の最寄りの拠点に自動的に接続されます。

ナビダイヤルでは、ダイヤル後に通話区間料金のアナウンスが流れます。これは全国 6箇所の最寄りの拠点までの通常電話料金で、サポート料金ではありません。

ナビダイヤルでは、NTT 以外とマイラインプラスを契約している場合でも、自動的に NTT 回線を使用することになります。

海外からの電話、携帯電話などで上記電話番号に接続できないお客様、NTT 以外とマイラインプラスなどの回線契約をご利用のお客様は、043-298-8780 でお受けしています。

- 「東芝 PC FAX 情報サービス」からも、商品情報、Q&A などの情報を FAX (G3 規格) で入手することができます。詳しくは巻末を確認してください。
- 「東芝 PC テクノセンタ」(東京／大阪) では対面相談を受け付けています（技術相談／作業は有償）。詳しくは『東芝 PC サポートのご案内』を確認してください。

円滑に対応するために、次ページの「トラブルチェックシート」でパソコンの使用環境について確認してから、東芝 PC ダイヤルに問い合わせてください。

2) ブラックチェックシート

Q.1 使用しているパソコンの機種名は？（本書表紙右下に表記）

機種名： お客様登録番号：

保証書などで以下を確認してください。

（製造番号： 、購入店： 、購入日： など）

Q.2 使用しているソフトウェア環境は？

Windows XPなど、使用しているシステムとアプリケーションは？

OS（システム名）： その他：

Q.3 どのような症状が起きましたか？

症状：

Q.4 どのような操作をした後、症状が発生するようになりましたか？

操作内容：

Q.5 エラーメッセージは表示されましたか？

表示内容：

Q.6 その症状はどれくらいの頻度で発生しますか？

一度発生したが、その後発生しない

電源を切らないと発生するが、電源を切っても再起動すれば発生しない

電源を切ってから再起動しても必ず発生する その他：

Q.7 その症状が発生するのは決まった操作の後ですか？

ある一定の操作をすると発生する

どんな操作をしても発生する その他：

Q.8 インターネットや通信に関する相談の場合

プロバイダ名：

使用モデム名：

使用回線： 内線発信アリ マイライン契約アリ ISDN

携帯 DSL／ケーブルTV

Q.9 周辺機器に関する相談の場合

機器名（製品名）：

メーカー名：

オペレーティングシステムのバージョンやCPUの種類について東芝PCダイヤルから聞かれた場合は、「PC診断ツール」の「[基本情報の表示]」ボタンをクリックして確認してください。

さくいん

記号

	キー	44
	キーを使ったショートカットキー	49

A

AC アダプタの接続	12
Alt キー	44
Arrow Mode LED	45

B

BackSpace キー	45
BATTERY	121
Battery LED	39, 95
BIOS セットアップ	117
BOOT PRIORITY	124
Break キー	45

C

Caps Lock LED	44
Caps Lock 英数キー	44
ConfigFree	68
CONFIGURATION	127
CPU 周波数の設定	114
Ctrl キー	44

D

DC IN LED	27, 39
Del キー	45
Disk LED	39
DISPLAY	124
DMA 使用リソース	210
DRIVES I/O	127
DVD 再生	103
dynabook.com	146

E

End	49
Enter キー	45
Esc キー	44

F

Fn キー	45
Fn キーを使った特殊機能キー	47

H

HDD PASSWORD	123
HDD の起動	115
HDD パスワードの削除	140
HDD パスワードの種類	139
HDD パスワードの登録	140
HDD パスワードの入力	142
HDD パスワードの変更	141
Home	49

I

Ins キー	45
I/O ポートマップ	210
IRQ 使用リソース	210

L

LAN コネクタ	40
LAN のウェイクアップ	116
LEGACY EMULATION	129

M

MEMORY	120
MS- IME	51

N

Numeric Mode LED	45
------------------------	----

O

OS の起動	114
OTHERS	125

P

PASSWORD	123
Pause キー	45
PC CARD	128
PCI BUS	127
PCI LAN	129
PC カードスロット	40, 77
PC カードの取り付け	77
PC カードの取りはずし	78
PERIPHERAL	128
PgDn	49
PgUp	49
Power LED	27, 39
PrtSc キー	45

R

RGB コネクタ	40, 87
----------------	--------

S

SD メモリカードスロット	38, 80
SD メモリカードのセット	81
SD メモリカードの取り扱い	84
SD メモリカードの取り出し	82
SD メモリカードのフォーマット	82
Shift キー	44, 45
Space キー	44
SysRq キー	45
SYSTEM DATE/TIME	120

T

Tab キー	44
--------------	----

U

USB キーボード／マウス	115
USB コネクタ	40, 85
USB 対応機器の取り付け	85
USB 対応機器の取りはずし	86
USB フロッピーディスク	116

W

WEP 機能	64
Windows セットアップ	14

ア

アプリケーション CD-ROM	179
アプリケーションキー	45
アプリケーションを再インストールする	199
アロー状態	48
安心してお使いいただくために	1

イ

インスタントセキュリティ機能	47
インターネットボタン	39

エ

液晶ディスプレイの取り扱い	56
---------------------	----

オ

オーバレイキー	45
大文字ロック状態	50
オンラインマニュアル	1
音量を上げる	57
音量を下げる	57

さくいん

力

海外でインターネットに接続する	73
解像度を変更する	56
書き込み可能状態 (SD メモリカード)	81
書き込み禁止状態 (SD メモリカード)	81
カタカナ／ひらがなキー	45
カナロック状態	50
漢字キー	44
漢字変換	51

キ

キーボード	38, 44
キーボードによるスタンバイ復帰	115
キーボードの取り扱い	46
起動時の表示装置	114
起動するドライブを変更する	28
休止状態	33

ク

クリック	52, 53
------	--------

コ

コントロールパネル	146
コンピュータの管理者	198

シ

システムインジケータ	38
システムの復元	178

ス

スーパーバイザパスワードの設定	138
スーパーロングライフ	103

数字ロック状態	48
スクロール	53
スクロールロック状態	48
スタンバイ	32
スピーカ	41, 57

セ

制限付きアカウント	198
セキュリティロック・スロット	38

ソ

増設メモリスロット	41, 89
-----------	--------

タ

大容量バッテリ LED	39, 95
大容量バッテリパックの取り付け	107
大容量バッテリパックの取りはずし	109
タッチパッド	38, 52
タッピング	53
ダブルクリック	52, 53

ツ

通風孔	38
-----	----

テ

ディスプレイ	38, 55
ディスプレイ開閉ラッチ	13, 38
デバイスの設定	113
デバイスを切り替える	69
電源コードの接続	12
電源コードの取り扱い	43
電源コネクタ	40
電源スイッチ	26, 38
電源に接続する	12

電源を入れる（1回目）	13
電源を入れる（2回目以降）	26
電源を切る	30

ト

トークンの作成	133
東芝HWセットアップ	113
東芝PCお客様登録	23
東芝SDメモリカードフォーマット	83
東芝省電力ユーティリティ	102
東芝パスワードユーティリティ	131
時計用バッテリ	97
ドッキングポート	41, 107
ドラッグアンドドロップ	52, 53

ナ

内蔵LAN	116
内蔵モデム用地域選択ユーティリティ	73

ニ

日本語入力システム	51
入力モード	51

ネ

ネットワーク設定を切り替える	70
ネットワークの診断を行う	69
ネットワークブートプロトコル	115

ノ

ノーマル	103
------	-----

ハ

パーティションの設定	189
ハードディスクの内容を消去する	195

ハイパワー	103
パスワードを忘れてしまった場合	137
パソコン本体の取り扱い	43
バックライト用蛍光管	56
バッテリ駆動	94
バッテリ駆動で使用できる時間	99
バッテリ充電量が減少したとき	97
バッテリ充電量の確認	95
バッテリの充電方法	98
バッテリパック	41, 94
バッテリパックの取りはずし／取り付け	101
バッテリを長持ちさせるには	100
パネルスイッチ機能	35
半／全キー	44

ヒ

左ボタン	38, 52
ビデオモード	209
表示可能色数	55
表示装置を切り替える	87
標準システムインストール	
起動ディスクの作成	186

フ

ファンクションキー	44
フルパワー	103
プレゼンテーション	103

ヘ

ヘッドホン出力端子	40
変換キー	45

ホ

ボリュームコントロール	57
-------------	----

さくいん

マ

- マイク入力端子 40
マスタHDDパスワード 139

ミ

- 右ボタン 38, 52
ミュート（消音） 57

ム

- 無線LAN 58
無変換キー 44

メ

- メールボタン 39
メモリの取り付け／取りはずし 90
メモリマップ 210
メモリ容量の確認 91

モ

- モジュラージャック 40

ヤ

- 矢印キー 45

ユ

- ユーザHDDパスワード 139
ユーザ登録 23
ユーザパスワードの削除 134
ユーザパスワードの登録 131
ユーザパスワードの入力 136
ユーザパスワードの変更 135

ラ

- ライトプロテクトタブ
(SDメモリカード) 80

リ

- リカバリ 178
リカバリCD-ROM 179
リリース情報 1

ロ

- ローマ字キー 45
ロングライフ 103

ワ

- ワイヤレスコミュニケーションLED
..... 39, 66
ワイヤレスコミュニケーションスイッチ
..... 40, 66